

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コクリツダクホシシマネダク 国立大学法人 島根大学							
フリガナ大学の名称	シマネダク 島根大学 (Shimane University)							
大学本部の位置	島根県松江市西川津町1060							
大学の目的	豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と高度な専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行う。							
新設学部等の目的	<p>【材料エネルギー学部（材料エネルギー学科）】</p> <p>ア：養成する人材像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材 ・材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材 <p>イ：教育研究上の目的（目標としての学修成果）</p> <p>材料工学に関する専門性を身に付け、材料が持つ複雑性や多面性・アプローチの多様性を理解して得られる課題抽出能力・表現力・社会実装力の育成を通じて、新しい価値を創出できる創造性豊かな高度専門人材を養成することを目的とする。</p> <p>（目標としての学修成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー課題を理解し、材料工学分野の知識・技能を身につけ新材料の研究開発を先導することができる。 ・持続可能社会形成に関する現実課題を理解し、材料工学分野の知識・技術を身に付け、材料工学が社会に果たすべき役割を説明できる。 ・データ活用技術を習得し、材料工学分野を始め広く応用することができる。 ・国際的な動向を認知し、広い視野、教養と協調性により、多様な人とコミュニケーションを取ることができる。 ・未知の課題に粘り強く取り組み、デザイン力をもって、創造的に解決策を見出すことができる。 ・企業課題を的確にとらえ、身につけた知識・技術が実社会でどう生かせるかを理解し、実践することができる。 <p>ウ：養成する人材の進路</p> <p>金属・鉄鋼、化学関連などの製造業・素材メーカーや情報関連企業のエンジニア（研究者・開発技術者）、新規起業 等</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	材料エネルギー学部 【Faculty of Materials for Energy】 材料エネルギー学科 【Department of Materials for Energy】	4年	80人	3年次 5人	330人	学士（工学） Bachelor of Engineering	年月 第 年次 令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	島根県松江市西川津町1060
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		総合理工学部 物理・マテリアル工学科→物理工学科（令和5年4月名称変更）（△13）（令和5年4月） 総合理工学部物質化学科（△13）（令和5年4月） 総合理工学部数理科学科（△4）（令和5年4月） 法文学部法経学科（△4）（令和5年4月） 法文学部社会文化学科（△3）（令和5年4月） 法文学部言語文化学科（△3）（令和5年4月）						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	材料エネルギー学部 材料エネルギー学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位		
		227 科目	113 科目	22 科目	362 科目			

教	新	設	分	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
					教授	准教授	講師	助教	計		助手
員	組	既	設	の	人	人	人	人	人	人	人
					()	()	()	()	()	()	()
				材料エネルギー学部材料エネルギー学科	12 (10)	6 (6)	1 (1)	4 (4)	23 (21)	0 (0)	28 (29)
				計	12 (10)	6 (6)	1 (1)	4 (4)	23 (21)	0 (0)	28 (29)
				法文学部法経学科	7 (7)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)
				法文学部社会文化学科	8 (8)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	10 (10)
				法文学部言語文化学科	6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	7 (7)
				教育学部学校教育課程	33 (33)	14 (14)	9 (9)	2 (2)	58 (58)	0 (0)	56 (56)
				人間科学部人間科学科	8 (8)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	66 (66)
				医学部医学科	49 (49)	24 (24)	11 (11)	58 (58)	142 (142)	3 (3)	160 (160)
				医学部看護学科	6 (6)	3 (3)	5 (5)	9 (9)	23 (23)	1 (1)	1 (1)
				総合理工学部物理工学科	7 (7)	5 (4)	1 (1)	4 (5)	17 (17)	0 (0)	165 (165)
				総合理工学部物質化学科	6 (6)	8 (6)	2 (2)	6 (3)	22 (17)	1 (1)	138 (138)
				総合理工学部地球科学科	4 (4)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	146 (146)
				総合理工学部数理科学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	128 (128)
				総合理工学部知能情報デザイン学科	4 (4)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	10 (10)	0 (0)	130 (130)
				総合理工学部機械・電気電子工学科	5 (5)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	139 (139)
				総合理工学部建築デザイン学科	4 (4)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	11 (11)	0 (0)	151 (151)
				総合理工学部理工特別コース	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
				生物資源科学部生命科学科	13 (13)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	28 (28)	0 (0)	69 (69)
				生物資源科学部農林生産学科	7 (7)	12 (12)	0 (0)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	82 (82)
				生物資源科学部環境共生科学科	9 (9)	8 (8)	1 (1)	12 (12)	30 (30)	0 (0)	74 (74)
				生物資源科学部附属生物資源教育研究センター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
				地域未来協創本部	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)
				教育・学生支援本部	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	4 (4)
				研究・学術情報本部	5 (5)	4 (4)	3 (3)	11 (11)	23 (23)	0 (0)	50 (50)
				グローバル化推進本部	3 (3)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	3 (3)
				オープンイノベーション推進本部	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4 (4)
				山陰法実務教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
				こころとそだちの相談センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
				次世代たたら協創センター	4 (4)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	19 (19)
				計	200 (200)	159 (156)	55 (55)	136 (134)	550 (545)	5 (5)	— —
				合 計	212 (210)	165 (162)	56 (56)	140 (138)	573 (566)	5 (5)	— —

R4年6月名称変更届出

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		296 (296)	0 (0)	296 (296)					
	技 術 職 員		1351 (1351)	0 (0)	1351 (1351)					
	図 書 館 専 門 職 員		11 (11)	0 (0)	11 (11)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	計		1661 (1661)	0 (0)	1661 (1661)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	261,438㎡	0㎡	0㎡	261,438㎡					
	運 動 場 用 地	90,630㎡	0㎡	0㎡	90,630㎡					
	小 計	352,068㎡	0㎡	0㎡	352,068㎡					
	そ の 他	6,126,723㎡	0㎡	0㎡	6,126,723㎡					
	合 計	6,478,791㎡	0㎡	0㎡	6,478,791㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		143,774㎡ (143,774㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	143,774㎡ (143,774㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	133室	62室	333室	8室 (補助職員0人)	3室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		526 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	材料エネルギー学部	980,494[221,604] (980,494[221,604])	14,360[4,514] (14,360[4,514])	7,205[5,733] (7,205[5,733])	7,221 (7,221)	30,355 (30,355)	19 (19)			
	計	980,494[221,604] (980,494[221,604])	14,360[4,514] (14,360[4,514])	7,205[5,733] (7,205[5,733])	7,221 (7,221)	30,355 (30,355)	19 (19)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		8645㎡	771		911,444					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,915㎡	野 球 場 2 面 テニスコート 15 面							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
		教員 1 人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
		図 書 購 入 費	-	-	-	-	-	-	-	
	設 備 購 入 費	-	-	-	-	-	-	-		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		-	-	-	-	-	-			
学生納付金以外の維持方法の概要			-							

大学等の名称	島根大学							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
法文学部	年	人	年次人	人		倍		島根県松江市西川津町1060
法経学科	4	80	—	320	学士(法経)	1.03	平成16年度	
社会文化学科	4	50	—	200	学士(社会科学)	1.04	平成16年度	
言語文化学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.04	平成16年度	
学部共通			3年次 10	20				
教育学部								島根県松江市西川津町1060
学校教育課程	4	130	—	520	学士(教育学)	1.05	平成16年度	
人間科学部								島根県松江市西川津町1060
人間科学科	4	80	—	320	学士(人間科学)	1.04	平成29年度	
医学部								島根県出雲市塩冶町89-1
医学科	6	90	3年次 5 2年次 5	597	学士(医学)	1.00	平成15年度	
看護学科	4	60		240	学士(看護学)	1.00	平成15年度	
総合理工学部								島根県松江市西川津町1060
物理・マテリアル工学科	4	73	3年次 2	296	学士(総合理工学)	1.02	平成30年度	
物質化学科	4	73	3年次 2	296	学士(総合理工学)	1.04	平成30年度	
地球科学科	4	50	3年次 1	202	学士(総合理工学)	1.00	平成30年度	
数理科学科	4	50	3年次 1	202	学士(総合理工学)	1.04	平成30年度	
知能情報デザイン学科	4	50	3年次 2	204	学士(総合理工学)	1.08	平成30年度	
機械・電気電子工学科	4	64	3年次 2	260	学士(総合理工学)	1.03	平成30年度	
建築デザイン学科	4	40	3年次 2	164	学士(総合理工学)	1.01	平成30年度	
生物資源科学部								島根県松江市西川津町1060
生命科学科	4	70	3年次 3	286	学士(生物資源科学)	1.03	平成30年度	
農林生産学科	4	60	3年次 9	258	学士(生物資源科学)	1.03	平成30年度	
環境共生科学科	4	70	3年次 3	286	学士(生物資源科学)	1.03	平成30年度	
人間社会科学研究所								島根県松江市西川津町1060
(修士課程) 社会創成専攻	2	15	—	30	修士(法学) 修士(経済学) 修士(人文社会科学) 修士(人間科学)	1.06 1.03	令和3年度	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士(臨床心理学)	1.10	令和3年度	
教育学研究所								島根県松江市西川津町1060
(専門職学位課程) 教育実践開発専攻	2	20	—	40	教職修士(専門職)	0.95 0.95	平成28年度	
医学系研究所								島根県出雲市塩冶町89-1
(修士課程) 医科学専攻	2	15	—	30	修士(医科学)	0.75 0.76	平成16年度	
(博士前期課程) 看護学専攻	2	12	—	24	修士(看護学)	0.74	平成15年度	
医学系研究所								島根県出雲市塩冶町89-1
(博士課程) 医科学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	1.05	平成20年度	
(博士後期課程) 看護学専攻	3	2	—	6	博士(看護学)	0.83	平成28年度	

既設大学等の状況

既設大学等の状況	自然科学研究科 (博士前期課程) 理工学専攻	2	79	—	158	修士(理学) 修士(工学)	0.98 0.83	平成30年度	島根県松江市西川津町1060
	環境システム科学専攻	2	78	—	156	修士(理学) 修士(工学)	1.07	平成30年度	
	農生命科学専攻	2	43	—	86	修士(生物資源科学) 修士(生物資源科学)	1.06	平成30年度	
	自然科学研究科 (博士後期課程) 創成理工学専攻	3	15	—	45	博士(理学) 博士(工学)	0.53 0.53	令和2年度	

附属施設の概要	(附属学校)
	<p>名称：教育学部附属幼稚園</p> <p>目的：教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、幼児に関する研究を行うこと。 教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たること。 教育研究の成果を広く公開し、地域の幼児教育の振興に寄与すること。</p> <p>所在地：島根県松江市大輪町416-4</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規模等：建物 912㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属義務教育学校</p> <p>目的：児童・生徒の心身の発達に応じて初等・中等教育を施す。また、教育学部の教育研究計画と密接な連携のもとに、初等・中等教育の理論及び実践に関する研究並びにその実証を行うとともに、教育学部の計画に従って、学生の教育実習の実施及びその指導に当たる。さらに、教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教育に協力して、地域の初等・中等教育の進展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市菅田町167-1</p> <p>設置年月：平成31年4月</p> <p>規模等：建物 14,356㎡</p>
	<p>名称：教育学部附属学校学習生活支援研究センター</p> <p>目的：教育学部附属幼稚園及び附属義務教育学校における特別支援教育の改善、充実を図るとともに、理論研究、実践研究をもとに地域における特別支援教育の推進に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市菅田町167-1</p> <p>設置年月：平成27年4月1日</p> <p>規模等：建物 478㎡</p>
(学部等の附属施設)	
<p>名称：法文学部山陰研究センター</p> <p>目的：法文学部を中心とした、山陰地域における人文・社会科学の研究拠点として、資料の収集及び研究を積極的に推進し、その研究成果を公表することにより、地域の産業経済及び文化の発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>	
<p>名称：教育学部附属教育支援センター</p> <p>目的：授業科目の履修指導、生活指導及び教育体験活動にかかる学生指導を通じ、学生の教育実践力を特段に高めるとともに、他の教育機関及び地域社会と連携を図り、学生の教育臨床的態度・技能の指導及び地域社会の教育臨床的問題解決に貢献する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成16年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>	

附属施設の概要

<p>名称：教育学部附属教師教育研究センター</p> <p>目的：全学の教職課程を担当し、教職科目の改善を図り、教職課程関連カリキュラムを一元的に管理・運営するとともに、現職教員の資質能力向上に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成19年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>
<p>名称：教育学部附属FD戦略センター</p> <p>目的：教育学部における教員養成教育の改善、充実に資する教育課程の再編、授業の改善及び事業の企画・実施等のFD（ファカルティ・ディベロップメント）の活動を企画・立案、実施することを通して、山陰地域における教員養成基幹学部としての使命を達成する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成19年6月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>
<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：診療を通じて医学の教育及び研究に資する。</p> <p>所在地：島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：昭和54年4月</p> <p>規模等：建物 57,972㎡（附属病院棟）</p>
<p>名称：生物資源科学部附属生物資源教育研究センター</p> <p>目的：生物資源科学部の附属教育研究施設として、農学・農業、林学・林業及び日本海における生物・海洋に関する教育・研究並びに森林・耕地・海洋を結ぶ生態系をめぐる物質循環の解明などを学際的に科学する教育・研究を行う。</p> <p>所在地：（本部、農業生産科学部門）島根県松江市上本庄町2059 （森林科学部門）島根県大田市三瓶町多根941-1 （農業生産科学部門）島根県出雲市神西沖町字蛇島2473-1 （海洋生物科学部門）島根県隠岐郡隠岐の島町加茂194</p> <p>設置年月：平成9年4月</p> <p>規模等：建物 8,374㎡（総計）</p>
<p>名称：地域未来協創本部</p> <p>目的：本学の知（地）の拠点大学による地方創生推進事業並びに地域社会における産業技術の振興及び発展等に関する企画・立案・実施等を行い、もって本学の教育・研究及び産学官地域連携の推進並びに地域の未来に関する教育研究活動の支援及び地域社会に向けた情報発信を行う。</p> <p>所在地：（松江キャンパス）島根県松江市西川津町1060 （出雲キャンパス）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：（松江キャンパス）建物 総合理工学部2号館の一部 （出雲キャンパス）建物 地域未来協創本部 （地域医学共同研究部門）2,268㎡の一部</p>

(教育・学生支援本部)

名 称：大学教育センター

目 的：全学的な教学マネジメントの確立のもと、高等教育における諸課題を解決するため、本学の教育改革を推進し、教育の質の保証と向上を達成する。

所 在 地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成31年4月

規 模 等：建物 学生センター 1,400㎡の一部
建物 学生支援センター 656㎡の一部

名 称：保健管理センター

目 的：保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、学生及び職員の健康の保持増進を図る。

所 在 地：(松江) 松江市西川津町1060
(出雲) 出雲市塩冶町89-1

設置年月：平成25年4月

規 模 等：建物 (松江) 479㎡
(出雲) 大学会館 (出雲) 1,998㎡の一部

名 称：学生支援センター

目 的：学生支援業務を統括的に取り扱い、もって学生生活の充実に寄与する。

所 在 地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成25年4月

規 模 等：建物 学生支援センター 656㎡の一部

名 称：障がい学生支援室

目 的：障がいのある学生の修学に必要な支援を行うとともに、支援の充実を図る。

所 在 地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成28年4月

規 模 等：建物 総合理工学部2号館の一部

名 称：国際観光教育推進センター

目 的：観光業界を中心とした地域産業への貢献、観光人材の育成を図る。

所 在 地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：令和4年4月

規 模 等：建物 学生センターの一部

(研究・学術情報本部)

名称：戦略的研究推進センター

目的：本学が有する知的資産と知的創造力を活用し，地域に密着した個性的な研究及び国際水準の独創的な研究を集中的かつ戦略的に推進し，その成果を教育に反映するとともに広く社会に還元する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成28年4月

規模等：

名称：エスチュアリー研究センター

目的：汽水域の自然・人文・社会環境の研究等及び汽水域に関する総合的かつ学際的な研究を推進し，本学の教育研究活動及び学術交流の活性化を図るとともに，その研究成果を公表することにより，地域社会の発展及び国際学術交流の振興に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成28年4月

規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部

名称：総合科学研究支援センター

目的：生命，環境，物質・材料創成及びその融合領域に関する総合的な科学研究の深化を図るとともに，各学部等における研究を支援する。

所在地：(松江キャンパス) 島根県松江市西川津町1060

(出雲キャンパス) 島根県出雲市塩冶町89-1

設置年月：平成28年4月

規模等：(遺伝子機能解析部門・松江) 建物 遺伝子実験施設 1,514㎡の一部
(実験動物部門・出雲) 建物 RI・動物実験施設 3,944㎡の一部
(生体情報・RI実験部門・出雲) 建物 共同研究棟 2,312㎡
第二研究棟 3,715㎡の一部

名称：総合情報処理センター

目的：センターに置かれた情報処理システムを整備運用し，学内外の情報ネットワークとの連携を図り，本学における教育，研究その他の情報処理のための利用に供するとともに，学術情報システム等の開発を行い，あわせて人材の育成を支援し，本学における情報処理の進展に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成28年4月

規模等：建物 683㎡

名称：地域包括ケア教育研究センター

目的：地域住民の健康維持に関する総合的かつ学際的な研究を推進し，大学の教育研究活動及び学術交流の活性化を図るとともに，その研究成果を公表することにより，地域社会の発展及び国際学術交流の振興に資する。

所在地：島根県出雲市塩冶町89-1

設置年月：平成29年4月

規模等：建物 地域未来協創本部（地域医学共同研究部門） 2,268㎡の一部

名称：総合博物館

目的：本学における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ，それらを収集，整理・保管及び調査研究をしたうえで，展示公開などによる教育，普及啓発，情報発信の促進及び地域貢献を行う。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成30年6月

規模等：建物 155㎡

名称：自然災害軽減教育研究センター

目的：「地球環境災害軽減に関するユネスコチャータ」の目的である「地球環境と社会のより良好な関係の構築」に向けた教育と研究を促進し、本学の教育研究活動及び国際的学術交流の活性化を図るとともに、社会の発展に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成30年4月

規模等：総合理工学部3号館の一部

名称：数理・データサイエンス教育研究センター

目的：エビデンスに基づく意思決定、価値創造を行うことができるデータ駆動型の人材を幅広く養成するため、数理・データサイエンスに関する研究の推進及び支援を行うとともに、数理・データサイエンス教育を全学的に推進することにより、本学の数理・データサイエンス教育研究活動の充実発展に資する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成30年4月

規模等：生物資源科学部3号館 107m²

名称：新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター

目的：新型コロナウイルス感染症など国産のワクチン・治療用抗体の開発を図る。

所在地：島根県出雲市塩冶町89-1

設置年月：令和4年4月

規模等：建物 出雲キャンパス（塩冶団地）基礎研究棟の一部

(グローバル化推進本部)

名称：国際センター

目的：本学の国際化及び国際交流の推進に向けて、各種事業の企画・立案するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、積極的な支援等を行うことにより、本学の国際交流の推進に寄与する。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成25年4月

規模等：建物 総合理工学部2号館の一部

名称：外国語教育センター

目的：外国語教育の知的拠点として、言語的コミュニケーション能力を培う教育を行うことのほか、外国語教育を通じて総合的な知性・教養・人格を形成し、異文化理解と共生文化の創造に資する教育を行う。

所在地：島根県松江市西川津町1060

設置年月：平成25年4月

規模等：建物 総合理工学部2号館の一部

名称：島根大学・寧夏大学国際共同研究所

目的：都市と農村との地域間格差問題、中山間地域（条件不利地域）の活性化、開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に発信するとともに、人材の育成・交流の積極的な展開、国内外の研究者に開かれた中国・西部地域研究の拠点づくりを目指す。

所在地：中国、寧夏、銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学A区

設置年月：平成16年4月

規模等：建物 2,794m²

<p>名称：オープンイノベーション推進本部</p> <p>目的：産学官連携の推進を図り，外部研究資金等の獲得力の強化，並びに知的財産戦略・コンプライアンス体制の充実により，本学の自律的経営を確立すると共に，本学の研究成果の社会実装を強化することを目的とする。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：建物 総合理工学部2号館 3階 54㎡</p>
<p>名称：次世代たたら協創センター</p> <p>目的：企業等と連携して，金属材料評価技術等の研究及び新たな金属材料や複合材料等の研究・開発を行い，その成果を実用化に結び付けていくと共に，金属材料関連の専門人材を育成することを目的とする。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成30年10月</p> <p>規模等：建物 次世代たたら協創センター 1,845㎡ 建物 生物資源科学部2号館（大学院棟） 1階124㎡</p>
<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：図書，学術雑誌その他必要な資料を収集，組織，保管し，これを利用者の教育・研究・学習等の要求に対して提供し，併せて学術情報システム活用場として機能することにより，島根大学における教育研究活動を支援するとともに，地域社会の知的情報拠点としての役割を果たす。</p> <p>所在地：（本館）島根県松江市西川津町1060 （医学図書館）島根県出雲市塩冶町89-1</p> <p>設置年月：（本館）平成28年4月 （医学図書館）平成28年4月</p> <p>規模等：（本館）建物 6,834㎡ （医学図書館）建物 1,819㎡</p>
<p>名称：山陰法実務教育研究センター</p> <p>目的：本学が有する知的資産を有効に活用し山陰地域における法実務教育を行うとともに，そのための教育プログラム及び教育研究体制に関する調査研究を行い，もって山陰地域における法学教育の充実発展に寄与する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成26年2月</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>
<p>名称：こころとそだちの相談センター</p> <p>目的：心の健康に関する相談に応じて地域社会に貢献するとともに，心理臨床に関する高度な知識と技能を有する専門家の養成に資する。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：平成29年4月</p> <p>規模等：建物 教育学部実験研究棟 16,554㎡の一部</p>
<p>名称：ダイバーシティ推進室</p> <p>目的：島根大学において，ダイバーシティの推進，女性研究者支援及びワーク・ライフ・バランスの推進に関する具体的事業を企画・立案・実施することにより，より多様な人材がその能力を発揮できる環境を整え，本学の教育・研究の質をより一層向上させる。</p> <p>所在地：島根県松江市西川津町1060</p> <p>設置年月：令和元年10月15日</p> <p>規模等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部</p>

附属施設の概要	名 称：ハラスメント対策室 目 的：ハラスメント対策室は、島根大学の全学的なハラスメント防止とハラスメント事案への対応の充実を図り、ハラスメントのない健全で快適な環境づくりに資する。 所 在 地：島根県松江市西川津町1060 設置年月：平成29年4月1日 規 模 等：建物 法文学部棟 7,631㎡の一部
---------	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

島根大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
島根大学				島根大学				
法文学部	185	3年次 10	760	法文学部	175	3年次 10	720	
法経学科	80	-	320	法経学科	76	-	304	定員変更(△4)
社会文化学科	50	-	200	社会文化学科	47	-	188	定員変更(△3)
言語文化学科	55	-	220	言語文化学科	52	-	208	定員変更(△3)
学部共通		10	20	学部共通		10	20	
教育学部	130	-	520	教育学部	130	-	520	
学校教育課程	130	-	520	学校教育課程	130	-	520	
人間科学部	80	-	320	人間科学部	80	-	320	
人間科学科	80	-	320	人間科学科	80	-	320	
医学部	162	2年次 5 3年次 5	837	医学部	150	2年次 5 3年次 5	825	「地域の医師確保等の観点からの令和4年度医学部入学定員の増加について(通知)」に基づき、令和4年度に12名の定員増。令和5年度においても引き続き同様の枠組みによる医学部入学定員の確保を検討しているが、現時点では未確定のため、本移行表には反映させていない。
医学科	102	2年次 5 3年次 5	597	医学科	90	2年次 5 3年次 5	585	
看護学科	60	-	240	看護学科	60	-	240	
総合理工学部	400	3年次 12	1,624	総合理工学部	370	3年次 12	1,504	
物理・マテリアル工学科	73	2	296	物理工学科	60	2	244	定員変更(△13)、名称変更
物質化学科	73	2	296	物質化学科	60	2	244	定員変更(△13)
地球科学科	50	1	202	地球科学科	50	1	202	
数理科学科	50	1	202	数理科学科	46	1	186	定員変更(△4)
知能情報デザイン学科	50	2	204	知能情報デザイン学科	50	2	204	
機械・電気電子工学科	64	2	260	機械・電気電子工学科	64	2	260	
建築デザイン学科	40	2	164	建築デザイン学科	40	2	164	
生物資源科学部	200	3年次 15	830	生物資源科学部	200	3年次 15	830	
生命科学科	70	3	286	生命科学科	70	3	286	
農林生産学科	60	9	258	農林生産学科	60	9	258	
環境共生科学科	70	3	286	環境共生科学科	70	3	286	
計	1,157	2年次 5 3年次 42	4,891	計	1,185	2年次 5 3年次 47	5,049	
島根大学大学院				島根大学大学院				
人間社会科学研究科	25		50	人間社会科学研究科	25		50	
社会創成専攻(M)	15		30	社会創成専攻(M)	15		30	
臨床心理学専攻(M)	10		20	臨床心理学専攻(M)	10		20	
教育学研究科	20		40	教育学研究科	20		40	
教育実践開発専攻(P)	20		40	教育実践開発専攻(P)	20		40	
医学系研究科	59		180	医学系研究科	59		180	
医科学専攻(M)	15		30	医科学専攻(M)	15		30	
医科学専攻(D)	30		120	医科学専攻(D)	30		120	
看護学専攻(M)	12		24	看護学専攻(M)	12		24	
看護学専攻(D)	2		6	看護学専攻(D)	2		6	
自然科学研究科	215		445	自然科学研究科	215		445	
理工学専攻(M)	79		158	理工学専攻(M)	79		158	
環境システム科学専攻(M)	78		156	環境システム科学専攻(M)	78		156	
農生命科学専攻(M)	43		86	農生命科学専攻(M)	43		86	
創成理工学専攻(D)	15		45	創成理工学専攻(D)	15		45	
計	319		715	計	319		715	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行 終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
総合理工学部物理・マテリアル工学科	学士 (総合理工学)	理学関係・工学関係	材料エネルギー学部材料エネルギー学科	2	1	材料エネルギー学部材料エネルギー学科	学士 (工学)	工学関係	工学系新学部設置準備室	1	1
			物理工学科	12	4				総合理工学部物理・マテリアル工学科	2	1
			退職	4	4				総合理工学部物質化学科	2	2
									次世代たたら協創センター	1	1
			計	18	9				新規採用	17	7
			計	23	12						
総合理工学部物質化学科	学士 (総合理工学)	理学関係・工学関係	材料エネルギー学部材料エネルギー学科	2	2	総合理工学部物理工学科	学士 (総合理工学)	理学関係・工学関係	物理・マテリアル工学科	12	4
			物質化学科	19	5						
			退職	3	3						
			計	24	10				計	12	4
						総合理工学部物質化学科	学士 (総合理工学)	理学関係・工学関係	物質化学科	19	5
			計						計	19	5
			計								

基礎となる学部等の改編状況

開設又は改編時期	改編内容等	学位又は学科の分野	手続きの区分
平成30年4月	総合理工学部物理・マテリアル工学科 設置	理学関係・工学関係	設置認可(学科)
令和5年4月	物理・マテリアル工学科 → 物理工学科	理学関係・工学関係	名称変更(学科)
令和5年4月	材料エネルギー学部材料エネルギー学科 設置	工学関係	設置届出(学部)

教育課程等の概要															
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語(英語)	英語 I A	1前	1				○						兼7	クラス別	
	英語 I B	1後	1				○						兼6	クラス別	
	英語 II A	1後	1				○						兼7	クラス別	
	英語 II B	2前	1				○						兼7	クラス別	
	英語 III A (English Interaction)	2後	1				○						兼1		
	英語 III B (English Presentation)	3前	1				○						兼1		
	英語 IV	1・2・3・4前後		1				○						兼2	クラス別
小計 (7科目)		—	6	1	0		—		0	0	0	0	0	兼13	
外国語(初修外国語)	ドイツ語 I ※	1前	2				○						兼3	週2回 クラス別	
	ドイツ語 II	1・2・3・4後		1			○						兼3	クラス別	
	フランス語 I ※	1前	2				○						兼1	週2回	
	フランス語 II	1・2・3・4後		1			○						兼1		
	中国語 I ※	1前	2				○						兼4	週2回 クラス別	
	中国語 II	1・2・3・4後		1			○						兼4	クラス別	
	韓国・朝鮮語 I ※	1前	2				○						兼3	週2回 クラス別	
	韓国・朝鮮語 II	1・2・3・4後		1			○						兼3	クラス別	
(注) ※印から必修科目として1科目を選択															
小計 (8科目)		—	8	4	0		—		0	0	0	0	0	兼11	
健康・スポーツ/文化・芸術	健康スポーツ ※	1前	2				○						兼1		
	芸術文化 I (音楽) ※	1・2前後	2			○							兼1		
	芸術文化 I (美術) ※	1・2・3前後	2			○							兼1		
	芸術文化 I (島根の祭りと芸能) ※	1後	2			○							兼1		
	(注) ※印から必修科目として1科目を選択														
小計 (4科目)		—	8	0	0		—						兼4		
情報科学	情報科学	1前	2			○	※			1			兼1	講義12 演習3	
	小計 (1科目)		—	2	0	0		—		0	1	0	0	0	兼1
数学/サイエンス	数理・データサイエンスへの誘い	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	小計 (1科目)		—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼3
入門科目(人文社会科学分野)	論理学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	行為と価値	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	自己と世界	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	心の世界	1・2・3・4前	2			○							兼1	共同	
	心の不思議	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	日本人の宗教と死生観	1・2・3・4前	2			○							兼1	地域志向科目	
	異文化との出会い	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	東アジアの歴史と文化	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	小説の構造	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	日本語のしくみ	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	王朝の文学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	生成文法入門	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	日常生活と犯罪学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	教養としての政治	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	日本経済を見る眼	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	世界経済を見る眼	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代経済へのアプローチ	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	国際農村開発概論	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	医療経済論(看護学科)	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	地図の歴史	1・2・3・4前	2			○							兼1	地域志向科目	
	基礎社会学 I	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	知ることと生きること	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	心の形成	1・2・3・4前	2			○							兼2		
	映像タイポグラフィ論	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	現代芸術の世界	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代芸術の思想	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	東アジアのことばと文学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	英語と日本人	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	古代出雲の考古学	1・2・3・4前	2			○							兼1	地域志向科目	
	山陰の歴史-古代・中世-	1・2・3・4後	2			○							兼1	地域志向科目	
	山陰の歴史-近世・近現代-	1・2・3・4前	2			○							兼2		
	考古学からみた古代山陰の世界	1・2・3・4後	2			○							兼1	地域志向科目	
	企業と法	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	現代社会と法・人権	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	情報化社会と経済	1・2・3・4前	2			○							兼1	地域志向科目	
	国際化のなかの地域経済	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	基礎社会学 II	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	地域開発と環境	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	フランスの社会と文化	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	考古学からみた韓半島の先史・古代文化	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	山陰のことば	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	大学教育論-島根大学と社会-	1・2・3・4前	2			○							兼2		
	観光学入門	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	スタートアップ・イングリッシュ A	1・2・3・4前	1			○							兼1		
	福祉の世界	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	問題解決の進め方	1・2・3・4前後	2			○							兼1		
	社会の産業と倫理	1・2・3・4前後	2			○							兼1		
	市民自治の知識と実践	1・2・3・4前後	2			○							兼1		
小計 (48科目)		—	0	95	0		—		0	0	0	0	0	兼52	
	初級微分積分学 I	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	初級微分積分学 II	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	初級線形代数学 I	1・2・3・4前	2			○							兼2		
	初級線形代数学 II	1・2・3・4後	2			○							兼2		
	実用微分積分学 I	1・2・3・4前	2			○							兼1		

入門科目 (自然科学分野)	実用微分積分学Ⅱ	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	実用線形代数学Ⅰ	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	実用線形代数学Ⅱ	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	統計学入門	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	実験データ解析入門	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	物理学で見る自然界の仕組み ー力学・電磁気学と熱力学ー	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	物理のための数学入門	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	反応の化学	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	環境の化学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	生物有機化学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	高分子と有機分子の化学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	地球と人間生活	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	計測のはなし	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	住まいの科学	1・2・3・4後	2	○									兼1	地域志向科目	
	エレクトロニクスのはなし	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	動物の世界	1・2・3後	2	○									兼3		
	植物の世界	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	物質と生命	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	医科基礎生物学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	化学の歴史	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	ヒトと栄養と生命	1・2・3・4後	2	○									兼3		
	生体分子の世界	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	生命情報の科学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	細胞生物学	1・2・3・4前	2	○									兼2		
	地域開発と水環境	1・2・3・4前	2	○									兼1	地域志向科目	
	光環境と生物	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	生物多様性と環境保全	1・2・3・4前	2	○									兼2	集中	
	機械の歴史	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	電気・通信技術の歩み	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	生態学入門	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	医科基礎化学	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	統計検定セミナー初級	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	医科基礎物理Ⅰ	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	医科基礎物理Ⅱ	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	分子細胞生物学Ⅰ	1・2・3・4前	2	○									兼1		
	分子細胞生物学Ⅱ	1・2・3・4後	2	○									兼1		
	自然科学はじめの一步	1・2・3・4前後	2	○									兼1		
	基礎物理・化学	1前	2	○							2			共同 ※演習	
	数学基礎Ⅰ	1前	2	○										兼1	
	数学基礎Ⅱ	1後	2	○										兼1	
	小計(45科目)	—	6	84	0	—			0	0	0	2	0	兼52	
	入門科目 (学際分野)	スタートアップセミナー	1前	2		○								兼4	地域志向科目
		グローバル・チャレンジ：海外留学・ インターン・ボランティアへの道筋	1・2・3・4前	2	○									兼1	
		グローバル・イシュー：国際社会が 抱える課題と対応	1・2・3・4後	2	○									兼1	
大学生の学修と倫理		1・2・3・4前	2	○									兼2		
アントレプレナーシップ入門セミナー		1・2・3・4後	2	○									兼3		
オープンデータ分析A		1・2・3・4後	2		○								兼1		
オープンデータ分析B		1・2・3・4後	2		○								兼1		
小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼13	
教養 育成 科目	芸術学セミナー	1・2・3・4前	2		○								兼1		
	日本語の表現	1・2・3・4後	2		○								兼1		
	英米の文学	1・2・3・4前	2		○								兼1		
	アメリカ短篇小説を読む	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	ヨーロッパの言語文化Ⅰ	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	ヨーロッパの言語文化Ⅱ	1・2・3・4後	2			○							兼2		
	小説という楽しみ	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	中国文学における風土と人間	1・2・3・4後	2		○								兼1		
	生涯発達の心理学	1・2・3・4前	2		○								兼1	集中	
	異文化コミュニケーション入門A	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	異文化コミュニケーション入門B	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	初級英会話A	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	初級英会話B	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	グローバルビジネスコミュニケーションA	1・2・3・4前	2			○							兼3	集中	
	グローバルビジネスコミュニケーションB	1・2・3・4後	2			○							兼1	集中	
	国際文化情報A(英語圏)	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中	
	国際文化情報B(英語圏)	1・2・3・4後	2			○							兼1	集中	
	国際文化情報C(英語圏)	1・2・3・4前	2			○							兼2		
	国際文化情報D(英語圏)	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	アカデミック・リスニングA	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	アカデミック・リスニングB	1・2・3・4後	2			○							兼4		
	アカデミック・リーディングA	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	アカデミック・リーディングB	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	アカデミック・スピーキングA	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	アカデミック・スピーキングB	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	アカデミック・ライティングA	1・2・3・4前	2			○							兼3		
	アカデミック・ライティングB	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	上級TOEFLセミナーA	1・2・3・4前	2			○							兼1		
	上級TOEFLセミナーB	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	中級英会話A	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中	
	中級英会話B	1・2・3・4後	2			○							兼3		
	グローバル・キャリア	1・2・3・4後	2			○							兼1		
	グローバル・アンダースタンディングA	1・2・3・4後	2			○							兼1		
グローバル・アンダースタンディングB	1・2・3・4後	2			○							兼1			
クロスカルチュラル・アンダースタンディングA	1・2・3・4後	2			○							兼3			
クロスカルチュラル・アンダースタンディングB	1・2・3・4後	2			○							兼3			
グローバル・インタラクションA	1・2・3・4前	2			○							兼2	集中		
グローバル・インタラクションB	1・2・3・4前	2			○							兼3			
グローバル・パースペクティブA	1・2・3・4前	2			○							兼1			
グローバル・パースペクティブB	1・2・3・4前	2			○							兼1			
上級TOEICセミナーⅠ	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中		
上級TOEICセミナーⅡ	1・2・3・4後	2			○							兼3	集中		
グローバルリテラシーセミナーⅠ	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中		
グローバルリテラシーセミナーⅡ	1・2・3・4前	2			○							兼1	集中		
グローバル・リーダーシップ	1・2・3・4後	2			○							兼1	集中		

生命工学概論	3前	2		○				1								
溶融加工学	3前	2		○											兼1	
材料科学から社会を見る	1後	2		○			1								兼1	
材料工学のフロンティア	3後	2		○			1									
NEXTAセミナー	1後	2		○			1								兼7	
Materials Science	2後	2		○				1								
Introduction to high-temperature materials	4通	2		○			1								兼1	
Introduction for polymer colloids and interfaces	3後	1		○			1								兼1	
IoT・コンピュータ入門	2後	2		○				1								
情報論	2後	2		○			1			1						
機械学習	3前	2		○			1									
情報セキュリティ	3前	2		○			1									
材料系エンジニアのための経済事情論	3前	2		○			1									
新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り	2・3通年	2			○		12	6	1	4				兼1	共同 ※講義	
海外研修	3・4前後	1				○	12	6	1	4						
企業実践プロジェクト演習	3・4前後	2				○	12	6	1	4						
実践インターンシップ	3・4前後	2				○	12	6	1	4						
小計 (62科目)	—	63	53	0	—		12	6	1	4	0			兼28		
合計 (362科目)		—	108	596	0	—	12	6	1	4	0			—		
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係									

卒業要件及び履修方法														授業期間等																																																																						
(卒業要件) 卒業のために必要な単位数は以下のとおりである。														1学年の学期区分	2学期																																																																					
														1学期の授業期間	14週																																																																					
														1時限の授業時間	100分																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">全学共通科目</th> <th colspan="7">専門教育科目</th> <th rowspan="3">自由 選択科目</th> <th rowspan="3">合計</th> </tr> <tr> <th colspan="4">基礎科目</th> <th colspan="3">教養育成科目</th> <th rowspan="2">基盤科目</th> <th rowspan="2">専門 必修科目</th> <th rowspan="2">専門 選択科目</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>外国語</th> <th>健康・スポーツ /文化・芸術</th> <th>情報科学</th> <th>数理・データサイエンス</th> <th>入門</th> <th colspan="2">発展</th> <th>社会 人 力 養 成</th> <th>計</th> <th>計</th> <th>計</th> <th>計</th> </tr> <tr> <th>英語</th> <th>初修外国語</th> <th></th> <th></th> <th>人文社会科学</th> <th>自然科学</th> <th>学際</th> <th>人文社会科学</th> <th>自然科学</th> <th>学際</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>14</td> <td colspan="3">人文社会4, 自然科学4</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>63</td> <td>18</td> <td>94</td> <td>4</td> <td>124</td> </tr> </tbody> </table>														全学共通科目							専門教育科目							自由 選択科目	合計	基礎科目				教養育成科目			基盤科目	専門 必修科目	専門 選択科目	計	計	計	計	外国語	健康・スポーツ /文化・芸術	情報科学	数理・データサイエンス	入門	発展		社会 人 力 養 成	計	計	計	計	英語	初修外国語			人文社会科学	自然科学	学際	人文社会科学	自然科学	学際					6	2	2	2	14	人文社会4, 自然科学4			12	13	63	18	94	4	124
全学共通科目							専門教育科目							自由 選択科目	合計																																																																					
基礎科目				教養育成科目			基盤科目	専門 必修科目	専門 選択科目	計	計	計	計																																																																							
外国語	健康・スポーツ /文化・芸術	情報科学	数理・データサイエンス	入門	発展											社会 人 力 養 成	計	計	計	計																																																																
英語	初修外国語			人文社会科学	自然科学	学際	人文社会科学	自然科学	学際																																																																											
6	2	2	2	14	人文社会4, 自然科学4			12	13	63	18	94	4	124																																																																						
<p>1.全学共通科目</p> <p>○基礎科目 14単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初修外国語はドイツ語, フランス語, 中国語及び韓国・朝鮮語の中から1つを選んで履修する。 ・「健康・スポーツ/文化・芸術」は健康・スポーツと文化・芸術のどちらか一方を選んで履修する。 <p>○教養育成科目 12単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養育成科目は, 「入門科目」, 「発展科目」, 「社会人力養成科目」の中から人文社会科学分野の科目4単位, 自然科学分野の科目4単位を含む計12単位分を履修する。 ただし, 次の科目は必修科目とする。 「基礎物理・化学」, 「数学基礎Ⅰ」, 「数学基礎Ⅱ」 <p>2.専門教育科目</p> <p>○基盤科目 13単位</p> <p>○専門教育科目 必修科目63単位 選択科目18単位</p> <p>○自由選択科目 4単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目, 教養育成科目, 専門選択科目から選択して履修する。 <p>(履修方法)</p> <p>1学期における履修科目の登録の上限:25単位</p>																																																																																				

教 育 課 程 等 の 概 要

(物理・マテリアル工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	験・実	教授	准教授	講師	助教	助手			
自然科学系学部共通科目	遺伝学	1後		2		○										兼2
	動物学	1後		2		○										兼3
	植物学	1後		2		○										兼4
	微生物学	1前		2		○										兼3
	生物学	1前		2		○										兼5
	生態学	1後		2		○										兼5
	細胞生物学	1前		2		○										兼2
	基礎分子生物学	1後		2		○										兼1
	基礎土壌学	1前		2		○										兼2
	水環境学	1前		2		○										兼2
	経済原論	1後		2		○										兼1
	資源作物・畜産学概論	1後		1		○										兼3
	園芸生産学概論	1後		1		○										兼3
	食と農の経済概論	1後		1		○										兼5
	森林学概論	1後		1		○										兼3
	小計 (15科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0		兼40	
基盤科目	基礎数学入門	1前	2			○							1			
	物理数学基礎 I	1後	2			○				1						
	物理数学演習 A	1後	1				○									兼1
	物理数学演習 B	1後				○						1				
	基礎物理学 A	1前	2			○			1							
	基礎物理学 B	1後	2			○			1							
	力学演習 A	1後	1				○						1			
	力学演習 B	1後				○		1								
	フレッシュマンセミナー	1前		2		○	○	○	7	5	1	4				
	基礎物理学 C	1後		2		○										兼1
	化学基礎 A	1前		2		○										兼1
	化学基礎 B	1前														兼1
	物理化学基礎	1後		2		○										兼1
	技術と社会	3後	2			○			2	1						兼8
	小計 (14科目)	—	12	8	0	—			7	5	1	4	0		兼13	
	企業実践インターンシップ A	3通		2			○									兼3
	企業実践インターンシップ B	3通		2			○									兼2
	海外就業体験	1通		2			○		1							兼3
	量子力学セミナー	2後		2		○			1							
	物理数学基礎 II	2前		2		○				1						
	解析力学	2前		2		○				1						
	物理数学 I	2後		2		○			1							

物理数学Ⅱ	3前	2	○		1					
量子力学Ⅲ	3後	2	○			1				
相対性理論	3前	2	○			1				
原子核・素粒子物理学	3後	2	○			1				
物理学特論A	3通	2	○							兼1 集中
物理学特論B	3通	2	○							兼1 集中
物理学特論C	3通	1	○							兼1 集中
物理学特論D	3通	1	○							兼1 集中
物理学特論E	3通	1	○							兼1 集中
物理学特論F	3通	1	○							兼1 集中
物理学特論G	3通	1	○							兼1 集中
構造材料学基礎	2前	2	○							兼1
機能材料学基礎	2後	2	○			1				
構造材料学	3前	2	○							兼2
材料評価学基礎	3後	2	○							兼4
材料物理化学	3後	2	○		2					兼2
材料科学特論A	3通	2	○							兼1 集中
材料科学特論B	3通	2	○							兼1 集中
材料科学特論C	3通	1	○							兼1 集中
材料科学特論D	3通	1	○							兼1 集中
材料科学特論E	3通	1	○							兼1 集中
材料科学特論F	3通	1	○							兼1 集中
材料科学特論G	3通	1	○							兼1 集中
半導体デバイスⅡ	3前	2	○			1				
デバイス材料工学基礎	2前	2	○		1		1			
光エレクトロニクス	3後	2	○		1					
半導体量子論	3後	2	○		1					
電子デバイス特論A	3通	2	○							兼1 集中

専
門
科
目

電子デバイス特論B	3通		2		○										兼1	集中
電子デバイス特論C	3通		1		○										兼1	集中
電子デバイス特論D	3通		1		○										兼1	集中
電子デバイス特論E	3通		1		○										兼1	集中
電子デバイス特論F	3通		1		○										兼1	集中
電子デバイス特論G	3通		1		○										兼1	集中
線形代数基礎	1後	2			○			1								
力学	1後	2			○						1					
熱力学	2後	2			○										兼1	
材料科学序論	1後	2			○			1								
電子工学概論	1後	2			○			1								
電磁気学Ⅰ	2前	2			○			1								
電磁気学Ⅱ	2後	2			○				1							
電磁気学演習A	2前				○						1					
電磁気学演習B	2前	1			○						1					
量子力学Ⅰ	2後	2			○				1							
量子力学Ⅱ	3前	2			○				1							
統計力学	3前	2			○			1								
情報科学演習	2後	1			○					1	2					
物理学実験Ⅰ	2前後	4				○					3				兼1	
物理学実験Ⅱ	3前後	4				○		1	3	1					兼5	
固体物理学Ⅰ	3前		2		○			1								
固体物理学Ⅱ	3後		2		○			1								
機能材料学	3前		2		○			1			1					
半導体デバイスⅠ	2後		2		○				1							
卒業研究	4通	8				○		7	5	1	4					
外書輪読	4通	2			○			7	5	1	4					
物理学概論	2前		2		○			1								
Materials Science	3後		2		○										兼1	
Introduction to high-temperature materials	4通		1		○										兼1	
Phase diagrams and alloy design	3前		2		○										兼1	
Physical Metallurgy of Engineering Alloys	3後		2		○										兼1	
Materials Processing for Control of Properties and Performance	3後		2		○										兼1	
基礎化学実験	3前		2			○									兼22	
生物学実験	3後		2			○									兼9	
材料科学から社会を見る	1後		2		○										兼1	
材料工学のフロンティア	3後		2		○										兼1	
NEXTA材料工学特論Ⅰ	3通		1		○										兼1	
NEXTA材料工学特論Ⅱ	3通		1		○										兼1	
NEXTAセミナーⅠ	1後			1		○									兼1	
NEXTAセミナーⅡ	2前			1		○									兼1	

NEXTAセミナーⅢ	2後			1		○							兼1
地学通論	1後		2			○							兼4
地学実験	3前		2				○						兼12
総合理工学部で開講する 専門教育科目（自然科学 系学部共通科目と基盤科 目を除く）													
小計（79科目）	—	40	100	3		—		7	5	1	4	0	兼80
合計（108科目）	—	52	134	3		—		7	5	1	4	0	兼133
学位又は称号	学士（総合理工学）		学位又は学科の分野			理学関係・工学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
基礎科目から14単位，教養育成科目から12単位，自然科学系学部共通科目を4単位，基盤科目の必修科目12単位，基盤科目の選択科目から4単位，専門科目の必修科目42単位，専門科目の選択科目から20単位，専門科目の自由科目から8単位を修得し，124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：25単位（各学期））						1学年の学期区分				2学期			
						1学期の授業期間				14週			
						1事件の授業時間				100分			

(学部内共通教育コース：理工特別コース)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自然科学系学部 共通科目	総合理工学部学生向け自然科学系学部共通科目													
基盤科目	総合理工学部で開講する基盤科目													
専門科目	プロジェクトセミナーⅠ	1後	2				○		35	32	8	29		
	プロジェクトセミナーⅡ	2前		2			○		35	32	8	29		
	プロジェクトセミナーⅢ	2後		2			○		35	32	8	29		
	特別研究Ⅰ	3前	2					○	35	32	8	29		
	特別研究Ⅱ	3後	2					○	35	32	8	29		
	卒業研究	4通	8					○	35	32	8	29		
	理工専門英語セミナーⅠ	2前	2					○						兼1
	理工専門英語セミナーⅡ	2後	2					○						兼1
	総合理工学部で開講する 専門教育科目（自然科学 系学部共通科目と基盤科 目を除く）													

小計 (8科目)	—	18	4	0	—	35	32	8	29	兼1
学位又は称号	学士 (総合理工学)	学位又は学科の分野				理学関係・工学関係				
基礎科目から14単位, 教養育成科目から12単位, 自然科学系学部共通科目から4単位, 基盤科目の必修科目12単位, 基盤科目の選択科目から4単位, 専門科目の必修科目18単位, 専門科目の選択科目から42単位, 専門科目の自由科目から10単位以上修得し, 124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 30単位 (各学期))						1学年の学期区分		2学期		
						1学期の授業期間		14週		
						1事件の授業時間		100分		

留学生対象 (学部内共通教育コース: バイリンガル教育コース)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	日本語初級A	1前後		4			○								兼1
	日本語初級B	1前後		4			○								兼1
	日本語中級A	2前後	2				○								兼2
	日本語中級B	2前後	2				○								兼2
	日本語中級C	2前後	2				○								兼2
	日本語中級D	2前後	2				○								兼1
	日本語上級A	3前後		2			○								兼2
	日本語上級B	3前後		2			○								兼2
	日本語上級C	3前後		2			○								兼2
	日本語上級D	3前後		2			○								兼1
	健康スポーツ	1後		2				○							兼4
	芸術文化 I	1前		2				○							兼4
	情報科学	1前	2			○									兼2
	数理・データサイエンスへの誘い	1前	2												兼3
小計 (14科目)	—	12	20	0	—			0	0	0	0	0		兼19	
教養育成科目	日本事情A	2前後	4			○									兼2
	日本事情B	2前後	4			○									兼1
	国際文化情報A (英語圏)	1前		2		○									兼1
	国際文化情報B (英語圏)	1後		2		○									兼1
	国際文化情報C (英語圏)	1前		2		○									兼1
	国際文化情報D (英語圏)	1後		2		○									兼1
	その他の教養育成科目														
小計 (6科目)	—	8	8	0	—			0	0	0	0	0		兼7	
自然科学系学部 共通科目	環境共生科学 Environmental and Sustainability Sciences	1前		2		○									兼30
	農林生産学概論 Introduction to Agriculture and Forestry	1後		2		○									兼15
	基礎生物学 Basic Biology	1後		2		○									兼7
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0		兼52
	物理学 Physics	1前		2		○									兼1
	マテリアル工学 Materials Science	1後		2		○									兼1

基盤科目	化学基礎 Fundamental Chemistry	1前	2	○								兼1	
	基礎分析化学 Fundamental Analytical Chemistry	1後	2	○								兼1	
	地球物質資源科学概論 Earth and earth Resource Science	1前	2	○								兼4	
	地球環境科学概論 Geoenvironmental Science	1後	2	○								兼3	
	微分積分学Ⅰ Calculus I	1前	2	○								兼1	
	微分積分学Ⅱ Calculus II	1後	2	○								兼1	
	オブジェクト指向プログラミング入門 Introduction to Object-Oriented Programming	1後	2	○	○								兼1
	コンピュータ・ハードウェア基礎 Computer Hardware Basics	1後	2	○									兼1
	機械工学入門 Introduction to Mechanical Engineering	1前	2	○									兼7
	電気電子工学入門 Introduction to Electronics and Electrical Engineering	1後	2	○									兼1
	建築デザイン概論 Architectural design	1前	2	○									兼1
	小計（13科目）	—	0	26	0	—	0	0	0	0	0		兼22
	専門科目	物理数学基礎Ⅰ	1後	2	○			1					
物理数学基礎演習		1後	1		○				1			兼1	
基礎物理学B		1後	2	○			1						
力学演習		1後	1		○		1		1				
学科の他コースで開講する専門教育科目（自然科学系学部共通科目と基盤科目、及び理工特別コース開講科目を除く）													
総合理工学部で開講する専門教育科目（自然科学系学部共通科目と基盤科目を除く）													
小計（4科目）		—	6	0	0	—	2	1	0	2	0		兼1
合計（40科目）	—	26	60	0	—	2	1	0	2	0		兼101	
学位又は称号	学士（総合理工学）		学位又は学科の分野			理学関係・工学関係							
基礎科目の必修科目12単位、基礎科目の選択科目から2単位、 教養育成科目の必修科目8単位、教養育成科目の選択科目から4 単位、自然科学系学部共通科目から4単位、基盤科目から22単 位、専門科目の必修科目34単位、専門科目の選択科目、自由科 目から22単位を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：30単位（各学期））						1学年の学期区分		2学期					
						1学期の授業期間		14週					
						1事件の授業時間		100分					

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	外国語(英語) 英語ⅠA	この授業では、「教室の中の科目としての英語」から「実践的に役立つ国際共通語としての英語」への転換を目指して、英語の基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。具体的には、TOEICについて学びながら、今後必要とされる英語の基礎的訓練を行い、自学自習を中心とした英語の学習方法についても学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語(英語) 英語ⅠB	この授業では、現代グローバル社会において求められる英語コミュニケーション能力の4技能(Reading、Writing、Listening、Speaking)のうち、特に、Reading技能とライティング技能に重点を置きつつ、標準的な英語総合力を身につけることを目的とする。この授業は、Listening技能とSpeaking技能に重点を置く、英語ⅠAと補完的な授業として位置付けられている。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語(英語) 英語ⅡA	この授業では、現代グローバル社会において求められる英語コミュニケーション能力の4技能(Reading Writing Listening Speaking)のうち、特に、Listening技能とSpeaking技能に重点を置きつつ、基礎的な英語総合力を身につけることを目的とする。この授業は、Listening技能とSpeaking技能に重点を置く、英語ⅠBと補完的な授業として位置付けられている。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語(英語) 英語ⅡB	この授業では、現代グローバル社会のさまざまな分野における、さまざまなトピックに関する英文を題材とし、英語コミュニケーション能力として求められる英語4技能(読む、書く、聞く、話す)に関して、総合的な基礎力を身につけることを目標とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（英語） 英語ⅢA (English Interaction)	この授業では、主として英語インタラクション能力を向上させるため、身近な話題や個人的に関心のある話題について英語で語り合うとともに、SDGsや科学技術に関するグローバル・イシューをトピックとして取り上げ、英語ディスカッションやディベートを中心に授業を展開する。さらに、英語発信能力の向上とともに、様々なトピックについてのディスカッションやディベートを行う過程で批判的思考力(critical thinking)や異文化理解を深めることを目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（英語） 英語ⅢB (English Presentation)	この授業では、主として英語プレゼンテーション能力を向上させるため、個人的に関心のある話題から自分の専門分野を紹介する英語プレゼンテーション・ブラクティスを中心に授業を展開する。さらに、説得力のある自己主張ができるように、TED Talks等を参考にしつつ、話しぶり(delivery)のスキルについても学ぶ。本授業は、プレゼンテーションの準備段階を含め、英語4技能を保持する自立した話者 (independent speaker) となるための総仕上げの授業として位置付ける。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（英語） 英語Ⅳ	この授業は、英語ⅠAや英語ⅠBの発展的内容を扱うクラスと位置づけ、主にTOEICを中心とした資格試験を受験するための基礎的知識を既に修得していることを前提として授業を行う。英語力とTOEICスコアのさらなる向上を目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） ドイツ語Ⅰ ※	読む・書く・聴く・話すという4技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることを目的とする。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅱ（文法）の授業である。ドイツ語Ⅰで学んだ文法事項を復習すると同時に更に新しい事項にも目を向け、ドイツ語のしくみを体系的に理解させる。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） フランス語Ⅰ ※	読む・書く・聴く・話すという4技能のバランスに配慮して、フランス語の基礎的運用能力を身につけることを目的とする。また、英語以外の外国語を学ぶことで、多元的文化の理解を目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） フランス語Ⅱ	前期に引き続き、基本的な知識を使って、簡単なコミュニケーションを行う。目的とする能力は以下のとおり。 （1）具体的な場面に応じた日常的な表現や、平易な文の意味を理解し、それをつかうことができる。（2）身近な話題について、スムーズに質問することができ、またそれに答えることもできる。同時に、フランス語圏の文化や社会についての知識も深める。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） 中国語Ⅰ ※	読む・書く・聴く・話すという4技能のバランスに配慮して、中国語の基礎的運用能力を身につけることを目的とする。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指す。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） 中国語Ⅱ	中国語の聞く、話す技能を重視しつつ、中国語検定試験4級レベル相当の中国語の文章や会話を読解の上、学んだ関連の知識に基づきつつ短文を書く。これらの訓練を通じて、中国語の読む能力と書く能力をしっかりと身につけることを授業の目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） 韓国・朝鮮語Ⅰ ※	読む・聴く・話す・書くという4技能バランスのとれた韓国・朝鮮語の運用能力を養うことを目的とする。また、英語以外の外国語を学ぶことで、多角的文化の理解を目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	外国語（初修外国語） 韓国・朝鮮語Ⅱ	実際に韓国へ旅行に行ったときに使えるようなシチュエーションでの会話力を養うことが目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	健康・スポーツ／文化・芸術 健康スポーツ ※	学生生活を健康で安全に送るために必要な知識の習得を目指すとともに、健康の維持・増進に必要な運動の意義や実践方法について学習する。さらに、生涯スポーツへの理解を深め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ能力の涵養を図る。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	健康・スポーツ／文化・芸術 芸術文化 I (音楽) ※	近年、中等教育では、音楽科の学習時間が減少している。本科目では、まずその不足分を補い、生涯にわたって文化的生活を営む上で基盤となる文化的素養を培うことを目的とする。 また、実践・理論・鑑賞を融合させながら、多様な音楽文化を理解し鑑賞する力を育む。実践は「歌唱」を通して行う。自己の身体を震わせ、意思を持って表現する実体験を経ることで、楽曲へのより深い理解を促し、同時に鑑賞時の集中力も養う。 さらに、我が国を中心とする音楽史の概観や島根県内の音楽活動を学ぶことで、地域の文化的背景と音楽活動への理解を深め、地域の社会活動を営む基盤的な知識を習得することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	基礎科目	健康・スポーツ／文化・芸術 芸術文化 I (美術) ※	これまで芸術文化に深く接した経験が少ない受講生に対し、芸術文化が現在までどのように発展してきたのか、また、芸術文化が現代の社会、私たちの身近に深く関わっていることを理解するために、様々な作品や事例紹介を通して学習を進める。 また、芸術文化は、まちづくり、観光振興、産業振興、地域コミュニティ再生、地域アイデンティティの形成などを通して、地域社会の発展と密接な関わりを持っており、これらの具体的な事例を参照しつつ、地域社会における芸術文化の役割について幅広く考え、学ぶ機会とする。あわせて、地域社会における文化施設やそのあり方や、地方公共団体等における芸術文化政策のあり方を考えるための視座を獲得する機会となることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	基礎科目	健康・スポーツ／文化・芸術 芸術文化Ⅰ（島根の祭りと芸能） ※	島根県には、数多くの祭りと、それに付随しておこなわれる芸能が伝えられている。こうした祭りや芸能は、長い年月をかけて受け継がれてきたもので、島根に暮らしてきた人々の信仰や美意識を見て取ることができ、本授業では、島根の歴史と文化について理解を深めることを目的として、どのような祭りや芸能が伝承されているのか、映像を用いながら講義する。（全14回）	
全学共通教育科目	基礎科目	情報科学 情報科学	情報社会と呼ばれる現代において中心的な役割の一つを担うコンピュータについて基礎的事項を解説するとともに、産業・社会において利用される情報技術について学ぶ。十分なトピックスと深度を内容に含め、文系理系を問わず現代を生きる社会人として求められる知識を身につける。（全14回）	講義12 演習3
全学共通教育科目	基礎科目	数理データサイエンス 数理・データサイエンスへの誘い	近年「ビッグデータ」という言葉が世の中に浸透するほど、理工・医療系のみならず、商業、経済、教育などあらゆる分野で大量のデータを的確に分析し、価値を見出すことのできる「データサイエンティスト」の役割の重要性が指摘されている。この授業では、データは何を訴えているのかといったデータの見方、データの解析を通して何がわかるのかといった帰納的思考、データの基本的な解析手法およびグラフィック表現手法、データの解析手法を理解するための最低限の数学、そしてAIの恩恵を享受した人間中心の適切な判断や活用について学ぶ。また、基本的なデータ解析手法を自ら実行できるようになることも目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 論理学	数理論理学の基本的な考え方や概念を説明する。また、それを通じて、日本語や英語といった日常言語を論理的に厳密な仕方で扱うための基礎的な技術を養う。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 行為と価値	特定のテーマについて「哲学的に」考察することを通じて、哲学的なものの方・考え方がどのようなものであるかを体験していただくことをめざします。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 自己と世界	特定のテーマについて「哲学的に」考察することを通じて、哲学的なものの方・考え方がどのようなものであるかを体験させる。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 心の世界	この授業は、心理学のおもしろさとその考え方を受講生に伝えることを目的とする。すべての人に備わり、日常生活のあらゆる局面で働いている人の心を、心理学は研究対象としており、授業では、日常生活における具体的な事例を挙げながら、心理学的な考え方ではどのように考えることができるのか、人の心の働きを心理学的に明らかにするにはどのようにするのかということを中心として初學者向けに教授する。人の心がどのように働くのか、その一般的な仕組みを明らかにする方法、個々の人の心にアプローチする方法を学ぶ。(全14回)	共同

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 心の不思議	感覚・知覚・認知的な心理現象を紹介して、その現象が生じる原因や現象の性質を実験心理学的研究・生理学的研究から考えることによって、心の働きを理解することを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 日本人の宗教と死生観	本講義ではまず、日本の宗教を概観する。日本には外来宗教である仏教・儒教・キリスト教、民族宗教である神道、さらにはいわゆる「民間信仰」など、多様な宗教が重層的・複合的に併存している。それらを全体的に捉えることはきわめて難しいが、ここでは主に仏教・神道・「民間信仰」を取り上げ、その基本的特徴を明らかにする。とくに神道と「民間信仰」に関しては、島根の事例を紹介し、そのような日本の宗教の理解を前提とした上で、日本における葬制・墓制の歴史を簡単にたどり、さらに脳死・臓器移植問題を通じて、現代日本人の死生観がどのような状況にあるのかを、多様な視点から、できるだけ具体的に探る。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 異文化との出会い	大航海時代から19世紀末までのヨーロッパ人の「異文化との出会い」とその影響を検討しながら、ヨーロッパと非ヨーロッパ世界の歴史的関係を考える。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 東アジアの歴史と文化	この授業は、日本や西欧の歴史と比較しながら中国の歴史を学ぶことにより、現代の中国社会や、実際の中国の人たちの行動やその発想を、歴史的に理解できるようになることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 小説の構造	また小説を読むことが、単に文学という領域だけに限定されるのではなく、さまざまな学問領域と関連しあうことを学ぶことにより、以下の能力の修得を目的とする。 ・小説の多様な読み方の習得 ・昭和初期という時代を知ること で、作品と時代背景・社会との関係を理解する。 ・論理的・客観的な文章の書き方の基本を習得する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 日本語のしくみ	この授業の第一の目的は、日本語のさまざまな現象を観察することを通して、受講者が普段何気なく使っている「ことば」の不思議さに気付くことである。さらに、その不思議さが生じる理由を各々の受講者が考え、日本語がどのような仕組みを持っているのか、その仕組みは他の言語とどのように異なるのかという点について理解を深める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 王朝の文学	平安時代の文学作品『源氏物語』の名場面を原文で読み、日本古典文学に親しみつつ、基本的な知識を身につけていくことを目的とする。『源氏物語』では795首もの和歌が人物の性格や経歴によって詠み分けられており、容姿や行動の描写以上に、人物の内面や意図を雄弁に語っている場合がある。この授業では、登場人物の間でやりとりされる和歌(贈答歌)に注目しながら、物語の内容を追いつつ、作中の和歌の果たす役割を考察する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 生成文法入門	私たちは無意識ながらも精密な言語能力をもち、それをもとに母語を使いこなしている。文法研究はその「言語能力」を再現するモデルを構築するものであり、その中でも生成文法研究は、「子どもが言語能力を習得する仕組み」を再現するモデルまでも構築しようとしている。 この講義では、生成文法研究の一端を分かりやすく紹介し、文法研究及び生成文法研究の目標とアプローチ方法を理解し、簡単な文法仮説を立てたり、仮説を検証できることを目標とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 日常生活と犯罪学	法学の知識のない人でも、犯罪と刑罰について、法的観点から考察できるようになることを目的とします。日常生活と犯罪とが交錯する領域について、たとえば振り込め詐欺や自動車運転事故などによる加害者になる可能性など、トピック的に取り上げて解説する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 教養としての政治	現代社会に生きていくうえで不可欠な主体的な政治認識もつために、その前提となる政治的教養を身につけることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 日本経済を見る眼	地域と現場という、具体的に考える素材を提供しながら、現代日本における環境と経済の接点を学び、社会課題の解決に向けて、ともに考えるための講義である。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 世界経済を見る眼	本講義では現代の世界経済を読み解くための基礎的知識を習得し、現代の世界経済の姿や資本主義経済のしくみについて、具体的なイメージをもとに概要説明ができるようになることを目標とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 現代経済へのアプローチ	本講義では、現代資本主義経済の仕組みやその特徴を学ぶ。各回の授業の前半は、景気循環や金融・財政など、資本主義の仕組みについての理解を深める。各回の授業の後半は、経済関係のトピックやキーワードを題材にして、日本や世界経済の現状と課題について考える。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 国際農村開発概論	途上国の開発現場では、政治、経済、文化、社会にまたがる多種多様な課題に直面している。本講義では、多様な分野の視点から国際農村開発の課題、分析手法、政策提言について考察することを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 医療経済論（看護学科）	近年、健康や医療に対する関心の高まりや経済情勢の変化に対応して医療制度改革が急速に進行している。また、医療分野とともに、介護、年金、福祉など社会保障の制度全体にわたって見直しが進展している。医療経済論の授業では、経済学（社会科学）の立場から、生物が生命を維持するために食料を必要とするように、人間・経済システムの維持（再生産）には医療サービスが必要であることを論じる。この観点から、経済システムの再生産と医療サービスとの関係や医療制度の発展の経過、問題点と改革の方向などについて説明する。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要

(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)

科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 地図の歴史	本講義ではわが国の古地図、特に国絵図、航路図、海図、航空図を中心に地図の歴史をたどり、人類の空間認識の変化を考えていくことを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 基礎社会学 I	人々が集まって成り立っている「社会」の様々な現象や問題について、その背後にある仕組みを社会学的視点から考えていくことを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 知ることと生きること	科学哲学の代表的なトピックを概観するとともに、科学についての常識的な考え方を哲学的な観点から検討する。また、それを通じて、「理系」分野と「文系」分野をつなぐ視座の一つを獲得する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 心の形成	心理学は、一般的な人の心が、誕生から現在に至るまでの時間経過に沿ってどのように形成されるのかを、科学的に明らかにしている。授業では、心理学の世界を初学者の人にわかりやすいように教授する。私たちすべての人にとっての日常生活の中に、心理学のテーマがたくさんあることに気づき、そのおもしろさを伝える。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 映像タイポグラフィ論	映画監督・市川崑（1915-2008）が生み出した映画作品の題字やクレジットのデザインは、現在のニュースやバラエティ番組におけるテロップ表現に多大な影響を与えている。本講義では市川崑作品「犬神家の一族」（1976）を縦軸として、明朝体の特質と背景、文字複製技術の変遷（金属活字・写真植字・デジタルフォント）、デザイン手法の歴史的背景などを紐解いていく。それらをとおして、文字を主としたグラフィック表現、すなわちタイポグラフィの視点を明らかにする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 現代芸術の世界	モダンアートの芸術家をひとりずつ取り上げ、その芸術家の作品を鑑賞しながら、芸術家を取り巻く社会、人々、歴史といった作品が生まれた背景を探っていく。そして、現在、それらの作品にどのような解釈が与えられているかを解説する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 現代芸術の思想	「デザイン」をキーワードに造形芸術について考え、デザイン史の学習を通して、20世紀の芸術動向の知識を得ること、デザイン、美術の重要な固有名を説明できるようになることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 東アジアのことばと文学	連歌の制作を通して、日本の伝統文芸に触れ、文学的な素養を身につける。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 英語と日本人	<p>“英語ができる” “英語が分かる”とは、何か？ 英語と社会、英語と文化のさまざまな関わりを見ていながら、自分なりの「英語観」を培うことを目的とする。具体的には、次のような問題を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昔の英語、今の英語、将来の英語 2. “正しい”英語と“正しくない”英語 3. “英語”が分かるって、どういうこと？：日本語に訳しても、何が面白いのか分からないことがあるのはなぜか（全14回） 	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 古代出雲の考古学	<p>「出雲」を中心にそのほかの地域の考古学資料を比較検討することによって、古代「出雲」の特質を探る。また、歴史復元を試みるにあたっての、考古学資料の特性についても考えさせる。（全14回）</p>	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 山陰の歴史-古代・中世-	<p>知識をもとに歴史をどのように考えるか、あるいは当然の事のように思い込んできた歴史的事実そのものを問い直し、歴史とは何か、歴史を学ぶとはどういうことなのかを古代・中世の山陰地域を通して理解し、身につけてもらうことを目的とする。同時に古代の出雲・山陰地域を出発点として、視野を日本そして世界へと広げていくことによって、われわれはぐくみ育ててきた身近な歴史が、よりグローバルな歴史へとどのように関連しているのか、を考えていくことももう一つの目的とする。（全14回）</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 山陰の歴史-近世・近現代-	近世・近代・現代の地域の歴史の展開とその特徴を、政治・経済・社会・文化の各分野にわたる具体的事例をもとに、論じていく。そして、全ての講義を通して、受講生が、日本の近世から現代に至る歴史の中で地域の歴史的特徴を理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 考古学からみた古代山陰の世界	「古代山陰と律令国家」を基本テーマとし、古代の山陰における考古学資料(官衙・官道・寺院・集落)から、律令国家の実態について考え、その中で、都城や他地域の官衙・寺院との比較の中で、古代山陰の地域性を考えさせる。また、古代史研究における考古資料の活用方法についても認識を深める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 企業と法	企業に関する法は多数ありますが、「企業と法」の授業では、「保険法」を取り上げる。保険法は保険契約について定めるものである。保険法をめぐる法律・判例・学説を学ぶことによって、保険契約に関する法律問題の基礎を身に付けることを目的とする。保険法の基本的な考え方を中心に、できる限り簡明・平易に説明していく。また、本講義の受講生は、法学を学んだことのない者が多いことが想定されますので、抽象的な理論の説明は最小限にとどめ、実際に問題となった具体的な事例を基に、保険契約をめぐる法律問題を説明する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (人文社会科学分野) 現代社会と法・人権	普段の生活の中では、法との関わりというものをなかなか意識しづらいかもしれないが、生活と法は不可分の関係にある。講義では、できるだけ身近な例を引き合いに出し、社会における法との関わりを意識できるように説明する。また、刑事裁判に関する制度を学ぶことで、通常、縁がないと思われる法律と、どのような関わりがあるのかを実感し、法律というものを身近に感じてもらう。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 情報化社会と経済	近年ではIT革命、すなわちコンピュータ・テクノロジーや通信技術の発達・普及、インターネット、さらに携帯電話やデジタル放送に代表される情報技術の革新が経済社会に大きな変革を与えようとしている。しかし一方で、急激な情報化はさまざまな社会的問題を生み出し、また、この分野での遅れが深刻な情報格差、さらには経済格差につながっていく可能性もある。そこで本講義では、情報化の進展によって生じる様々な社会問題、経済問題、地域問題を見据える能力を養うことを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 国際化のなかの地域経済	経済のグローバル化が地域経済に与える影響は近年大きくなっている。本講義では、国際通貨制度の変遷や国際収支の考え方、自由貿易の考え方と問題点、地域振興を考える上で焦点となる農業問題、農業政策、産業立地問題等について概説する。講義を通して、国際化そのもののあり方や地域社会の持続的発展のあり方を考える力を養うことを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 基礎社会学Ⅱ	この授業では、社会学であつたわゆるいくつかのテーマをとりあげながら、社会的なものの方について学んでいく。はじめて社会学を学ぶ人向けに、社会学とはどんな学問かについておおまかなイメージをつかんでもらうことを目的としている。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 地域開発と環境	本講義では、公害や環境問題の歴史を学び、地球温暖化問題や原発・エネルギー問題など現代の環境問題の現状と発生構造を理解することとともに、解決方法を論理的に考え出すことを目的としている。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） フランスの社会と文化	フランスという国について、その成立から現代までの社会の動きを文学・芸術・言語・思想・宗教など文化の諸相との関連から概観する。さらにフランスで暮らす人々の生活習慣、家族（結婚）観、若者の価値観など最新のトピックを通して、フランスの人・社会・文化についての理解を深める。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 考古学からみた韓半島の先史・古代文化	考古学という学問がいかなる調査・研究方法を以て研究されているのかを確認したうえで、韓半島における先史時代および古代国家成立までの歴史的・文化的流れを把握することを目的とする。また、近代国家の領域が形成される以前の日本列島と韓半島との交渉・交流の形態とその意義についても理解を深める。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 山陰のことば	山陰の方言を主な対象として、地域方言をひとつのことばとして記述・分析するための基礎的な知識や考え方を身につける。特に、受講者の出身地域に関係なく、山陰方言を客観的な視点でとらえられるようにする。また、方言を調査する方法についても学び、実践する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 大学教育論－島根大学と社会－	大学生にとって最も身近な存在である「大学」を対象に、その制度や構造を学び、時系列に沿って島根大学と関連する事項の学習を行う。最後に、島根大学で学ぶことについて、改めて考えることとする。今日の大学は急速な変化を遂げており、そのような中では、今日の大学を相対化する視座が重要となる。その視点から、現在の学生生活や大学での学びを振り返り、今後をよりよいものしていくための基本的な考え方を身につけることを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 観光学入門	国家的な観光の位置づけ、地域と観光との関わりなど、現代における観光の意義をふまえつつ、観光がどのように多様な学問領域と関わるのか理解し、履修生自身の専門の学びや将来へとつなげていくことを目的とする。授業では、国内外の事例を挙げながら、「観光と地域振興」「観光の歴史」「観光の現状」「観光と文化」などをテーマに問題のポイントを講義する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） スタートアップ・イングリッシュA	本授業は、英語学習に困難や不安を抱える学生を対象にして、その困難や不安を克服するために必要な英語の基本語彙や文法基礎力を身につけるとともに、正規の英語必修科目の授業にしっかりと対応していけるように、英語学習に対して積極的に取り組む姿勢を培う。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 福祉の世界	この授業では、社会福祉をめぐる諸活動と論点を多角的な視点から学ぶことにより、私たちが生活する現代社会と人々についての理解を深めることを目的とする。授業では、多様な社会福祉の実態（過去・現在）を取り上げ、そのことにより、「生きづらさ」を抱えた人たちが、改めて生活する力を獲得する方法について考える。さらに、人々の「生きづらさ」を解消するための、社会変革と地域づくりの方法についても探る。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 問題解決の進め方	問題とは何かを考え、問題の発見、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を提供する。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題発見と解決の具体的な事例を集めて紹介する。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 社会の産業と倫理	社会と産業をめぐる諸科学において、倫理の問題がどのように取り上げられているかを検討する。「いかに生きるべきか」「善く生きるとは何か」といった問いをめぐるものである倫理は、あらゆる人間活動において、極めて重要な要素である。しかしながら、科学的方法にとって、倫理の問題の扱いは、けっして容易なものではない。本講義では、倫理の問題がなぜ重要なのか、それを学問的に扱うにはどうしたよいか、そして、学問的な営みそのものにとって、どのような倫理的検討が必要なのか、について理解を深める。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（人文社会科学分野） 市民自治の知識と実践	現代の市民社会において、自律的、活動的に生きることの意義を伝え、そのために必要となる基礎的な知識や技術を紹介する。現実社会と大学での学びの関係性を示すことで、社会科学一般を学ぶことへの動機づけを与え、さらには、社会科学の実践的な活用の展望を示す。「市民自治」をキーワードに、学問的な思考法、社会組織の運動の技法、知識の具体的な収集法や活用法の事例などを教える。 (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(人文社会科学分野) 初級微分積分学 I	This course is primarily designed for 1st-year undergraduate liberal arts students (to study mathematics in English). The main goal is to give students a vision of Calculus as a holistic body of knowledge and as a scientific human accomplishment. The key concepts of Calculus are derivatives (rates of change of a function) and integrals (informally speaking a way to recover a function from its derivative). Understanding these concepts is essential for further studies of mathematical subjects as well as for applications of mathematical methods in other sciences. This course will focus on developing analytical reasoning and skills in order to calculate verify interpret and communicate the results clearly both orally and in well-written sentences. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 初級微分積分学Ⅱ	Objectives: This course is primarily designed for 1st-year undergraduate liberal arts students (to study mathematics in English). The main goal is to give students a vision of Calculus as a holistic body of knowledge and as a scientific human accomplishment. The key concepts of Calculus are derivatives (rates of change of a function) and integrals (informally speaking a way to recover a function from its derivative). Understanding these concepts is essential for further studies of mathematical subjects as well as for applications of mathematical methods in other sciences. This course will focus on developing analytical reasoning and skills in order to calculate verify interpret and communicate the results clearly both orally and in well-written sentences. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 初級線形代数学Ⅰ	文系学生向けの線形代数学の講義で、高校での「数III」や「行列」の知識を仮定せず、線形代数学における基本的な知識を習得することを目的とする。この講義では、高校までは数学の苦手だった人、また文系において数学をあまりしなかった人、大学入学を機に数学を勉強したいと思っている学生を主な対象とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 初級線形代数学Ⅱ	線形代数学は連立1次方程式の系統的な解法を学ぶことを目的とする。まず行列の演算、行列の基本変形など行列の操作について学び、ガウスの掃き出し法によって連立1次方程式が解けるようになることを目指す。次に行列の階数について学び、この概念が連立1次方程式が解をもつための条件と関係することを学ぶ。続いて正方行列の行列式について学び、行列式が0でないことと逆行列の存在が同値であることを学ぶ。そしてクラメルの公式を用いても連立1次方程式が解けるようになることを目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 実用微分積分学Ⅰ	高等学校で学習した「微分」や「積分」の内容を基に、数理分野の学生が専門科目を履修する際に必要不可欠な知識と計算技術を修得することを目的とする。また、プレゼンテーション能力の上達やコミュニケーション能力の向上も目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 実用微分積分学Ⅱ	高等学校で学習した「微分」や「積分」の内容を基に、数理分野の学生が専門科目を履修する際に必要不可欠な知識と計算技術を修得することを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 実用線形代数学Ⅰ	行列の演算（和・積）は数の演算を行列の集合に拡張したものと考えることができる。本講義では、行列の簡約化を修得し、それを用いて連立1次方程式の解法、逆行列の求め方及び行列式の計算を実践し、ベクトル空間の理解に必要な基本的事項を理解することを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 実用線形代数学Ⅱ	行列の演算 (和・積) は数の演算を行列の集合に拡張したものと考えることができる。本講義では、ベクトル空間の概念を理解し、その基底と次元が求められるようになること、及び線形写像を理解しその行列表示や基底の変換行列との関係を理解することを目的としている。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 統計学入門	ある疾病の原因として喫煙が関連しているかどうか、関連しているとしたらどれくらい寄与しているのかなど、健康や疾病にかかわる多くの現象は、数値化することによって客観的に理解することができ、その影響を科学的に推定することが可能となる。死亡原因のような健康指標・保健指標も統計の基礎知識の上に成り立つものであり、そのようなデータが保健行政を進める基礎となっている。 この講義は、数学の講義であるが、具体例に沿って、統計の考え方ならびに健康に関連するデータの統計処理の方法を理解する事に重点をおき、どのようなデータにどのような統計をあてはめるべきかを判断できることであり、その判断力を養うことを目標とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 実験データ解析入門	文系・理系を問わず、現代の研究者・技術者・ワーカーには様々なデータを解析して、そこに潜んでいる情報を引き出す能力が求められている。自主的な目的意識を持ってデータの解析を行う能力は先々計算機に仕事を奪われないためにもぜひ身につけたいもののひとつである。この授業ではRというプログラミング言語を使った実験データ解析の初歩を学ぶ。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 物理学で見る自然界の仕組み ー力学・電磁気学と熱力学ー	我々は自然界の色々な理(ことわり)のなかで社会生活を営んでおり、物がどのように動くのか、電気がどのように働くのか、熱が物質をどのように変化させるかなどの“現象”を経験として知っている。この講義では古典物理学と呼ばれる学問領域の力学・電磁気学の基本原理を説明した上で、より概念が難しい“熱力学”を取り上げ、自然界の現象を理解するための基礎を学ぶことを目的としている。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 物理のための数学入門	物理学の諸法則は数学で記述され、また、物理現象を解析する際にも数学が用いられている。本講義では、高等学校で習得した数学の基礎的概念を補足して、大学で学ぶ物理学に必要な数学の初歩を学ぶことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 反応の化学	有機化学反応の起こる仕組みを電子の動きを用いて説明し、理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 環境の化学	本授業を環境理解のための基礎化学と位置づけ、これまでに起こったさまざまな「環境問題」の原因とそのプロセスやメカニズムについて考え、「環境問題」に対する問題意識のあり方を再考する(意識改革する)一助とすることを目的としている。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 生物有機化学	現在までに約2000万種にもおよぶ物質の存在が確認されているが、その90%近くが構成元素として炭素を含んでおり、それら膨大な数の炭素化合物を扱う化学が有機化学である。また、生体は、主に糖質、脂質、タンパク質、核酸等の有機物質から構成されており、特に生命現象や生体の機能、さらには疾患の原因等を分子レベルで理解するには、それらの生体有機物質の化学構造、性質、機能等に関する化学的な理解が不可欠である。このような観点から、この授業では、まず基本的な官能基をもつ有機化合物の性質や反応を説明し、さらにその官能基の性質や反応性に基づいて糖質、脂質、タンパク質、核酸の基本的な構造と性質・機能について解説する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 高分子と有機分子の化学	現代社会を支える重要かつ身近な物質であるにも関わらず、一般的にあまり認知されていない高分子(ポリマー)や機能性有機分子について、大学文系および理系学部の卒業生として求められる、基礎的な内容を理解してもらうことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 地球と人間生活	地球の成り立ちとその後の物質循環によって地球環境が変化してきたことを紹介し、その上に成り立っている現在の地球環境と人間生活との関わり、およびエネルギー資源・鉱物資源利用の人間生活への影響などを理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 計測のはなし	計測とは対象となる物理量を数値で表すことと定義されている。我々の身の周りで役に立っている計測技術について、基礎から応用技術まで幅広い話題について紹介する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 住まいの科学	よりよい住まいを考え、作るために必要な基本的な知識や内容を説明し、住まい・建築に関する基礎知識及び住まいの学習を通じて、人、屋外環境、材料などと建築との関係を知り、より良い暮らしに向けた知識を習得することを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） エレクトロニクスのはなし	我々の生活に密接なエレクトロニクスについて、エレクトロニクス機器の原理や仕組み、エレクトロニクスの歴史や将来展望を、部品・材料の観点から学ぶ。エレクトロニクスの背景にある科学と技術と歴史を知ることを通して、現在と将来を見つめる目を養うことを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 動物の世界	動物の系統と歴史，原生動物の構造、分類、特徴，動物の生態・行動について学び，動物の基礎的な内容を理解することを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 植物の世界	多様な植物はどのような進化の道をたどったのか，植物は地球上の全ての生物に於いてどのような存在か，簡単素朴な問題提起および身近な植物の生物学的実像を認識することにより，植物の生物科学的基礎知識を習得することを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 物質と生命	発生や進化、脳の研究からは生命の謎や不思議を徐々に説明できるようになり、ガンや老化、免疫の研究成果は病気を克服し健康な生活を送るための新しい知恵を与え続けている。また、バイオテクノロジーによって自然をコントロールすることが現実のものになってきた一方で、そうした技術や成果をどこまで受け入れるかの判断は、専門家だけにまかせるのではなく、一般の人々にも求められるようになってきている。この講義では、こうした生命現象を物質の面からとらえることによって、生命科学の基礎となる考え方と研究成果の理解を図り、その応用についての的確な判断をするための基本を身につけることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 医科基礎生物学	生命現象が理解できる基礎を築くために、生体の基本単位である細胞から組織、器官という生物体のつくりと階層性を学ぶ。さらに動物がどのようにホメオスタシスを維持しているのかも学び、生命現象に対する理解を深める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 化学の歴史	歴史の中の化学者(科学者)と呼ばれる人たちが、自然を構成する物質をどのように見ていたかを検証しながら、物質とは何かを考えるときにも大学生としての化学的常識、知識を蓄え、世の中を構成している物質が何から成り立っているか、世間に販売されているO ₂ A機器等が、どのような化学物質で構成されているかを理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) ヒトと栄養と生命	心身の健康を自ら維持・増進するために必要な栄養に関する基本知識を修得する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要

(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)

科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 生体分子の世界	生物の生命活動を支える生体分子の基本的な構造・物性および反応について理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 生命情報の科学	近年の科学技術の発展により、生物のゲノム情報が次々と解読され、様々な生命現象や進化のメカニズムの解明に大いに役立っている。さらに、医療や健康への貢献、食糧やエネルギーの増産、環境浄化・モニタリングへの利用など、様々な応用研究にとって重要な基盤となっている。本講義では、生物・生命とは何か?というシンプルかつ重大な議題からスタートし、生物が生物としてあるために必要な分子基盤を学び、その上で、生命情報科学が生物学の理解や私たちの生活にどのように役立つかについて、最新の知見とともに解説する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 細胞生物学	細胞の構造と機能、代謝の仕組み、細胞分裂・分化・老化・死といった生命現象の基本を解説する。遺伝子の構造とその役割を概説する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 地域開発と水環境	現代文明によって私たちの生活の快適性と利便性は飛躍的に進展してきたが、その一方でさまざまな環境問題がクローズアップされるようになった。本講義では、すべての生命の根元である水に焦点を当て、水環境の基礎的な理解と地域開発との関係について、島根県に特有の汽水域を含む水環境問題、地球環境問題、生物多様性、リスク管理、人口減少、科学技術の不確実性などの、さまざまな観点から考えることを目的とする。また、我が国の居住地面積の4割を占め、食料生産のみならず文化や伝統を継承してきた農村地域の水循環についても考えていく。さらに、現代社会のかかえる環境問題について、社会的に賛否の分かれる課題を取り上げ、ディベートの考え方を取り入れた、双方向型の討論形式の授業も行う。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 光環境と生物	光は生命活動に必要なエネルギーを供給するだけでなく、生活史の進行を調節する信号としての機能も果たす一方で、人間活動に伴うオゾン層の破壊が紫外線量の増大をもたらし、人間を含む地球の生物に重大な影響を及ぼす危険性が指摘されている。この講義はこれら光環境と生物の関わりについて概説し、生命活動が依って立つ基盤的条件である光環境の重要性に関する認識を深めることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 生物多様性と環境保全	今や地球上の多くの生物種が絶滅の危機に瀕しており、自然生態系に限らず、農業生態系でも同じ様相を呈している。生物多様性の基礎的、総合的な事象の理解に立って、数々の実証的な取り組みを出来るだけ多く紹介しながら、環境の保全に関する問題解決には何が必要かを探る。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 機械の歴史	人類の文化は火の使用に始まり、農業革命(第一の波)、産業革命(第二の波)、情報革命(第三の波)を経て進化してきた。18世紀初頭に開発された自律的蒸気機関は人類が最初に製作した近代的機械であり、産業革命の原動力となった。以後、今日の航空機や高速鉄道に至るまで、機械は連綿と発展し続け、人類に多大な恩恵をもたらした。しかし、その一方で、機械の発展によって、自然環境は大きく変化してきている。この機械の歴史を通じて、現在と未来社会のあるべき姿、さらに個人は何を為すべきかを考えることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 電気・通信技術の歩み	電気・通信技術の発展過程を振り返り、これらの技術がどのようにして現在の社会生活の基盤を形成してきたかを学ぶことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 生態学入門	生物学はミクロ生物学とマクロ生物学から成る。本講義の目的はマクロ生物学についての基礎的な内容を理解することにある。本講義では、高校生物を履修していない学生やマクロ生物学には興味があるが、高校生物では物足りないという学生を対象にして、マクロ生物学の基礎的な内容を初学者でも容易に理解できるように解説する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(自然科学分野) 医科基礎化学	本授業は、生命科学に応用できる化学の原理・原則を学ぶことを目的としている。授業では、まず一般論として物質界の基本法則(原子・分子、化学結合)について述べるが、その後は、生体機能と関連付けながら立体化学を、また、生体内反応と関連付けながら最も基本的な化学反応である酸・塩基反応と酸化・還元反応の原理を講義する。さらに、化学反応におけるエネルギー論と反応速度論についても概説する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 統計検定セミナー初級	「数理・データサイエンス特別副専攻プログラム(初級プログラム)」の科目として、データの分析において重要な概念を身につけるとともに、統計検定3級合格を目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 医科基礎物理Ⅰ	医療や生命科学を取り巻く諸問題に多面的に取り組むために身につけておくべき基本事項の中から「物理現象と物質の性質」を取り上げ、実際に使える学力とする事を目的としている。特に、高校で物理を十分に履修していない学生が理解し習得できるように配慮する。これらの項目は、物理の基本概念であり、熱力学における力・仕事・エネルギー・ポテンシャルを理解するうえで必須である。高校物理で取り扱った限定的な説明ではなく、広く適用できる一般的な記述法で講義を展開する。また、電磁現象は神経における信号伝達現象を理解するうえで必要である、電場・電位・静電容量などを具体例を挙げて解説する。また、講義の合間に、医療で使用されている機器について動画を交えて解説する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (自然科学分野) 医科基礎物理Ⅱ	生体内で発生・消費するエネルギーの基本的な理解のため、ギブズエネルギーや化学ポテンシャルの考え方を熱力学の法則から順序だてて解説する。後半は、医療や生命科学の最前線で物理現象がどのように使われているかを講義する。X線・NMR等の理解に必要な原子物理と放射性同位体・放射線について解説し、医療への応用例を紹介する〔4コマ：藤井〕。医療現場で多用されているMRI装置について、その基礎となるNMRの原理から解説し、科学の最前線ではどのように応用されているか紹介する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 分子細胞生物学Ⅰ	現在加速的に発展している基礎医学と臨床医学との接点にたち、疾病の本質を理解するためには、最新の分子細胞生物学的知識に基づいた分子病態学的知識が必須である。従って、分子細胞生物学Ⅰの講義では、1年後期の分子細胞生物学Ⅱ・生化学実習と合わせて、臨床医学を分子病態学的に理解するために必要な基礎的内容および最新の内容を展開する。昨年末より今年にかけて全世界規模で猛威をふるっている新型コロナウイルスによる感染症 COVID-19 の感染とその治療法についても題材と一緒に考えていく。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 分子細胞生物学Ⅱ	生命現象が理解できる基礎を築くために、生体の基本単位である細胞から組織、器官という生物体のつくりと階層性を学ぶ。さらに動物がどのようにホメオスタシスを維持しているのかも学び、生命現象に対する理解を深める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 自然科学はじめの一步	本科目は、高等学校の「理科」および「数学」の教科と、自然と環境コースが提供する導入科目をつなぐ役割を期待するものである。自然科学に対する専門的知識を持たない方に、物質・エネルギー、生命・生態、宇宙・地球などの自然科学の諸課題における科学的な考え方と、数理・情報学の方法を解説する。これにより自然科学への興味関心を高め、より具体的な学習への動機付けとする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 基礎物理・化学	大学で学ぶ物理・化学の基礎を理解するために必要な高校物理・高校化学を復習するとともに、専門課程において、広範な素材から成る実用材料に関わる知識や技術を学ぶ上で不可欠となる基礎的な物理・化学を学ぶ。(共同/全14回)	共同 講義8 演習6

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 数学基礎Ⅰ	高校数学ⅡおよびⅢの内容の理解を深めるとともに、専門課程において広範な実用材料に関わる諸現象を理解するために不可欠な微分積分学の基礎を学ぶことで、材料研究に必要となる数学の基礎知識を修得する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（自然科学分野） 数学基礎Ⅱ	数学基礎Ⅱの内容を多変数や微分方程式の解法に発展させることで、専門課程において広範な実用材料に関わる諸現象を理解するために不可欠となる数学の基礎知識を修得する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（学際分野） スタートアップセミナー	この授業は受講者同士が意見を交換し、協力し合いながらプロジェクトを実践することで、多様性を理解し、それを活用する方法を身につけることを目的とする。受講者はグループで島根県の課題を自分たちが解決するマイプロジェクトを企画・実施し、その成果を発表する。なお、この授業は大学での学びについて理解を深める機会でもあり、実社会（地域社会）への理解・関心を高め、そのために自分は何を学ぶべきかを考えられるようになることも目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目（学際分野） グローバル・チャレンジ：海外留学・インターン・ボランティアへの道筋	本授業は、①海外の留学・ボランティア・インターンの現状を知る、②地域とグローバルをつなぐ課題に取り組むことで課題解決のための方策を学ぶ、③海外の学生と交流することでコミュニケーションの取り方について学ぶ（今回はインドと中国の学生と交流を行います）ことで、グローバル社会の現状や、多様な人々の価値観を理解するための基礎を学ぶことを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(学際分野) グローバル・イシュー：国際社会が抱える課題と対応	グローバル社会のリーダーとなるべき人材の育成。開発途上国の課題(SDGsの17の項目に関する講義)への取り組みを理解するとともに、自ら世界が抱える課題解決参加へのモチベーションを高めることを目的とする。14回の講義の中で3回は海外の大学(インド及びスリランカ)の学生を交えて、SDGsに関する各国の実情について日本語にて交流を行う。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(学際分野) 大学生の学修と倫理	この授業では、大学での学修や研究活動において誠実さが求められる理由を理解するとともに、誠実に学び、倫理的問題状況において適切な判断を行うために必要な知識と態度を身につけることを目的とする。そのために、大学における学びの意味や、アカデミック・インテグリティ(学問的誠実性)概念について学ぶとともに、倫理的問題状況に関する他者とのオープンなディスカッションを行う。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(学際分野) アントレプレナーシップ入門セミナー	これから生きていく上で、全員が必要なスキル「積極的に挑戦していく姿勢や発想、能力」を身につけ、実践するために何が必要か、教員、講師、受講生が同じ目線で考え、話し合いながら進めていく。(1)産・官・学・公など様々なセクターで起業家精神を活かして実務に携わっている方、起業家、起業家支援者の方の講義、ディスカッション、ワークを通して社会で実践的に役立つアントレプレナーシップとは何かを考える。(2)自分の専門分野やキャリアにつなげる視点を持って、起業やプロジェクトに取り組むアントレプレナーに必要なマインドセット、必要な知識、スキルを学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目(学際分野) オープンデータ分析A	数理・データサイエンス入門・誘いで学んだことを活かし、より実践的なデータ分析を行うことで、データ分析力・データ読解力を身に付ける。また、これらの分析結果を分かりやすく説明する資料作成能力を身に付けることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	入門科目 (学際分野) オープンデータ分析B	数理・データサイエンス入門・誘いで学んだことを活かし、より実践的なデータ分析を行うことで、データ分析力・データ読解力を身に付ける。また、これらの分析結果を分かりやすく説明する資料作成能力を身に付けることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 芸術学セミナー	西洋美術作品を見る際のさまざまなポイントについての理解を深めることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 日本語の表現	日本語による文章作成や口答発表の技術を身につけるために、さまざまな課題に取り組みます。またその過程で、文章作成に必要な日本語の様々な規則や、説得の技術について理解します。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 英米の文学	Study important British and American poems from the romantic era (Coleridge, Wordsworth, Keats) and the later nineteenth century (Dickinson), to twentieth-century modernism (Eliot, Pound, Stevens). (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アメリカ短篇小説を読む	アメリカ人作家Raymond Carver (1938-1988) の初期短篇小説を原文で読む。授業の進行は、原文テキストを読解していくことを中心とするが、ときおり翻訳、映画、エッセイ、詩といった少し違った角度から作品・作家を眺め直したりしながら、カーヴァーという小説家について考えていく。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） ヨーロッパの言語文化Ⅰ	ドイツ文化に関するドイツ語テキストを読むことで、「言語」や「文化」に対する考察を深める。また、「ドイツ語Ⅰ」で習った文法の定着と、表現能力の向上を目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） ヨーロッパの言語文化Ⅱ	ヨーロッパという異なる言語文化圏・地域社会に関する文章の講読や、映画やインタビューなどの映像（音声）資料の視聴を通して、フランスを中心としたヨーロッパ社会の「ことば」・「文化」・「社会」についての知識を深める。また、フランス語の基礎的な知識（初級文法・基本的な語彙）をより実践的に磨き上げ、外国語運用能力を高めるための基本を身につける。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 小説という楽しみ	さまざまな現代小説を読みながら、複眼的視野、柔軟な思考のトレーニングを行う。 この講義では、各自の考えを發表し、他者に対して自分の考えを正確に伝えることができるか、他者の意見を理解することができるかの実践を行う。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国文学における風土と人間	受講生各自による、漢詩(五言律詩)の創作を最終目標として、漢詩全般に関わる心得を講ずる。 また、授業題目の「中国文学における風土と人間」にあるような話題を適宜提供する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 生涯発達の心理学	乳児期から成人期・老年期までの心理発達の基礎を理解し、ライフサイクルにおける各段階での特徴について、自分自身の現在・過去・未来に照らして具体的に学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 異文化コミュニケーション入門A	This course will help students develop the basic skills needed to effectively communicate with people of various cultures. We will cover how culture influences opinions on various topics; how to research reliable information on different cultures; and language points related to explaining and discussing culture. We will also cover controversial topics related to culture such as religion; gender/sexuality; and immigration. Through this course you will develop versatile and practical communication skills applicable to various situations. You will also develop a perspective of how diversity shapes our world and how this diversity can shape our future through initiatives such as the SDGs. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 異文化コミュニケーション入門B	To develop cross-cultural communication aptitude through in-depth study of worldwide worldviews, behavior, beliefs, attitudes, values, customs and traditions. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 初級英会話A	This course will help students develop the foundational skills needed to effectively communicate in spoken English. We will cover skills such as how to start a conversation asking good questions and listening for the purpose of responding. Through this course you will develop versatile and practical conversation skills applicable to various situations (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 初級英会話B	This course will help students develop the foundational skills needed to communicate using spoken English in various situations. We will cover language used in interviews conversations speeches lectures and media. This course will help you to develop practical speaking skills that can be applied to various situations. You will also develop confidence in speaking English in various situations. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバルビジネスコミュニケーションA	To develop confidence in speaking English while discussing both business and general topics (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバルビジネスコミュニケーションB	The purpose of this class is to learn about international businesses through the English commercials the companies have used. We will study how businesses communicate with consumers and learn how to have effective communication in various business situations around the world. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報A (英語圏)	This course allows you to learn about Australia in more depth. You will learn more about Australia's multi-cultural society and Australians' daily lives and how they celebrate special events throughout the year. These studies will enable you to travel study or live in Australia and deal with Australian business clients in your future career. You will also further develop your intercultural understanding as well as your English listening and speaking skills. This class is taught entirely in English. If you have concerns about the level please contact Lieske-sensei or the instructor. This is an intensive course that will be held in September. IF the coronavirus is not a threat we will have some activities like cooking experiencing a boomerang etc. This class is one of the electives for the English Minor program. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報B (英語圏)	This semester we will watch Hollywood movies based on true stories to learn more about American culture and the way Americans perceive the world. Each movie is inspiring and uplifting. This is an irregular course. It will meet on Saturdays so that we can watch more of the movie at one time. The movies are all Hollywood movies that are based on true stories. The stories are inspiring and can teach us many things about cultural differences and learn about American culture. At the same time we can think about the characters and their critical thinking and problem solving perspectives humility ability to overcome problems etc. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報C (英語圏)	The purpose of this course is to learn more about Americans what modern families in American are like and Americans' way of thinking and through this to improve your English. We will use different TV shows than previous years and the discussions will focus on different aspects of American culture. Even if you took this course before you can take the class again and study all new material. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報D（英語圏）	This semester, we will watch three Hollywood movies based on true stories to learn more about American culture and the way Americans perceive the world. We will also watch one true story from South Africa so that we can study a country with English culture that is different than the United States. The Japanese movie titles are on the schedule so you can search to learn more about the movies. Each movie is inspiring and uplifting. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・リスニングA	To provide students with the listening skills and notetaking skills needed to listen to and record a lecture presented in English. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・リスニングB	This course will help students develop the skills needed to understand various forms of spoken English and identify important information in pieces of spoken English. We will cover language used in interviews conversations speeches lectures debates and media. Through this course you will develop versatile and practical listening skills that are applicable in various situations. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・リーディングA	This course will help students develop the skills needed to effectively comprehend and respond to written English. We will cover fundamental skills such as vocabulary building identifying main ideas and details and summarizing a text. We will also cover critical thinking skills such as evaluating evidence and synthesizing ideas from multiple texts. Through this course you will develop versatile and practical reading skills applicable to various situations (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・リーディングB	This course will help students develop the skills needed to understand and analyze various English texts. We will cover language used in graphics informative text persuasive text and narrative text. We will also cover formal and casual written language. Through this course you will develop versatile and practical reading skills applicable to various situations (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・スピーキングA	This course will help students develop the skills needed to effectively communicate in spoken English. We will cover presentation skills skills for discussion and listening for the purpose of enabling critical thinking and deep conversation. Through this course you will develop versatile and practical speaking skills applicable to various situations. Note--the first class is on Zoom. From the second week this class will be held in person (in a classroom). (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・スピーキングB	This course will help students develop the skills needed to communicate ideas using various forms of spoken English. We will use language used in presentations lectures discussions and other communicative settings such as giving oral feedback. Through this course you will develop versatile and practical speaking skills that are applicable in various situations. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・ライティングA	This course will help students develop the skills needed to effectively communicate in written English. We will cover the foundations of paragraph writing; writing in formal and casual settings; and writing for various purposes (narrative; persuasive; informative). We will also practice proofreading; providing feedback; and peer editing. Through this course you will develop versatile and practical writing skills applicable to various situations (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） アカデミック・ライティングB	This course aims to help students understand how writing works how to communicate in a variety of genres provide and utilize feedback and apply this knowledge to write work that draws on a variety of genres to clearly communicate with an audience. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 上級TOEFLセミナーA	This course is designed for intermediate students with a 500 TOEIC score. The purpose is to understand the patterns that are recurrent in the TOEFL test and use those advantageously. Students will leave this course being able to proficiently identify comprehend and produce effective answers for the TOEFL test. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 上級TOEFLセミナーB	This course is designed for intermediate students with a 500 TOEIC score. The purpose is to understand the patterns that are recurrent in the TOEFL test and use those advantageously. Students will leave this course being able to proficiently identify comprehend and produce effective answers for the TOEFL test. This course will cover all sections. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中級英会話A	This course will help students develop the skills needed to effectively communicate in spoken English in a variety of everyday settings. We will cover skills such communicating with/about social media understanding regional variations of English and adjusting opinions through conversation. Through this course you will develop versatile and practical conversation skills applicable to various situations. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中級英会話 B	To develop the skills required to fluently express and understand ideas and opinions verbally (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバル・キャリア	Over your lifetime you will spend at least 90000 hours working. It's never too early or late to start thinking about your future. After you graduate up to half of your waking hours will be spent on work or work-related things so your job choice is vitally important. In addition to the fact that our careers are such a huge part of our life because of globalization the world is increasingly interrelated so considering jobs from an international not only local or national perspective allows you to explore areas you may not have thought of. This self-exploration can be a thrilling process. The purpose of this course is for you to meet and interview people from various countries as you learn about their jobs and fields experiences and careers and then apply this information to your life as you consider the best future for yourself. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要					
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)					
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野）	グローバル・アンダースタンディング A	The purpose of this course is to discuss a wide variety of issues. For many of the classes you will be using technology to communicate with one or more classes of university students in Costa Rica the United States Taiwan possibly other countries. For the Costa Rica sessions the topics have been decided. For the other sessions you will decide the topics together with the students who are living abroad. During many classes you will also have the opportunity to talk with one to three foreigners individually in a Zoom breakout room. Please note that because of the American universities' schedules this course will finish at the end of December. The schedule below is tentative. Based on the partner universities the schedule may change. (全14回)	
		発展科目（人文社会科学分野）	グローバル・アンダースタンディング B	The purpose of this course is to discuss a wide variety of issues. For many of the classes you will be using technology to communicate with one or more classes of university students in the United States Taiwan possibly other countries. You will decide the topics together with the students who are living abroad. During many classes you will also have the opportunity to talk with one to three foreigners individually in a Zoom breakout room. Please note that because of the American universities' schedules this course will finish at the end of December. The schedule below is tentative. Based on the partner universities the schedule may change. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) クロスカルチュラル・アンダースタンディング A	The purpose of this course is to use English to talk about local issues as well as cultural differences. By studying topics from different perspectives students should be able to gain new understandings of the world around them. Discussions for the first part of each class will focus on cultural topics while in the second part of each class students will discuss an issue in greater detail. This class is open to Japanese students and exchange students who speak English well enough to participate in the discussions. In addition to exploring cultures through the content in this class I hope to have cross-cultural discussions by having students from different countries. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) クロスカルチュラル・アンダースタンディング B	When you step into this class you step into your new role as the newest Widgets intern. As an intern you will learn English skills that are needed to create and develop a unique product designed to improve the lives of your community. You will take your product from an idea all the way to making a commercial. You will also learn leadership skills that you will be able to use in class as each member of the team has the opportunity to be the group leader. During classes you will have time to talk with your classmates individually and in small groups in a Zoom breakout room. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(人文社会科学分野) グローバル・インタラクションA	The skills that we have been developing during the pandemic are the same skills that we can apply to be more effective cross-cultural communicators and have better interactions with people of other cultures and backgrounds. Not only are these skills necessary for you to thrive once you start working but they can also help you become healthier and happier and help you positively interact with all kinds of people. In this course we will explore cultural currency: the cultural social and emotional awareness that enables us to act as good global citizens. We'll exchange stories examine terms and take some calculated risks to grow. A primary goal of this course is for students to think more about their values and identities and prepare them to be engaged global citizens in an interconnected ever-changing world. Through this course you will expand your vocabulary develop your speaking fluency and gain confidence in giving your opinion about various topics. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目	発展 科目 (人文 社会 科学 分野) グローバル・インタラクシオンB	The purpose of this course is to use English to deepen your understanding of both yourself and people from different cultures by focusing on globalization. The course also aims to give the students a grounding in critical thinking by practicing skills in research collaboration and discussion Globalization is the process of international integration. Because of the removal of national boundaries there is a greater exchange of ideas products and culture. Many consider the US to be at the front of globalization. Some people think that's good while others don't. We will consider globalization from various perspectives and compare various countries including the US. We will try to consider the effects the progress and the future of globalization. Simultaneously this course will try to help you improve your skills in critical thinking and analysis. (全14回)	
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目	発展 科目 (人文 社会 科学 分野) グローバル・パースペクティブA	The purpose of this course is for Japanese and international students to discuss a wide variety of issues. During the spring of 2021, there may not be very many international students at Shimane University. I am trying to get some students in foreign countries to join us by Zoom a few times. This class is very different than the Global Perspectives course in 2020. Even if you took that class you will enjoy and learn a lot from this course. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)					
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野）	グローバル・パースペクティブB	The purpose of this course is for Japanese and international students to discuss a wide variety of issues. In order to interact in our interdependent, global world it is important to understand how people from other countries communicate including their word choices and English accents as well as how their ideas are similar to and different than yours. Being able to share your ideas listen to other ideas and change your perspective when necessary is also an important skill. During the spring 2022 semester there still won' t be many international exchange students studying on the campus of Shimane University so this class will be held on Zoom. Each week we will interact with a class of 55 students in Taiwan. These students come from various majors and various grades . This class is very different than the Global Perspectives course in 2021. Even if you took that class you will enjoy and learn a lot from this course. (全14回)	
		発展科目（人文社会科学分野）	上級TOEICセミナー I	A high TOEIC score is desirable when seeking employment at many Japanese companies. In this class you will focus on developing strategies on how to improve your TOEIC score. To do this you will not only practice test sections but spend time deepening your understanding of the types of questions commonly used in the test and how to approach answering them. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 上級TOEICセミナーⅡ	The purpose of this class is to find out the weak points of individuals in TOEIC Test and overcome them. We aim at gaining more than 700 points in TOEIC Test. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバルリテラシーセミナーⅠ	The purpose of this class is to understand the meaning of global literacy and understand the main ideas behind it. This class will focus on 5 main areas. Every few weeks we will have a test/project to evaluate your comprehension of the class material. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバルリテラシーセミナーⅡ	In this class you will continue to build on the skills and knowledge you gained during Global Literacy I. This class will focus on Digital literacy and developing those skills so that you can better find the truth in our online world. This class is taught entirely in English. (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバル・リーダーシップ	We cannot solve our problems with the same thinking we used when we created them. Albert Einstein The purpose of this course is to gain new perspectives and deepen your understanding of yourself how to inspire others and how to be an effective international leader. This class is taught entirely in English. If you have any questions or concerns about this please talk with me. (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報A（ドイツ語圏）	国際文化情報(ドイツ語圏)では、ドイツ現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、ドイツ現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報A(I)（ドイツ語圏）では、ドイツ人と祭日などのトピックスを対象に、ドイツの文化を紹介するPDFファイル、PPPやネットの動画を使って、ドイツについて意識を深め、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。（全14回）	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報B（ドイツ語圏）	国際文化情報(ドイツ語圏)では、ドイツ現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、ドイツ現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報B(II)（ドイツ語圏）では、選んだテーマを対象に、ドイツの文化を紹介するプリントと映像を使って、ドイツについて意識を深め、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。（全14回）	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報C（ドイツ語圏）	国際文化情報(ドイツ語圏)では、ドイツ現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、ドイツ現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報C（ドイツ語圏）では、伝統的な文化は日常生活などのトピックを対象に、ドイツの文化を紹介するPDFファイル、PPPやネットの動画を使って、ドイツについて意識を深め、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報D（ドイツ語圏）	国際文化情報(ドイツ語圏)では、ドイツ現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、ドイツ現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報D(ドイツ語圏)では、下記「授業内容」に記載のトピックを対象に、ドイツの文化を紹介するPDFファイル、PPPやネットの動画を使って、ドイツについて意識を深め、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報A（フランス語圏）	国際文化情報(フランス語圏)では、フランス現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、フランス現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報A(I)(フランス語圏)では、現代フランスの教育事情などのさまざまなテーマを取り上げ、現代フランス社会の諸問題を考察する。さらに、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報B（フランス語圏）	国際文化情報(フランス語圏)では、フランス現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、フランス現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報B(II)(フランス語圏)では、フランスの伝統文化と大衆文化等さまざまなテーマを取り上げ、現代フランス社会の諸問題を考察し、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報C（フランス語圏）	国際文化情報(フランス語圏)では、フランス現代社会の最新情報を提供し、フランス現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深化させることを目的とする。国際文化情報C(フランス語圏)では、フランスにおけるイスラムと共和国の理念などの様々なテーマを取り上げ、現代フランス社会の諸問題を考察し、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報D（フランス語圏）	国際文化情報(フランス語圏)では、フランス現代社会の最新情報を提供し、フランス現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深化させることを目的とする。国際文化情報D(フランス語圏)では、フランスの最新事情などさまざまなテーマを取り上げ、現代フランス社会の諸問題を考察し、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報A（中国語圏）	国際文化情報(中国語圏)では、中国の言語や文化をはじめ、中国現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、中国現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報A（中国語圏）では、日本人の立場から諸課題等について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 国際文化情報B（中国語圏）	国際文化情報(中国語圏)では、中国現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、中国現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報B(中国語圏)では、大衆文化、最新社会事情、両国の相互影響と交流に焦点をあてて、現代中国社会の諸問題を考察し、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中級中国語会話	この授業は、すでに初級中国語力(中国語検定試験4級以上)を持つ学生を対象として、現代中国の社会・文化を扱った中国語の文章を使って、中国社会・文化の理解と共に中級中国語の会話力とコミュニケーション力を身につけることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中国語音声セミナー	中国語の基本的な発音を学び、中国語でいくつかの予備的で簡単なコミュニケーションができるようになることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中国留学セミナー	この授業は、中国への短期研修あるいは1年間の留学を念頭に置き、留学生活に必要な情報及び中上級の中国語能力を身につけることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中国語検定セミナー	この授業は、すでに初級中国語力（中国語検定試験4級以上）を持つ学生を対象として、初級の復習と共に基礎文法を整理し、中国語検定試験3級試験で要求される単語力、聴解力、文法力の養成を目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 中級中国語表現法	この授業は、現代中国語の文章と会話を習うことにより、中国語中級レベルの語法、文型、表現、言語習慣などを把握でき、聞く、話す、読む、書くなどの総合応用能力をバランスよく高め、とりわけ中級レベルの中国語の読解力と簡易な中国語作文能力をしっかりと身につけることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 現代中国語セミナーA	日常生活で中国語を使ってコミュニケーションができるようになり、基本的な読み書きの能力を身につけ、中国の文化や社会についての基本的な理解ができるようになることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 現代中国語セミナーB	一般的な日常生活で中国語を使ってコミュニケーションができるようになり、基本的な読み書き能力を身につけ、中国の文化や社会についての基本的な理解ができるようになることを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国語スキルアップセミナーA	日常生活の中で中国語を使って一般的なコミュニケーションができるようになり、基本的な読み書きの能力を身につけるとともに、中国の文化的背景や社会情勢についても簡単に理解することができるようになることを目的とする。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国語スキルアップセミナーB	日常生活の中で中国語を使って一般的なコミュニケーションができるようになり、基本的な読み書きの能力を身につけるとともに、中国の文化的背景や社会情勢についても簡単に理解することができるようになることを目的とする。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) ビジネス中国語A	この授業は、仕事で使える中国語に関する知識・技能を向上させるとともに、日本と中国の商習慣や企業文化の相違に注目し、どのようにすれば中国人と一緒にうまく業務をこなすことができるのか、さらにそれぞれの商習慣を理解し合い、ビジネスを成功させることができるのかを学ぶことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) ビジネス中国語B	この授業は、日常生活だけではなく、実際に仕事でも使える中国語に関する知識・技能を向上させるとともに、日本と中国の商習慣や企業文化の相違に注目し、どのようにすれば中国人と一緒にうまく業務をこなすことができるのか、さらにそれぞれの商習慣を理解し合い、ビジネスを成功させることができるのかを学ぶことを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報A (韓国・朝鮮語圏)	国際文化情報(韓国・朝鮮語圏)では、韓国・朝鮮現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、韓国・朝鮮現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報A(I)韓国・朝鮮語圏)では、韓国の教育課程大衆文化等について学び、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報B (韓国・朝鮮語圏)	国際文化情報(韓国・朝鮮語圏)では、韓国・朝鮮現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、韓国・朝鮮現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報B(II) (韓国・朝鮮語圏)では、韓国の文化一般と大衆文化及び伝統文化等について学び、日本人の立場から諸課題について自らの意見が持てるように議論を進める。(全14回)	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報C (韓国・朝鮮語圏)	国際文化情報(韓国・朝鮮語圏)では、韓国現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、韓国現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とする。国際文化情報C (韓国・朝鮮語圏)では、下記「授業内容」に記載の韓国の基本場を始め大衆文化や時事問題について学び、日本人の立場から比較しながら韓国について理解できるように授業を進める。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 国際文化情報D (韓国・朝鮮語圏)	国際文化情報(韓国・朝鮮語圏)では、韓国現代社会の諸課題に関する最新情報を提供し、韓国現代社会の諸問題の背後にある文化的な問題にも触れ、日本の状況と比較し、異文化理解を深めることを目的とします。国際文化情報D(韓国・朝鮮語圏)では、下記「授業内容」に記載の韓国の基本場を始め大衆文化や時事問題について学び、日本人の立場から比較しながら韓国について理解できるように授業を進める。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバル・アクティビティー	University of East Anglia England * Edinburgh University Scotland * Durham/Newcastle University England * London School of Economics/UCL/King' s College London * Bath/Bristol University, England * Cardiff/Swansea University Wales * Queen' s University Belfast Northern Ireland/Dublin University Ireland * Cambridge University England	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) グローバル・アクティビティーB	Through this class you will learn how to and gain the skills to travel abroad alone. You will learn to make your own reservations and plans. You will also use English to broaden your perspectives of the world by preparing for and then going overseas to participate in activities that increase your awareness of global issues (for example SDGs) and intercultural communication. The current Covid pandemic may affect whether this course is offered or in what format. You will prepare to travel to the UK. Once there you will interact with university students visit several universities and explore global topics.	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 英語海外研修A	The purpose of this course is to improve fluency and gain confidence in spoken English. We will do activities to practice speaking English in travel settings and you will practice communicating with people from around the world. This class is taught entirely in English in order to help you prepare to go to Canada.	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 英語海外研修B	The purpose of this course is to improve fluency and gain confidence in speaking in English. We will do activities to practice speaking English in travel settings and you will practice communicating with people from around the world. This class is taught entirely in English to help you prepare to go to Arkansas.	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 英語海外研修F（セントラルワシントン大学）	本プログラムは、島根県立大学短期大学部松江校と連携して行う夏期海外英語研修プログラムである。事前事後集中講義とセントラルワシントン大学での講義を通じて、参加学生の英語によるコミュニケーション能力の向上と地域住民や学生交流による国際的視野の涵養を目指す。	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 英語海外研修G（ヴァージニア・コモンウェルス大学）	本授業は、ヴァージニア・コモンウェルス大学における夏期研修プログラムの為に事前・事後集中講義を行い、ヴァージニア・コモンウェルス大学における授業を始め、様々な活動に参加し、米国の学生との交流を通じて国際的な視野を身に付けさせることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)

科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 英語海外研修H（ミシガン州立大学）	本授業は、ミシガン州立大学における春期研修プログラムの為に事前・事後集中講義を行い、ミシガン州立大学における授業を始め、様々な活動に参加し、米国の学生との交流を通じて国際的な視野を身に付けさせることを目的とする。	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 異文化理解入門	「外国人」とのコミュニケーションの実践、協働作業を通じて、「異文化間コミュニケーション」を経験し、自他の文化や社会に関する知識を深め、それぞれを尊重する態度を養う。（留学生と日本人学生との合同クラス）（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 留学のための英語による教養基礎	英語による基礎的な社会科学・文学、自然科学や工学の入門講義を通して、基礎的な教養を高めるとともに、海外留学のための準備を促す。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） ビジネス英語海外研修	WINTECでのビジネス英語研修やニュージーランドの企業や自治体での研修・視察を通じて、国際的な広い視野を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) フランス短期海外研修	フランス・オルレアン大学(本学協定校)でのフランス語研修・文化研修(約3週間:春季休業期間3月上旬~3月中旬)を通して、実践的なオーラルコミュニケーションの力を養い、さらにフランスおよびヨーロッパ社会・社会についての知識と理解を深める。	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 大学で学ぶ世界史 講義編	この授業では、世界史とは何かを考え、自分なりの回答を導き出すことができるようになることを目的とする。授業の3分の2では、①世界史の通史講義とワークによって、世界史の全体像と時間・空間のつながりを考えることができるようになることを目指す。その上で授業後半では、②今、どのような世界史が必要であるのかを他者と議論し、自分なりの答えを獲得することを目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 大学で学ぶ世界史 探求編	現代社会の諸課題について、歴史的な見方・考え方を働かせて探究的に学ぶ活動を通じ、平和で民主的な社会の形成者として必要な資質・能力を高めることを目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) アカデミック・ライティング	本授業では、以下の2点を授業の目的とする。 1. 理系・文系を問わず、論文執筆やレポート作成など大学の学修に必要な日本語でのライティングを行うための方略を身につける。 2. 問いを設定し問題の解決に向かうために必要な論理的な考え方や、自分が作成した文章を読み手に伝わりやすい文章にするための考え方を身につける。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) むら興し・まち興し	日本のむら興し・まち興しの必要性、背景、施策の変遷、実例について、第1部 むら・まち興しの歴史～近代日本の農村自治、第2部 むら・まち興しにおける地域資源の活用?農村女性組織の活動を中心に、第3部 むら・まち興しの政策的課題の3部構成から学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国語海外研修A (北京大学)	中国トップの北京大学における海外研修を通して、学生のグローバル的な視野を養成する。 「百聞は一見に如かず」の如く、現地に行って、一流大学の教授陣による講義を受け、自ら中国語を使い、その学習意欲を引き出すとともに、中国語運用能力を高めることを目的とする。	隔年
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国語海外研修C (北京言語大学)	中国における海外研修を通して、学生のグローバル的な視野を養成する。 「百聞は一見に如かず」の如く、現地に行って、自ら中国語を使い、その学習意欲を引き出すとともに、中国語運用能力を高めることを目的とする。	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 中国の歴史と文化	中国寧夏大学や北京の人民大学等における約10日間の夏期研修会を適して、中国語および中国の歴史と文化を学ぶ。 また、中国の様々な歴史的遺産を見学したり、現代の市民生活を知るため自由な体験学習も行う。 (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 韓国の文化と風土	韓国の慶尚大学校（晋州市）での夏季研修会と見学を通して、 1. 韓国の文化・歴史・風土への理解を深める 2. 現在の市民生活に触れると共に、学生相互の交流を促進 3. 異文化体験を通して日本文化の見直し 4. 事前設定した自主研究を通して国際的視野の拡大を目的とする (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 現代中国を読む I	さまざまなスタイルの中国語テキストに触れることを通じて中国語を読み、日本語に翻訳する能力の向上を目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 漢文史料を読む	著名な漢文史料を読み、「古典的教養としての中国史」を学ぶ。中国人の価値観や行動様式について皮相的・感情的な論評が飛び交う昨今、歴史に根ざした確かな中国理解はますます重要になっており、古典のなかから、理解する手がかりを見つけることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 平和学	この授業では、平和あるいは戦争という問題を、さまざまな学問分野を専門とする教員がそれぞれの立場から論ずる。それらの話を通して、受講生それぞれが平和や戦争について自ら問題意識を持ち、さらには「どうすれば平和な世界をつくれるか」について考えることを目指す。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 働く人の法知識	ブラックバイト、ブラック企業の被害にあわないために、働く際に、自分の身を守るために最低限必要な法的知識に対する理解を深めることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 株式会社の経営と法	本講義は、株式会社の組織・運営・管理に関する基本的事項についての基礎知識を与えることを目的とする。 そこで、本講義では、受講生に株式会社の事業活動に係る基本的な事項に関する基礎的知識についての理解度を高めるべく、株式会社経営の利害関係人である株主(=会社のオーナー)・経営者(=代表取締役社長、代表取締役副社長、専務取締役、常務取締役、営業担当取締役、会計担当取締役、幹部社員などの経営陣)・債権者(=企業取引の相手方)の利益調整の視点から、企業不祥事に関する時事を踏まえながら、主として法制度の観点から順次にアプローチしていく。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目 (人文社会科学分野) 知的財産から見た法の世界	法の体系的な内容をはじめ、発明など研究成果を守るための知的財産法や製品開発時に不可欠な知識である製造物責任法(PL法)などについて、それらの法律の基礎になっている民法なども含め解説する。そして、そのことを通して、将来、技術者や研究者になる理系の学生諸君にとって必要な法的素養を身につけることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 医療から見た法の世界	医療の世界も法によって支配されているが、多くの医学部では系統的に法学教育を受けないまま医療現場に送り出されるのが現実であるといわれており、多くの医師・看護師が、実際に医療現場に出て、突然、深刻な問題に遭遇し、どのように対応したらよいか分からない現状がある。この授業では、法の体系的な基礎知識だけでなく、医療という営みを患者と医師・看護師など（医療従事者）それぞれの立場から見た権利義務関係から捉え、医療従事者に必要とされている実践的な法的知識（法とのむき合い方）の修得を目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 弁護士が語る大学生のための法律問題	この授業では、アパートを借りるための家主との契約をめぐる法律問題、交通事故を起こした時の賠償問題、アルバイト先との賃金トラブルなど、大学入学の直前・直後に大学生が出会いそうな身近な法律問題（ケース）を取り上げ、担当教員である弁護士の見解の下で検討していく。その過程で、それぞれのケースにおける具体的な対処方法、すなわちトラブルに巻き込まれず、身を守るにはどうしたらいいのかを学ぶとともに、法的なものの考え方を身に付け、取り上げたケース以外の問題に対しても、対応できる基礎能力を獲得することを目標とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 消費生活と法	民法改正により2022（平成34）年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられることなどを見据え、今年2月に消費者庁・文部科学省を含む4省庁関係局長連絡会議により「若年者への消費者教育の推進に関するアクションプログラム」が緊急課題として示された。その内容を踏まえ、学生が消費生活上のトラブルの未然防止や解決のための実践的な知識などを身につけることを直接の目的とする。そして、そのことを通して、消費者が主役となる「消費者市民社会」を担う主体形成を教育目的としている。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（人文社会科学分野） 行動科学	人は、苦しみを避け、自己の幸せ・安楽を求める利己的な存在である。しかし、人は、常に他者との関わりで生存する。その意味で、人は、利他的・道徳的であるべきである。「行動科学」では、人の行動と心理との関係を学び、他者や社会に対して適切な行動をとることができる資質を培う。また、人が病気になったときの心理と行動、さらに、人の習慣や行動が健康や疾患に与える影響について理解を深める。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 物理学入門セミナー	物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問の一つであり高度の科学技術に基づく現代社会で活躍するには物理学の基礎知識と物理学的な考え方が不可欠であるといえる。この授業では、高校で学習した物理学を全体的にもう一度学び直し、理解度を高めることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 物理学の世界	物理の基礎から応用分野までの幅広い領域において展開される最先端の研究を紹介する。それぞれの分野の研究がどのような経過を経て発達してきたか、現状の解決すべき問題点は何か、今後どのような魅力的な研究が提案されているのかを学習する。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 遺伝子を考える	受講生が自ら発表し、遺伝子に関する最新の結果を紹介し、全員で議論することにより、遺伝子に関する知識を深めることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 山陰の自然史	山陰の生活や文化の基盤になっている地球史レベルで自然の形成過程と特徴について理解を深め、あわせてその保全や活用についても考える。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 自然環境の復元	地球環境にやさしい技術、劣化した生態環境を復元するための技術、及び新しいライフスタイルの確立が求められており、これが新しい学問、生態工学(エコテクノロジー)の目的である。本科目では、地球及び地域の環境問題解決のためのエコテクノロジーの基礎となる知識と、エコテクノロジーの現状及び未来について学ぶ。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 自然と語ろう	生物資源科学部附属センターの各部門(森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門)の特性を生かし、「森林から耕地、海」に至る物質の流れ、基礎的概念、現状と課題について、総合的に理解することを目的とする。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 汽水域船上調査法実習	汽水域における調査の概要を理解し、基礎的な部分で調査計画の立案ができるようにする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) データ解析の数理	実験・観測データ、特に多変量データをどのように解析するのかについて、実際例を通して解説する。適当な課題を通してデータ解析を実践し習得します。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 物性科学のフロンティア	物理学と化学の境界領域に位置する物性科学は、工学も巻き込んで現代の先端産業と深く関わり、そのため広大なフロンティアを構成している。この講義は、各領域で研究する専門家が、それぞれのフロンティアを語ることで、物性科学の広がりについての理解を深める。 さらに、これら物性科学が社会とどのように関わるのかについて、地域社会の観点から考察する。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） たたらと現代製鋼	たたら製鉄は中国地方（山陰地方）で主に発達した日本独特の製鉄法である。よい日本刀は現在でもこの製法で作製した鋼でないとできないといわれ、地域の産業にもつながっているたたら製鉄について学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 生命現象	本講では、自然科学のなるべく多くの分野から、これらの相互作用にみられる秩序・普遍性・多様性といった問題をとりあげ、生命の謎に迫る。受講生自身が「生命とは何か」ということについて独創に富んだ考えを構築出来るようになることを達成目標とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目（自然科学分野） 生命科学の世界	近年、急速に発展しつつある生命科学がもたらす成果は、我々を取り巻くあらゆる分野に応用され、豊かな暮らしをもたらしている。本授業では、生命科学の世界を4つの領域に分け、各領域における学内の専門家を交えた講師により、生命科学の発展と展望を様々な観点より考察する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 汽水域の科学(入門編)	汽水域は、その立地からもわかるように、陸域からの影響と海域からの影響が交錯する非常に複雑な環境下であり、自然気候変動と人間活動による環境変化が微妙なバランスを保ちながら成立している極めて繊細な水域である。この授業は、島根大学が宍道湖・中海という合わせて日本で一番広い汽水湖に隣接しているという特徴をいかし、汽水域で起こる諸現象について、中海・宍道湖の例を中心に分かりやすく解説する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 汽水域の科学(応用編)	汽水域で起こる様々な自然現象を理解し、さらに汽水域における環境や資源の問題に関する今後の展望について、総合的に理解することを目的とします。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 情報と地域ーオープンソースと地域振興	島根県・松江市が進めるオープンソースRubyを活用した地域IT産業振興政策は地域のIT企業の技術力・経営力を高めようとする取組である。IT産業はもちろん、自動車産業や家電産業、さらに農業など多くの産業にとってオープンソースの活用が一般的になり、これらの産業にとってもオープンソースを活用する技術力・経営力が求められる。そしてオープンソースのビジネスモデルを成立させるオープンイノベーションの概念について、オープンソースとともに注目されるオープンデータの理論と実践について学ぶ中で理解を深めることが必要である。本講義ではオープンソースについて社会科学の側面からの理解を深める。そして理工系・文科系関わらず情報・データの社会的な位置づけ、地域経済における可能性について各分野から幅広く学ぶことを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) R u b yプログラミング	オブジェクト指向のプログラミング言語であり、地元松江市のプログラマが開発したRubyの習得を目的とし、Rubyを活用したアプリケーションの開発をグループで行う。また、Rubyに関わる開発者、エンジニアの講義を聞き、Rubyやオブジェクト指向言語の今後の発展、活用の可能性について探る。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 開発フレームワーク	「Rubyプログラミング」の知識を基に、Ruby on Railsなどのプログラミング言語、Webアプリケーション開発フレームワークの習得を目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 山陰地域の自然災害	自然災害に関する入門的授業として、気象災害、地震災害、地盤災害など災害ごとの時間的・空間的な特性や発生の仕組みを、山陰地域に発生する災害を事例として理解するとともに、防災・減災について関心を持ち、主体的に考えるための基礎力を養う。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 食の守り方のあゆみ	農作物には害虫、病気、雑草等が発生し、生産量や品質の低下等を招くことがある。それらから農作物を守るための様々な方法が、どんなきっかけでどうやって生まれ、どのように変化してきたのか、また、その中における山陰地域の貢献や現状等について時代背景とともに理解してもらうことが第一の目的である。その上で、今日や将来の農業・食生活について多角的に思考でき、かつ、それらに関する情報リテラシー等を備えて主体的に行動できるようになることが第二の目的である。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 食の守り方のあゆみB	農作物には害虫、病気、雑草等が発生し、生産量や品質の低下等を招くことがある。それらから農作物を守るための様々な方法が、どんなきっかけでどうやって生まれ、どのように変化してきたのか、また、その中における山陰地域の貢献や現状等について時代背景とともに理解してもらうことが第一の目的である。その上で、今日や将来の農業・食生活について多角的に思考でき、かつ、それらに関する情報リテラシー等を備えて主体的に行動できるようになることが第二の目的である。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(自然科学分野) 地域医療・介護と地方創生	この授業ではフィールドワークを通じて、島根県の地域医療・介護の実践を経験し、その課題を見つけ、これからの取り組むべき方策について考察を行う。また、講義・実習を通じて多様な人との対話を行い、意見を集約することの困難さを体験する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) くらしの中の製作技術	現代人は、手を使って、道具を使っていろいろなものづくりだす活動をしなくなった。 このことは人間の本来持っている「ものをつくる能力」を退化させることである。この授業ではこの「ものづくり」の能力と人間性の復権をめざすものである。ものづくり学習を通して、他学部の学生達や教官とコミュニケーション豊かな学習を展開する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) くらしの中の製作技術	現代人は、手を使って、道具を使っていろいろなものづくりだす活動をしなくなった。このことは人間の本来持っている「ものをつくる能力」を退化させることである。この授業ではこの「ものづくり」の能力と人間性の復権をめざすものである。ものづくり学習を通して、他学部の学生達や教官とコミュニケーション豊かな学習を展開する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 海外研修・学習体験	グローバルな視点から社会に参画できる学生を育成することを目指し、長期休暇中等における学生の自主的な海外研修・学習体験活動を促進し評価するため、「海外研修・学習体験」科目を設定する。「海外研修・学習体験」科目の対象となる活動は、海外において学生が自主的に取り組むボランティア活動、大学・教育機関等における研修・学習体験、調査・研究活動等とする。	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 人と職業	大学を卒業し、社会の入り口において、自分にとって納得のいく職業(first JOB)とは何か?について考える講義です。前半は「人が職業に就くまでの手立て」を学びます。後半は現状の就職活動について元ANA人事部担当者(社会保険労務士)の対面でのレクチャーを交えてエントリーシートや面接突破方法等を学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 中山間地域フィールド演習	本授業では、中山間地域において、地域の方々と共に、新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自らが切り拓き、提案・実践していくことができる力を養うことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 酒一杯の酒から覗く学問の世界	酒にまつわる人文・社会・自然諸科学の多面的な問題を、それぞれの専門分野の講師の講義によって多角的に採り上げ、さらに最後に実施する酒蔵見学実習と併せて、学問の深さ・広さ・面白さを具体的に確認することを目的とする。同時に酒と健康の関わりについても考える。「酒の学問」を通して、実践にも役立つ、豊かな教養を身につける。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 死と人間	この授業では、古今東西さまざまな人間たちが思い描いた死の姿、あるいはおのれの死を見つめた人間の思索を、文学・人類学・芸術学・哲学などの視点から取り上げ、たどっていく。死について考察することは、ただちに、生(生きること)を見つめとらえ直すことへとつながり、この授業から情報や教訓を安直に引き出して事足りれりとするのではなく、「自分自身が思い描く死の姿」に目を向け、「自分自身の死を(そして生を)見つめる」機会とする。 (全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) フィールドで学ぶ「斐伊川百科」	斐伊川をフィールドにして、歴史と文化、自然環境、産業と暮らしについて幅広く学び、斐伊川とその流域を総合的に理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 地域博物館へのいざない	本授業では、島根県の地域資源(自然・歴史・文化)や島根大学の学校史・著名人など(自校教育)の基礎的事項について、関連するミュージアムを紹介しながら学際的に学ぶ。また、実際に島根大学総合博物館を見学したり、町歩きをすることで、直接的経験としての「学び」のきっかけとする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 島根学	島根を知るための導入科目です。以下の3点を目的とする ・大学生活をおくる上で必要な、島根に関する教養を身につける。 ・島根を通して自身に関係する社会や地域を理解する視座を養う。 ・授業で取り上げたテーマや視座を、自身の専門的な学びにつなげる。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 環境問題通論A	本授業は、環境問題への導入的授業である。受講者は現状の環境問題について理解し、これらに主体的に参加・行動できるように環境に対する知識を身に付けることができる。また環境問題を様々な角度から概観し、より専門的な分野で理解できるようになる。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 環境問題通論B	本授業は、環境問題への導入的授業である。受講者は現状の環境問題について理解し、これらに主体的に参加・行動できるように環境に対する知識を身に付けることができる。また環境問題を様々な角度から概観し、より専門的な分野で理解できるようになる。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 環境教育フィールド科学	21世紀を生きる地球市民として、どのような立場や状況にあっても多角的な視点を理解したうえで、利害関係を整理し、人類を含めた自然環境や社会環境に対して望まれる判断や行動をとれるような能力を身につける。また、日常においては、大学人として環境に配慮した生活ができるようになること目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 教育研究のための統計法	よりよい教育の在り方について議論する際には、客観的に事象をとらえ、データを適切に解釈し、その結果に基づいて新しいアイデアを出していく力が求められる。そのためには、統計についてある程度の知識と技能が必要になる。本講座では、教育に関する模擬データを使って、実際に手を動かしながら統計の基礎的な素養を身につける。また実際に現場では質問紙調査を行うことが多々あり、この授業では実際に質問紙の作成、データ収集、分析についても触れる。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) ジオパーク学入門	ジオパークとは「地質及び地形、生態系、歴史、文化、景観、人々の暮らしや産業など地質に密接に関連する領域を切り口として整備される”地球と人間のかかわり”を主題とする市民のための自然公園」である。この授業では、多様で個性豊かな地域遺産について基礎的な知識を理解し、将来的にはジオパークを生かして地域活性化を模索・支援することができる学際的な人材を育成するための基礎的な授業である。さらに、ジオパーク活動を通じてSDGsへの理解を深めることも目的としている。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) ジオパーク学各論	ジオパーク、特に出雲地域の島根半島・宍道湖中海ジオパークの概要とジオストーリー、および具体的にどのようなジオサイトがあるのかを学ぶ。また、このジオパークにおけるジオと生態系・自然環境・歴史文化との関わりについて、さらに、ジオパークを地域の教育・経済・観光・地域振興に対して、どのように活用していくのか、具体的な事例の紹介を通じて学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) ジオパーク学演習	この授業では、島根半島・宍道湖中海ジオパークの活動に実際に参加し、持続可能な地域活性化と体験型ツーリズムの観点から、その意義と実践について学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) ワークショップスキル入門 (地域の課題解決をめざして)	教育、ものづくり、地域づくりなど様々な場面で使用されているワークショップは「協同で学びあい、創りあう」ための重要なツールである。本授業では、学生自身がワークショップの組み立てを考え、運営できるスキル・センスを高めることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 地域医療学	地域社会における医療を多元的な視点から理解することを目指す。また、地域医療が抱える課題を解決するための方略を学ぶとともに、地域医療への使命感を養うことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) ものづくりと創造性	家庭や島根や山陰地域固有の生活等に生じる不便さや問題点を、ものづくりにより解消するため、創意工夫をこらした製作品の製作活動を行う。これらの活動を通して、新たな価値を創造し、地域社会に貢献できる人材を育成する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 教育から地域を魅せる	過疎化・少子高齢化問題の最先端地である島根県は、これらの課題にユニークな方法で対処し、地域活性化を果敢に試みる自治体があることでも有名である。この授業では、教育の魅力化に先進的事例を学ぶとともに、受講生自身が教育魅力化への主体的関心を高めることを目的とする。さらに、実際に島根県内の高校生との対話を通じて、高校生の学びを支援する技法を身につけることを目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) グローバル課題解決型研修 (タイ：観光開発の現状と課題)	地域の課題を解決するためには、同様の課題を抱えながらユニークな取り組みをしている先進事例から学ぶことが重要である。本研修では、タイの様々な課題を理解するとともに、その課題解決に向けての考え方を学ぶ。(本研修はタイのチェンマイ大学の協力を得て実施。)(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) イノベーション創成基礎セミナー I	本授業では、将来において、機械に代替されにくい「より人間らしい活動を行う能力」を養う。そのために、①人と人とのやりとり②ケアと思いやりが必要な活動③マネージメントとリーダーシップ④創造とイノベーションに重点をおく。この4点を常に高いレベルを目指すことで”地方(地域)を拠点とするプレーヤー(社会的開拓者)”となることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) イノベーション創成基礎セミナーⅡ	本授業では、地域に新たな価値や社会を作り出すための基礎力を身につけることを目的とする。 ・日常生活から社会基盤に至る様々なレベルで、問題解決に必要な基礎的な知識・スキルを実践的に学ぶ。 ・夏季休暇中に実際に島根県内の地域を訪れ、フィールドワークで得た情報を的確に分析し、課題を発見して解決法を探り、その成果を発信するするために必要な基礎スキルを学ぶ。 ・グループワークを通じた課題発見/解決の過程を実践的に学ぶことで、合意形成やコミュニケーションスキルの向上を図り、自己のキャリア形成に役立てる。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) グローバルイシュー実践海外研修	グローバルイシューの講義と連動し、開発途上国の援助の現場視察や体験を通じ、異なる価値観を持つ社会の中で積極的に実行する力、判断力やコミュニケーション力を涵養し、国際社会が抱える課題に対する解決への基礎能力を身につけることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 海外課題解決型就業体験プログラム	海外(特に開発途上国)で新しいビジネスモデルを作る就業体験プログラムに参加することで、異なる価値観を持つ社会の中で積極的に実行する力、判断力やコミュニケーション力を涵養し、課題解決能力を身に付けることを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 観光の展開ー新しい観光の発掘ー	この授業では、特に島根県や山陰地方を中心に、地域のかかえる課題を「観光」によって解決しようとしている取り組み事例を学習する。観光にかかわる多様な主体が、どのような課題に対して、どのような意図や計画をもって活動を展開しているのかを知り、今後の観光のあり方を展望できるようになることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	発展科目(学際分野) 医療倫理・プロフェッショナリズム	医師、看護師を含む医療人は、個人として、専門職集団として、患者や社会の信頼に値する道徳および倫理を身につけ、行動する必要がある。患者中心の視点より、患者に対して誠実、公正な態度で接し、常に平等な医療を提供し、説明責任と守秘義務の遵守に努め、利益相反の適切な管理が求められる。組織やチームにおいて協調性・リーダーシップを発揮し、相手を理解し、多様な価値観を受容し、適切な役割を担う必要がある。本科目では、医師、看護師を目指すものとして求められる使命、役割および心構えについて理解を深め、適切に行動するための基本姿勢を修得する。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会人力養成科目 大学生の就職とキャリア	本授業は「自分のキャリアを自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論と現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、就職活動に役立つ知識と方法論の習得を目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会人力養成科目 ジェンダー - 性を科学する -	生物学的な男性・女性の性差をふまえつつ、ジェンダー(社会的・文化的に作られた性)というものの見方・考え方について理解する。社会・文化のすみずみにジェンダーによるバイアスが張りめぐらされていることを学際的に学び、そして、このバイアスはどうのようにすれば突破できるのかを考えていく。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会人力養成科目 地域社会の生活と安全	安全を守る仕組みについてどのような課題があるのかを知り、多様な視点から治安の動向、警察活動の現状、公務の重要性等について理解を深めるとともに、犯罪リスクへの対処等を考察することを通じ、学生生活はもとより、将来にわたる安全安心な社会生活の実現に向けて自分自身の役割を考えることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 地域社会体験Ⅰ	この授業は、本学入学後の早い段階で県内の行政・企業・文化施設において実習・見学を行い、地域社会に関心を持ち、社会経験を積むことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 地域社会体験Ⅱ	この授業は、本学入学後の早い段階で県内の行政・企業・文化施設において実習・見学を行い、地域社会に関心を持ち、社会経験を積むことを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 出雲文化学	本授業は、本学が立地している出雲地域を、歴史的、文化的に探究するもので、学外から広く専門家に登壇いただき、総括的にこの地を理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 ジャーナリズムと地域社会	本授業はジャーナリズムを多様な視点から捉え、その活動と役割を知ることにより、目まぐるしく変化する現代社会を捉える視点を養い、地域社会を理解することを目的とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 島根の企業と経済	島根県の特徴ある企業の活動を通して、県内の経済活動の実態と地元企業の魅力を学ぶ。また、島根県の地域課題を見つめ、地域活性化・地域再生のしくみを理解し、解決のためのビジョンを考え、実行するための第一歩となることを目指す。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 ボランティアと障がい者支援	ボランティアと障がい者支援の基礎知識やその実際について学ぶ機会を設けることにより、学生自身の自己成長を図りながら、学生が地域社会とつながり成長・貢献していける力を身につけることを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力養成科目	障がい者支援の実際	「ボランティアと障がい者支援」で得た基本的な知識・技能をさらに深めることにより、地域社会において、将来的に障がい者支援の先端的役割を担える人材を育成し、全ての人が、より良く暮らしやすい国づくりをめざす。(全14回)
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力養成科目	地域未来論	本授業では、日本の地域を学び、地域にあるさまざまな課題を捉えながら、「これからの地域」について考えるとともに、地域の未来を思考する知識や方法を実践的に修得し、自分なりに地域をより良く持続するための事業をつくることができること、併せてその内容を他者にわかりやすく語る(伝える)ことができることを目的とする。(全14回)
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力養成科目	地域プロジェクト型実習	将来において、機械に代替されにくい「より人間らしい活動を行う能力」を養う。そのために①人と人とのやりとり ②ケアと思いやりが必要な活動 ③マネジメントとリーダーシップ ④創造とイノベーションに重点をおく。この4点を常に高いレベルを目指すために、集中した講義の中で実践することで山陰地域を主に、地域を育むプレイヤー(社会的開拓者)となることを目的とする。(全14回)
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力養成科目	地域共創インターンシップA	地域のステークホルダーと共に新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自ら提案・実践していくための力を養うことを目的とする。
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力養成科目	地域共創インターンシップB	地域のステークホルダーと共に新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自ら提案・実践していくための力を養うことを目的とする。

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 地域共創インターンシップC	地域のステークホルダーと共に新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自ら提案・実践していくための力を養うことを目的とする。	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 地域社会と法Ⅰ：知識編	この授業では、島根県で生じている法的な問題の状況を考察しながら、地域社会が抱えている課題とその解決の糸口を探っていくことを目的とする。 何をどのような問題関心から、どのような視点で観察・考察し、そして、どのような問題点を発見し、その解決の方向性をどこに見出すのかという基礎的な学習スキルを身につける。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 地域社会と法Ⅱ：実践編	「地域社会と法」：知識編の授業を前提に、現場主義教育（フィールド学習）を通して、学生自ら問題意識（関心）を形成し、より具体的な問題点（地域が抱えている課題）を掘り起こし、その解決に向けての思考力とアプローチを以って対処する基礎的な力を身に付けることを目的とする。そして、そのことを通して、受講生が地域の課題を肌で感じ、地域で活躍できる素養（基礎的な実践力）を身につけることを目標とする。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 囲碁で学ぶ考える力	囲碁を通して「考える力」を養い、「集中力」を磨くとともに、世代間や国際的なコミュニケーションツールとしての囲碁を学ぶ。また、大学生の教養として、日本の伝統文化として伝承されてきた囲碁を学ぶ。(全14回)	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 実例ビジネス開発論 －社会構造の変化に対応する新しい価値の共創－	ビジネスアイデア創出演習、ビジネス分析演習、ビジネス開発応用演習の3部構成とし、ビジネスプランを作成する、もしくはビジネスコンテストへ応募するための、基礎的な能力を養うことを本講義の目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 ライフキャリアデザインA	自分の人生/生活（ライフ）と道筋（キャリア）をビジョン化することで、新たな意識と目標が設定される。この講義は、リフレクションを通じて学生自らがキャリアをデザインできるようになることを目的とする。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 ビジネススキル入門	この授業は、ビジネスにおける基本的な知識を学び、インターンシップなどの実践の場で活かせるスキルを学ぶことを目的としている。この授業では、インターンシップに参加したことがない学生が、ビジネススキルを中心とした知識の習得や応募書類の作成など、インターンシップへの参加準備を通じて、自身の将来像やキャリアについて考えることを目指す。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 課題解決人材入門：東京圏と島根県の学生の対流・対話による未来の共創	変化が激しい現代、過去に伝授された知識のみで様々な問題に対応することは困難である。そこで生涯にわたって「主体的に課題を発見し解決に導く力」や「多様な人々と協働しつつ学習する態度」を持つことが必要だと言われている。この授業ではそれらの資質能力と地域社会のテーマを紐づけることで「地域の活性化に貢献できる人材」として成長するとともに、これからの社会に必要とされる「どんな職業でも求められる汎用的な資質・能力（ジェネリックスキル）」を伸ばすことを目的とする。そのために、この授業では東京圏の学生と島根大学の学生が互いに地域課題を読解・発見・解決するアプローチを、学習方法として用いる。（全14回）	
全学共通教育科目	教養育成科目	社会 人力 養成 科目 観光実践	本授業は、地域の観光現場での実践活動を通じて、これまでの学修を定着させるとともに、自らの将来と観光との関わりを展望できるようになることを目的とする。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	教養 育成 科目	社会 人力 養成 科目 SDG s 概論－歴史的な背景・理論と実践に向けて	持続可能な社会を構築するにあたり、大学教育においてもSDGsの教育が求められており、本授業は一般教養として、また社会の中での持続可能な社会にむけて、SDGsの歴史・理論を学び、実践者の育成を目指す。持続可能な未来を創造するために地球市民として、どのような立場や状況にあっても多角的な視点を理解したうえで、利害関係を整理し、人類を含めた自然環境や社会環境に対して望まれる判断や行動をとれるような能力を身につけることを目的とする。 (全14回)	
専門 教育 科目	基盤 科目	材料エネルギー概論 I	学部教員に関わる研究テーマを紹介し、世界的に課題となっているエネルギー問題を材料分野から理解し、材料研究を通じて解決する事例や、最新の材料研究の状況を知ることが目的とする。この授業で紹介されるテーマをもとに、社会課題を解決するための糸口を学生に考えさせることで、アントレプレナーシップ教育と連動させる。 (共同/全14回)	共同
専門 教育 科目	基盤 科目	材料を学ぶための基礎物理	材料科学の基本を理解するために必要な物理法則を学習させる。内容は力学、電磁気学および波動・振動とする。 (全14回)	
専門 教育 科目	基盤 科目	材料を学ぶための基礎化学	材料科学の基本を理解するために必要な無機化学と有機化学の基礎を学ぶ。 (共同/全14回)	共同
専門 教育 科目	基盤 科目	行列と行列式	線形代数学の基礎を学ぶことで、専門課程において広範な実用材料に関わる諸現象を理解するために不可欠となる数学の基礎知識を修得する。 (全14回)	
専門 教育 科目	基盤 科目	材料エネルギー概論 II	材料科学を学ぶために必要な基礎科学の知識(量子論、原子論、化学結合論など)を学ぶとともに、既存の実用材料やエネルギー利用のための先進的材料の現状と課題を知り、今後の最新の材料科学の技術をエネルギー課題解決の視点に基づき応用するための基礎を培う。 (全14回)	
専門 教育 科目	基盤 科目	材料物理化学基礎	材料の構造、性質、反応を理解し、それらを制御するために必要な熱力学について学ぶ。エンタルピーやエントロピー、自由エネルギーの概念を学ぶことで、さらに相転移や相平衡についての理解を深めるとともに、今後の最新の材料科学やエネルギー課題に関わるための基礎を培う。 (全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	基盤科目	プログラミング	プログラミングの基礎を習得するため、プログラミングとは何かから始めて簡単なプログラムを書く力を身に付ける。プログラムの処理手順(アルゴリズム)の記述に適しており、動作速度も高速な手続き型言語をのC言語を対象として文法知識を学び、基本的なプログラムの実作を通してコンピュータの活用を学ぶ。(全7回)	共同 講義2 演習5
専門教育科目		材料評価学	材料の特性を考える上で必要不可欠な結晶構造や組織、組成、物性を測定する手法について、その概要を説明する。(全14回)	
専門教育科目		資源循環化学	SDGsのゴールの一つである「つくる責任、つかう責任」を実現するためには、資源循環は必要不可欠かつ解決すべき技術課題の一つである。本講義では、既存の資源回収技術の基本となる金属精錬技術の基礎を学ぶとともに、それをSDGsおよびカーボンニュートラルという視点から俯瞰し、資源回収技術に応用できるようにすることを目的とする。(全14回)	
専門教育科目		材料組織学	金属材料をはじめとする各種材料の諸性質は、それらの微視的構造であるマイクロ組織に大きく左右される。本講義では、材料のマイクロ組織形成について理解し、マイクロ組織と諸性質との関係の基礎を学ぶ。また組織形成において、基礎的で重要な情報を提供する平衡状態図のうち、本講義では特に2元系の基本的状態図を解説する。具体的には全率固溶型や共晶系、方晶系などの成り立ちは説明できるようにさせる。このようなトレーニングを通して、一見複雑な実在の状態図の構成が相平衡の法則にしたがっていることを理解させることを目的とする。(全14回)	
専門教育科目		材料力学	材料力学で設計された部材は無損傷材料が前提であるため、損傷時には機能維持のために交換される。一方、大型の構造部材は交換が容易でなく、定期的に検査して損傷が見つければ破壊力学で有害性を評価しながら運用が続けられる。本科目では、設計における材料力学と破壊力学の違い、き裂の応力場の理解を基礎として、内部欠陥の計測法および関連する数学、物理学について学び、損傷許容設計についての素養を身につけることを目標とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目		鉄鋼材料学	鉄鋼材料を元に金属材料の組織形成や力学特性との関係を理解させる。また、金属材料の組織制御の基本を習得させる。(全14回)	
専門教育科目		材料強度学	構造材料を理解するには、外力に対する材料の応答がどのようにして起こるのかを知る必要がある。本授業では、「材料科学概論Ⅰ・Ⅱ」で取り扱った内容のうち、特に金属の変形および破壊に焦点を当て、それらのマクロな現象を支配するミクロなメカニズムについて学ぶ。(全14回)	
専門教育科目		機能材料学	半導体や磁性材料などの機能材料について、機能の発現原理や実用機能材料の特徴などを習得させる。(全14回)	
専門教育科目		実用金属材料学	一般的な実用材料について、その特徴や組成および熱処理について学ぶ。また、実用上の留意点についても理解する。(全7回)	
専門教育科目		材料物理化学	材料工学の基礎となる物理化学について、化学平衡論、化学反応論、触媒、吸着、電気化学に関する知識を修得させる。(全14回)	
専門教育科目		有機材料化学	炭素を主要元素として、酸素、水素、窒素原子などで構成される有機材料は、情報・エネルギー・地球環境・バイオメディカルなどの各分野で利用されている。これらの物質を構造と機能の観点から論じるとともに、有機材料の設計基盤となる有機合成化学について理解を深める。(全14回)	
専門教育科目		無機固体材料化学	無機固体材料の基礎知識を立場から学ぶ。無機固体材料の結晶構造や微構造、その表面構造と物性などについて理解し、無機固体材料に関する材料工学の基礎知識を習得することを目的とする。(全14回)	
専門教育科目		高分子材料化学	20世紀中の著しい進歩により今では身近な材料となった高分子材料を、主に実社会で利用されている高分子について合成法を学ぶとともに、それらの構造と各種物性を金属・無機材料との違いにも着目しつつ幅広く学び、その概要を理解することを目的とする。(全14回)	
専門教育科目		セラミックス化学	セラミックスは金属材料と並ぶ重要な材料である。その典型的な合成法と材料化の方法を学ぶとともに、様々な物性を示すセラミックス材料について広く学び、その概要を理解することを目的とする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	化学工学	化学工業では、原料となる物質に化学的および物理的変化を与えて目的とする製品を生産する。そのためには、原料を精製して、所定の条件で化学変化を起こさせ、目的物を分離する必要がある。本講ではこのような化学プロセスに含まれる装置やプロセスの最適な構成に関する基礎を述べる。(全14回)	
専門教育科目	マテリアルズ・インフォマティクス基礎	構造材料や機能材料の設計において、さまざまなデータを活用して、材料の性能の予測を行ったり新規の材料を設計する試みがマテリアルズ・インフォマティクスとして盛んになってきている。本講義では、実際に活用されている材料データについて、それらがどのように生み出され活用されているかを解説する。さらに活用の事例として国内外の動向を俯瞰することで求められるアプリケーションに対する理解を深める。(全7回)	
専門教育科目	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズムは、プログラム作成に必要不可欠であり、多くのデータ構造とアルゴリズムが考案・利用されている。本講義では、基本的なデータ構造とアルゴリズム、および、計算の手間を評価する方法を理解し、各種のアルゴリズムを理解/考案するための基礎力を得る。(全14回)	
専門教育科目	マテリアルズ・インフォマティクス応用	構造材料や機能材料の設計において、さまざまなデータを活用して、材料の性能の予測を行ったり新規の材料を設計する試みがマテリアルズ・インフォマティクスとして盛んになってきている。本講義では、マテリアルズ・インフォマティクスで活用が盛んであるベイズ最適化のようなブラックボックス最適化の基礎や、回帰分析や分類問題といった機械学習による計算科学におけるデータ活用について解説する。具体的な材料設計のフェーズに関するマテリアルズ・インフォマティクス活用事例をとりあげることとする。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		相平衡の熱力学と状態図入門	平衡状態図はすべて熱力学を用いて計算できる。本講義は材料組織学を発展させたもので、まず溶体の自由エネルギーの記述法を解説し、合金の性質を決定する相互作用の意味を理解させる。次に、2元系の基本的状態図、具体的には全率固溶型や共晶系、方晶系などの成り立ちを自由エネルギーの概念を用いて説明できるようにさせる。このようなトレーニングを通して、一見複雑な実在の状態図の構成を熱力学的立場から理解させることを目的とする。 (全14回)	
専門教育科目		材料系エンジニアのためのエネルギー概論	地球温暖化対策と切り離すことができないエネルギー問題に関する基本的な知識の習得と同問題への関心を高めることを目的に、地球温暖化対策としての二酸化炭素排出量の削減に関する国際的な取り組み、わが国が掲げる2050年カーボンニュートラル、これを達成するための第6次エネルギー基本計画、グリーン成長戦略と各産業分野での取り組み、各産業分野に期待されるイノベーション等について講義を行う。(全14回)	
専門教育科目		カーボンニュートラル社会のための材料学	1年後期の「材料系エンジニアのためのエネルギー概論」で学んだ各産業分野でのカーボンニュートラルに向けた取り組みについてより深く理解すると共にカーボンニュートラル達成のために必要な技術開発課題、材料分野に期待される役割に関する知識を習得する。この知識を基に材料工学に関する関心を高め、取り組んで行くべき課題について自ら考える力を養う。(全14回)	
専門教育科目		エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学	カーボンニュートラルを達成し、維持していくためには、新しいエネルギーシステムの構築と同時に既存のエネルギーシステムを有効活用していくことも必要である。既存のエネルギーシステムを有効活用していくためには、保全(維持・管理)活動が不可欠である。本講義では、主として発電分野を題材としてエネルギーシステムの維持・管理の概要、維持・管理の最重要課題となる材料劣化管理の基礎と実社会での取り組みに関する講義を行う。本講義によりエネルギーシステムを持続的に活用するための保全活動の重要性について理解を深める。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		新材料・エネルギー技術で新たな社会を上げるアントレプレナーへの道	身につけた学問やスキルをもとに、行動して活かすことができるようになるため、地球全体で解決すべき問題に目を向け、課題の本質がどこにあるかを解析し、その課題を解決するために今後何を勉強する必要があるかを見出す。具体的には、島根大の研究成果を誰(顧客)の悩みの解決に繋げ、活かすか、解決策をどういう商品として仕上げ、社会に貢献(市場獲得)するか島根大の研究成果を活用して社会課題を解決するビジネスプランを作る活動を行う。(共同/全14回)	共同 講義2 演習12
専門教育科目		地域創生論	地域創生は、いつの時代においても社会の重要なテーマであり、当講義では、少子高齢化時代の進行に適応した、地域の特徴を活かした地域の活性化について、産業、まちづくりの分野などにおける現状・課題・取組を学ぶ。なかでも、地域創生における地方大学の存在と役割は大きく、島根大学材料マテリアル学部は、島根県の強みである特殊鋼関連産業の振興への寄与を期待され創設された経緯がある。島根県の強みや魅力を再認識しながら、今後の地域の活性化のあり方についての考察も行う。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	MOT・技術者倫理概論	<p>社会実装に必要となる事業化までのプロセスや、知的財産、また、技術開発の担い手としての倫理のみならず、技術を活用する側のリテラシーや倫理基礎的知識を学ぶとともに、具体的なケースから議論を展開し結論を導き出すための思考法を身につける。(全14回)</p> <p>(49北村 寿宏/5回) 研究から事業化までの流れ、研究・開発やイノベーションのマネジメント、産学連携での実用化事例などの学習を通して、MOT (Management of Technology) の理解に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>(50辻本 和敬/3回) 知的財産権の権利とはどのようなものかについて学ぶ。先行技術(本講座では特許)についての調査方法や知的財産の活用方法についての基礎知識を習得する。</p> <p>(51加藤 定信/6回) 技術者倫理で行っているテーマの個人解決策、およびグループディスカッション後のグループ解決策のプレゼンテーションを通じて現代の技術がはらむ倫理的問題を考えるために必要な基礎知識・法学・事例を理解する。</p>	オムニバス
専門教育科目	確率・統計	<p>高校で学ぶ確率・統計の内容の理解を深めるとともに、専門課程において広範な実用材料に関わる諸現象を理解するために不可欠な、物性、数理・データサイエンスやマテリアルインフォマティクスを理解するうえで必要となる数学の基礎知識を修得する。(全14回)</p>	
専門教育科目	外書講読	<p>世界に通用する研究をするためには、最新情報の収集から研究成果の発表に至るまで、少なくとも英語で行える必要がある。また、大学卒業後の就職先においても、社会人の基本として英語による国際的なコミュニケーション能力が求められる。本授業では、それぞれの研究室に関連のある分野の英語の専門書、教科書、論文などを通して、専門用語の英語表現の理解と、専門分野の技術文書を読んで内容を理解する能力を養う。(全14回)</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		基礎学生実験	材料の研究開発に必要な基礎技術や知識の習得を目的に、物理、化学、プログラミング等の演習を含む、基礎的な実験技術を体験を通して身につけさせる。(全7回)	
専門教育科目		学生実験Ⅰ	材料の研究開発に必要な応用的な技術習得を目的に、金属、化学、データサイエンスの知識や技術を、応用的な実験・演習の体験を通して身につけさせる。(全14回)	
専門教育科目		学生実験Ⅱ	材料の研究開発に必要な応用的な技術習得を目的に、金属、化学、データサイエンスの知識や技術を、応用的な実験・演習の体験を通して身につけさせる。(全14回)	
専門教育科目		卒業研究Ⅰ	金属材料、ナノ・機能性材料、生体材料、マテリアルズ・インフォマティクス等の最先端の材料に関する分野の研究開発に実際に携わり、この分野でこれまでに実施された研究の課題を整理し、これまでの学習を基に研究方法や調査方法、実際のデータの取り扱いなどを学ぶ。	
専門教育科目		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰをもとに、既存の研究に無い各自オリジナルな研究テーマを設定し、成果を得るための実験や調査を計画し、あるいは企業等とのプロジェクト演習や海外研修などに取り組み、その結果を検討・解析し討論を経た上で仮説を立てながら当初の計画を修正し、より良い解決方法を模索しながら、繰り返し研究に取り組む。	
専門教育科目		卒業研究Ⅲ	卒業研究Ⅰ・Ⅱで得られた成果をもとに、研究開発の手法、実際のデータの取り扱いなどを自ら学ぶとともに、検討結果や検証に基づいて、実施した追加実験等について、それらを一つの論文や成果報告書としてまとめ、第3者が理解できるように正確にプレゼンテーションできる能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	経年損傷と材料の科学	材料力学で設計された部材は無損傷材料が前提であるため、損傷時には機能維持のために交換される。一方、大型の構造部材は交換が容易でなく、定期的に検査して損傷が見つければ破壊力学で有害性を評価しながら運用が続けられる。本科目では、設計における材料力学と破壊力学の違い、き裂の応力場の理解を基礎として、内部欠陥の計測法および関連する数学、物理学について学び、損傷許容設計についての素養を身につけることを目標とする。(全14回)	
専門教育科目	溶接・接合工学	ほぼ全ての、特に金属材料を中心とする構造部材では各種溶接法、樹脂・複合材料では接着などの接合方法が不可欠だが、構造物の事故や経年損傷は、ほぼ全て溶接・接合部から発生する。本講義では、材料系学生が常識として知っておくべき、溶接・接合の各種施工方法、管理方法、評価方法を学ぶ。(全7回)	
専門教育科目	塑性加工学	塑性加工は、全ての金属材料の中核的な加工手法として多用され、工学的にも冷間圧延、熱間圧延などで、学術的背景を利用して広範に実用されている。本講義では、これら塑性加工の原理を理解し、実用されている塑性加工技術の基礎について講義する。(全7回)	
専門教育科目	腐食防食学	金属材料の腐食は、我が国だけでも、社会的に長年膨大な損失を生んでおり、これら損失低減のためにも工業材料の腐食発生メカニズムの基礎を学び、腐食を押さえるための防食の技術についても理解する。(全7回)	
専門教育科目	材料電気化学	酸化・還元など電子のやり取りを伴う化学現象の理解のために必要な電気化学の基礎を学ぶとともに、電池や触媒などの実用材料の機能や、金属材料の腐食・防食等、実用材料で利用されている電気化学的技術や、実用材料で問題となる電気化学的現象を理解することを目的とする。(全7回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	未来を支えるエネルギー技術	現代社会における環境負荷の増大、化石燃料の枯渇などの問題解決のために、既存の大規模発電技術に加え、様々な新しいエネルギー変換技術が研究・開発されている。本講義では水素、燃料電池技術を中心にカーボンニュートラルの達成に欠かすことのできないエネルギー技術について基礎的な知識を身につける。さらに水素利用以外の開発中の技術についても、技術の基本と将来の展望を学習する(全7回)。	
専門教育科目	環境浄化材料概論	本講義では、環境浄化、特に水質浄化や水処理に供する材料を創製するために必要となる知識として、以下について学ぶ。 水中における吸着現象の基礎、イオン交換現象の基礎原理、ゼオライト、粘土、イオン交換樹脂の基礎と応用。(全14回)	
専門教育科目	粉体材料化学	粉体は固体と異なる特異な流動性および圧縮性を示すため、工業的に重要な材料である。それら粉体の物理的・化学的製法、物性、さらに、その表面の構造と物性の関係について述べる。(全14回)	
専門教育科目	先端有機材料化学	有機化合物は、現在太陽光発電素子、半導体材料(oFET)、発光表示材料(OLED)、液晶材料など様々な分野で応用・実用化されている。それらの駆動原理や化合物設計の基本原理、利点や問題点をそれぞれの用途に応じて論じていく。(全14回)	
専門教育科目	無機化学	元素および化合物の性質を周期表に沿って系統的に理解するための基礎知識を深めることと、その修得した知識を活かして、元素の各論を理解できるようになることを目的とする。(全14回)	
専門教育科目	分析化学	分析化学は、物質の化学組成やその化学形を認識し(定性)、それを量的に明らかにする(定量)方法(論)の開発やその理論を確立する化学分野である。本講義では、分析化学の理論と化学分析法の原理について講述し、分析化学の基礎力を養う。また、物質化学実験1(分析化学系実験)の進行と合わせ、講義を行う。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目		高分子化学	理工系の化学を専門とする学部生に要求される、高分子の合成に関する基礎的な知識を習得してもらうことを目的とする。本講義では、高分子の定義と分類、工業的に広く利用されている高分子合成法（重縮合、ラジカル重合、カチオン重合とアニオン重合、リビング重合、立体規則性重合、開環重合）について、有機化学的視点から説明する。（全14回）	
専門教育科目		生体材料学	人工関節や眼内レンズをはじめとした人工臓器を支える生体材料は、その用途に応じて有機・無機・高分子の各種材料を用い、巧みに設計されている。これらの生体材料設計にあたり、生体側から要求される基本要件について学ぶとともに、各種評価法と現在の生体材料の機能について概説する。（全14回）	
専門教育科目		生命工学概論	生命現象のしくみを分子レベルから理解し、材料科学・バイオ医学への展開を概説する。細胞・組織・器官、生体高分子の機能、遺伝子・ゲノムについて学び、生命工学の実用分野について理解を深める。（全14回）	
専門教育科目		熔融加工学	ものづくりの基本である凝固現象について解説する。金属や合金が液体から固体へ変態する際に生じる変化を、ナノからマクロまで様々なスケールで眺め、また様々な凝固組織の生成機構やその制御法についても取り扱う。金属材料の機械的な性質が温度と関係することを理解し、熔融加工として砂型鋳造法と特殊鋳造法での製品の製法も理解する。（全14回）	
専門教育科目		材料科学から社会を見る	文系から工科系までの幅広く、材料についての授業を行うことで、社会の関わりを理解し材料の利用や開発の基本について理解する。（全14回）	
専門教育科目		材料工学のフロンティア	材料の生産現場や開発を行っている研究所の見学を行い、実際の加工プロセス現場について学ぶ。また、それに伴う設計の基本を学ぶ。（全14回）	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目		NEXTAセミナー	講義及び「次世代たたら協創センター（通称：NEXTA、本学に設置する先端金属素材に関する共同研究所）」の研究紹介および実験室の見学を通して、材料の応用分野や材料開発の基本について理解することを目的とする。 (全14回)	
専門教育科目		Materials Science	基礎的な材料科学の考え方を理解させる。また、状況に応じて適当な材料の選択を行うことが出来、新しい材料を創り出す能力を修得させる。(全14回)	
専門教育科目		Introduction to high-temperature materials	耐熱材料全般についての知識習得およびそれらの知見を使って材料設計を行えるだけの技量を育成する。(全14回)	
専門教育科目		Introduction for polymer colloids and interfaces	身近な材料であるコロイド粒子についてその現象を学ぶとともに、特に有機・高分子コロイドにおける基礎について講義する。(全7回)	
専門教育科目		IoT・コンピュータ入門	情報の活用のために必要となる計算機に関する知識を身に付ける。まず、コンピュータ工学の基礎となる整数論から有限体までを学ぶ。ついで、具体的なIoT機器を対象として、計算機アーキテクチャの基礎をハードウェアとソフトウェアの両面から学び、ハードウェア構成、ファームウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションの階層構造を踏まえて、センサなど周辺機材の活用を含めたコンピュータの運用知識を得る。(全14回)	
専門教育科目		情報論	情報の数学的扱い方として、エントロピー、シャノンの符号化定理といった情報理論の基礎的な概念を理解し、データ圧縮や誤り訂正、情報セキュリティへの応用などの知識を得ることにより、情報を扱う上での理論的思考力を得る。(全14回)	
専門教育科目		機械学習	機械学習の基礎、概念を理解し、基本的な手法から代表的な手法を理解する。まず、基礎として必要性、応用分野などを学ぶ。次に、基本的な手法として識別関数、決定木分類、ナイーブベイズ識別器を学ぶ。さらに、深層学習や強化学習などのニューラルネットワークに基づく手法を学ぶことにより、機械学習の基礎を理解する。(全14回)	

授 業 科 目 の 概 要 (材料エネルギー学部材料エネルギー学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	情報セキュリティ	暗号理論を中心とした情報セキュリティの基礎理論ならびにその応用に関する理解を目的とする。基礎数学として、確率論や初等整数論のうち暗号理論の基礎を理解するのに必要なことを学ぶ。暗号方式や電子署名等の技術を理解し、安全性の数学的な扱い方、暗号技術のネットワークセキュリティへの応用を学ぶ。これにより、情報セキュリティの基礎技術や考え方を理解する。(全14回)	
専門教育科目	材料系エンジニアのための経済事情論	材料系エンジニアが、視野を広げ社会で活躍できるように、世界で現実に起きている経済事情を、基本的な経済理論や経済に関する国際ルールを交じえて学んでいく。例えば、最近ではウィズコロナ、インフレ懸念、ウクライナ侵攻といった経済に関連する出来事を取り上げ、日本・米国・EU・中国・東南アジアなどの国々の経済の特徴や、世界での日本経済の位置づけを理解するなどして、グローバルな視点から世界経済や日本経済を見る目を養う。(全14回)	
専門教育科目	新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り	新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作りを行う。取り上げる課題の本質を分析し、新材料・エネルギー技術を活かした製品・サービスを設計し、そのシステムを包含する特許明細書作りを通じてビジネスにおける知財戦略の重要性を学んだのち、設計した製品・サービスの有効性を関係機関にインタビューを試み検証し、それを踏まえて事業化構想をブラッシュアップする。(全14回)	共同 講義2 演習14
専門教育科目	海外研修	指導教員に助言をもらいながら、本学の海外協定校を中心に、自身のスキルアップや研究に関連した機関へ留学して体験を積む。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか、授業やワークショップ、現地の学生とのディスカッション、教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める。	
専門教育科目	企業実践プロジェクト演習	地域連携プラットフォームを活用し、企業の実課題に基づくプロジェクトテーマを決定し、グループまたは個人で、課題解決に必要な知識や技術を自主的に学習し、得た成果は地域連携プラットフォーム参画の教員や関連企業に評価頂きながら、修正を行い課題解決を模索する演習を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)				
科目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目		実践インターンシップ	専門分野において設定した課題に関連した企業、あるいは共同研究実施企業が、教員と連携しながら、主導的に実施する、実習やインターンシップ等に学生が参加する。これにより、実際に企業が困っている課題解決の解決に向けたより実践的な経験を積みながら、必要な知識や方法論を体験的に修得する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

○都道府県内における位置関係の図面

島根県



● …島根大学松江キャンパスの位置

● …島根大学出雲キャンパスの位置

○最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



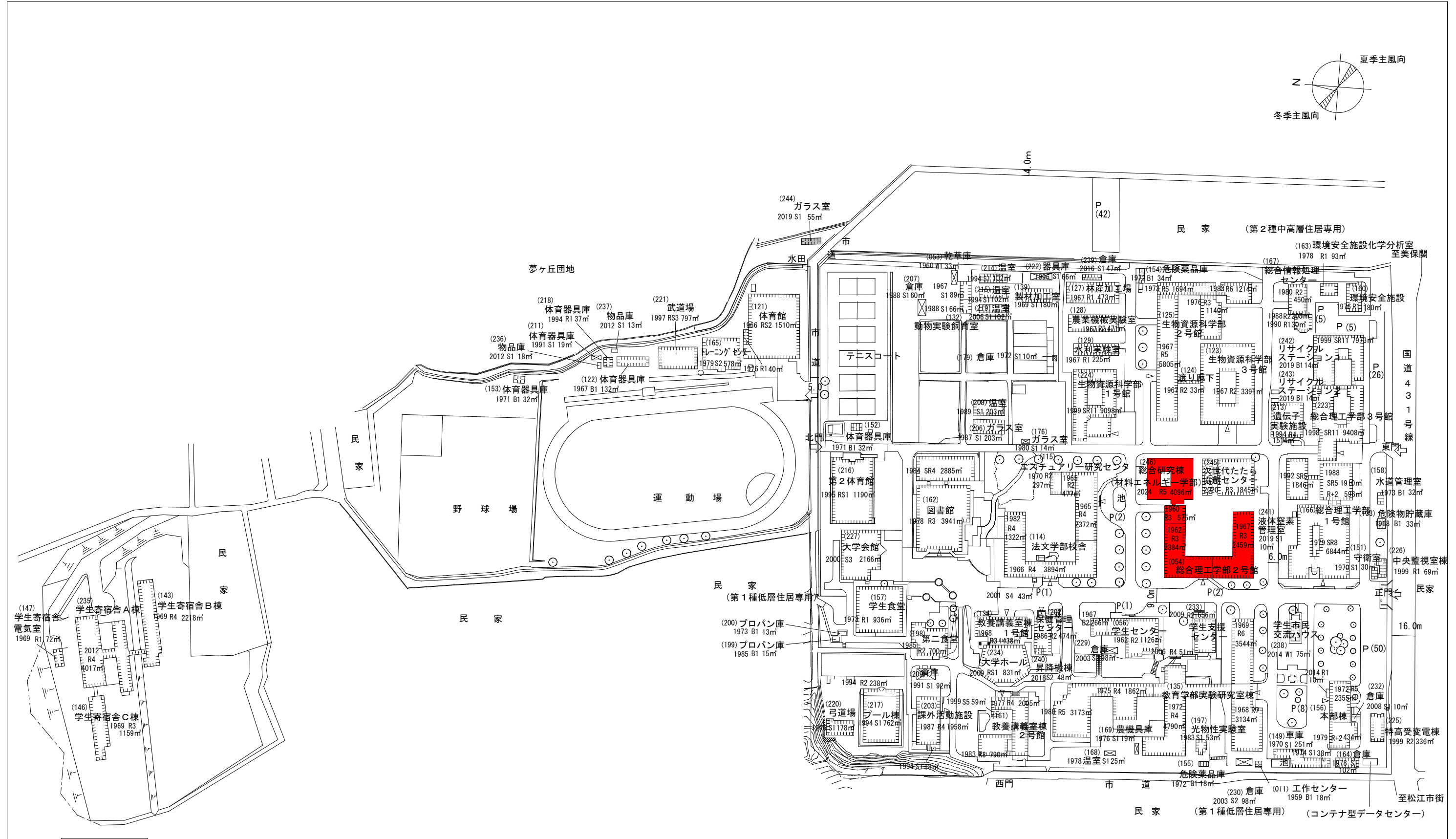
J R 松江駅より

距離：2.8km

市営バス：島根大学前下車 約15分～20分

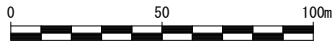
一畑バス：島根大学前下車 約20分

配置図



学生寄宿舍

S = 1 : 2500



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地名	学校番号	学校名	作成年度
201,195㎡	40,911㎡	126,755㎡	20.7%	62.1%	4,589人	法文学部、教育学部、人間科学部、生物資源科学部、総合工学部 地域未来協創本部、教育・学生支援本部、研究・学術情報本部 グローバル推進本部、次世代たたら協創センター、大学図書館 大学事務局施設、学生寄宿舍、大学センター等	001	川津	松江市西川津町1,060	0512	島根大学	R4

管理学則（案）

（平成16年島大学則第1号）
（平成16年4月 1日 制定）
〔令和 5年 月 日最終改正〕
機密性1

目次

- 第1章 法人
 - 第1節 総則（第1条・第2条）
 - 第2節 役員及び職員組織等（第3条・第4条の7）
 - 第3節 会議（第5条―第8条）
- 第2章 大学
 - 第1節 大学の構成（第9条―第21条）
 - 第2節 職員組織その他（第22条―第38条）
 - 第3節 会議（第39条―第41条）
 - 第4節 削除
 - 第5節 学部の収容定員（第42条）
- 第3章 大学院
 - 第1節 大学院の構成等（第43条―第46条）
 - 第2節 大学院の収容定員（第47条）
 - 第3節 職員組織（第48条―第50条）
- 第4章 教育内容等の改善のための組織的な研修等（第51条）
- 第5章 雑則（第52条）
- 附 則

第1章 法人

第1節 総則

（法人の目的）

第1条 国立大学法人島根大学（以下「法人」という。）は、島根大学を設置し、大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。

（業務の範囲等）

第2条 法人は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 島根大学（以下「本学」という。）を設置し、これを運営すること。
- 二 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- 三 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- 四 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- 五 島根大学における研究の成果を普及し、及びその活動を推進すること。
- 六 島根大学における技術に関する研究の成果の活用を促進する事業であって国立大学法人法施行令（平成15年政令第478号）で定めるものを実施する者に出資すること。
- 七 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

第2節 役員及び職員組織等

（役員）

第3条 法人に、国立大学法人法（平成15年法律第112号。以下「法人法」という。）第10条に基づき、役員として学長、監事及び理事を置く。

2 役員に関し必要な事項は、別に定める。

（副理事）

第3条の2 法人に副理事を置くことができる。

2 副理事に関し必要な事項は、別に定める。

（特別顧問）

第3条の3 法人に特別顧問を置くことができる。

2 特別顧問に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第4条 法人に次の職員を置く。

- 一 一般職員
- 二 教育職員
- 三 医療職員
- 四 特別職員
- 五 その他の職員

2 職員の職務は、学校教育法（昭和22年法律第26号）の定めるところによるほか、学長が定めるものとする。

3 第1項第2号の教育職員のうち、教授、准教授、講師、助教及び助手を教員という。

4 職員に関し必要な事項は、別に定める。

(学長室)

第4条の2 法人に、学長の戦略的経営を支援するため学長室を置く。

2 学長室に関し、必要な事項は、別に定める。

(学術研究院)

第4条の3 法人に、教員組織として学術研究院を置く。

2 学術研究院に次の学系を置く。

- 人文社会科学系
- 教育学系
- 人間科学系
- 医学・看護学系
- 理工学系
- 環境システム科学系
- 農生命科学系
- 教育研究推進学系
- 機能強化推進学系

3 学術研究院に関し、必要な事項は、別に定める。

(学術研究院長)

第4条の4 学術研究院に学術研究院長を置き、学長をもって充てる。

(学系長)

第4条の5 学系に学系長を置く。

2 学系長は、その学系に関する校務をつかさどる。

(事務組織)

第4条の6 法人に、その事務を処理するため事務組織を置く。

2 事務組織に関し、必要な事項は、別に定める。

(事務局長)

第4条の7 学長の下に、事務組織を総括するために事務局長を置く。

2 前項の規定にかかわらず、学長が指名する理事に事務組織を総括させることができる。

第3節 会議

(役員会)

第5条 法人に、法人法第11条第3項に基づき、法人の重要事項について学長の意思決定に先立ち議決を行う機関として、役員会を置く。

2 役員会に関し、必要な事項は、別に定める。

(経営協議会)

第6条 法人に、法人法第20条に基づき、法人の経営に関する重要事項を審議する機関として、経営協議会を置く。

2 経営協議会に関し、必要な事項は、別に定める。

(教育研究評議会)

第7条 法人に、法人法第21条に基づき、本学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会に関し、必要な事項は、別に定める。

(学長選考・監察会議)

第8条 法人に、法人法第12条第2項及び第17条第5項に基づき、学長の選考又は解任に係る申出を行う機関として、学長選考・監察会議を置く。

2 学長選考・監察会議に関し、必要な事項は、別に定める。

第2章 大学

第1節 大学の構成

(学部)

第9条 本学に次の学部を置く。

法文学部

教育学部

人間科学部

医学部

総合理工学部

材料エネルギー学部

生物資源科学部

(学科・課程及び講座)

第10条 法文学部に次の学科及び講座を置く。

法経学科

法経

社会文化学科

社会文化

言語文化学科

言語文化

2 教育学部に次の課程を置く。

学校教育課程

3 人間科学部に次の学科を置く。

人間科学科

4 医学部に次の学科、系及び講座を置く。

医学科

基礎医学系

解剖学，生理学，生化学，生命科学

臨床基礎医学系

薬理学，病理学，微生物学，免疫学

社会医学系

法医学，環境保健医学，医療情報学，医学英語教育学

臨床医学系

内科学，皮膚科学，小児科学，外科学，整形外科学，脳神経外科学，泌尿器科学，精神医学，産科婦人科学，耳鼻咽喉科・頭頸部外科学，眼科学，放射線医学，麻酔科学，緩和ケア，歯科口腔外科学，臨床検査医学，救急医学，Acute Care Surgery，リハビリテーション医学，地域医療教育学，地域医療政策学

看護学科

基礎看護学，臨床看護学，地域・老年看護学

5 総合理工学部に次の学科を置く。

物理工学科

物質化学科

地球科学科

数理科学科

知能情報デザイン学科

機械・電気電子工学科

建築デザイン学科

6 材料エネルギー学部に次の学科を置く。

材料エネルギー学科

7 生物資源科学部に次の学科を置く。

生命科学科
農林生産学科
環境共生科学科

第11条 削除

(大学院の設置)

第12条 本学に大学院を置く。

(附属病院)

第13条 医学部附属の教育研究施設として、医学部附属病院（以下「附属病院」という。）を置く。

(附属学校)

第14条 本学に次の学部附属学校を置く。

教育学部 附属幼稚園，附属義務教育学校

2 前項の附属学校に学習生活支援研究センターを置く。

(学部附属の教育研究施設)

第15条 本学に次の学部附属の教育施設又は研究施設を置く。

法文学部 山陰研究センター

教育学部 教育支援センター，教師教育研究センター，FD戦略センター

生物資源科学部 生物資源教育研究センター

2 前項に掲げる生物資源教育研究センターは、本学の教育研究上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができるものとする。

第15条の2 削除

(本部)

第16条 本学に、本学の教育研究に係る全学的な業務を円滑かつ効果的に実施する組織として、次の本部を置く。

教育・学生支援本部

研究・学術情報本部

グローバル化推進本部

地域未来協創本部

オープンイノベーション推進本部

(本部に置くセンター等)

第17条 教育・学生支援本部に次のセンター等を置く。

大学教育センター

国際観光教育推進センター

保健管理センター

学生支援センター

障がい学生支援室

2 研究・学術情報本部に次のセンター等を置く。

戦略的研究推進センター

エスチュアリー研究センター

総合科学研究支援センター

総合情報処理センター

地域包括ケア教育研究センター

総合博物館

自然災害軽減教育研究センター

数理・データサイエンス教育研究センター

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター

3 グローバル化推進本部に次のセンター等を置く。

国際センター

外国語教育センター

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

(次世代たたら協創センター)

第17条の1の2 本学に、金属材料評価技術等の研究・開発を行い、その成果を実用化に結び付けていくと共に、金属材料関連の専門人材を育成するために次世代たたら協創センターを置く。

(附属図書館)

- 第17条の2 本学に附属図書館を置く。
2 前項の附属図書館に分館を置く。
- 第17条の3 削除
- 第17条の4 削除
- 第17条の5 削除
- 第17条の6 削除
(ダイバーシティ推進室)
- 第17条の7 本学に、ダイバーシティの推進及び女性研究者支援に関する具体的事業を企画・立案・実施するためダイバーシティ推進室を置く。
(ハラスメント対策室)
- 第17条の8 本学に、全学的なハラスメント防止とハラスメント事案への対応の充実を図るためハラスメント対策室を置く。
- 第17条の9 削除
- 第18条 削除
(山陰法実務教育研究センター)
- 第19条 本学に、山陰地域における法学教育の充実発展に寄与するため山陰法実務教育研究センターを置く。
(こころとそだちの相談センター)
- 第19条の1の2 本学に、心の健康に関する相談に応じて地域社会に貢献するとともに、心理臨床に関する高度な知識と技能を有する専門家の養成に資するためこころとそだちの相談センターを置く。
- 第19条の1の3 削除
(寄附講座等)
- 第19条の2 本学に、寄附講座、寄附研究部門又は寄附研究分野を置くことができる。
(共同研究講座等)
- 第19条の3 本学に、共同研究講座又は共同研究部門を置くことができる。
- 第19条の4 削除
- 第20条 削除
(規則)
- 第21条 第13条から前条までに関し必要な事項は、別に定める。
第2節 職員組織その他
(学長)
- 第22条 本学に学長を置く。
2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
(副学長)
- 第23条 本学に副学長を置く。
2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
(学長特別補佐)
- 第23条の2 本学に、学長特別補佐を置くことができる。
2 学長特別補佐は、学長の職務を助け、学長が指定する業務を処理する。
(学部長)
- 第24条 本学の各学部に学部長を置く。
2 学部長は、その学部に関する校務をつかさどる。
(副学部長)
- 第25条 本学の各学部に副学部長を置く。
2 副学部長は、学部長の職務を助け、学部長の職務のうちあらかじめ定める範囲内の業務を処理する。
(学科長)
- 第26条 学科に学科長を置くことができる。
2 学科長は、その学科に関する事項を整理する。
(病院長)
- 第27条 附属病院に病院長を置く。
2 病院長は、附属病院に関する事項を掌理する。
(副病院長)
- 第28条 附属病院に副病院長を置くことができる。

2 副病院長は、病院長の職務を助ける。

(附属学校園の長)

第29条 附属学校に校長(幼稚園にあっては園長)を置く。

2 附属学校の校長及び園長は、教育学部長の命を受け、その学校及び幼稚園に関する事項を処理する。

(学部附属の教育研究施設の長)

第30条 本学の学部附属の教育施設及び研究施設に長を置く。

2 前項の教育施設及び研究施設の長は、当該学部長の命を受け、その施設に関する事項を処理する。

(本部長)

第30条の2 本学の各本部に本部長を置く。

2 前項の本部長は、その所掌する本部の業務を総括する。

(副本部長)

第30条の3 本学の各本部に副本部長を置くことができる。

2 前項の副本部長は、本部長の職務を助ける。

第31条 削除

(本部に置くセンター等の長)

第32条 本部に置くセンター等に長を置く。

2 本部に置くセンター等の長は、その所掌するセンター等の業務を掌理する。

(本部に置くセンター等の副センター長等)

第33条 本部に置くセンター等に副センター長等を置くことができる。

2 副センター長等は、センター等の長の職務を助ける。

第34条 削除

第35条 削除

第36条 削除

第37条 削除

(名誉教授)

第38条 本学の学長、副学長、学部長、教授、准教授又は講師として勤務した者であって、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

2 名誉教授の称号の授与に関し、必要な事項は、別に定める。

第3節 会議

第39条 削除

(教授会等)

第40条 本学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

一 学生の入学、卒業及び課程の修了

二 学位の授与

三 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長(以下この項において「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

4 教授会は、その定めるところにより、教授会に属する職員のうちの一部の者をもって構成される代議員会を置くことができる。

5 教授会は、その定めるところにより、代議員会の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

6 教授会に関し、必要な事項は、別に定める。

(学術研究院会議)

第41条 学術研究院に、学術研究院会議を置く。

2 学術研究院会議に関し、必要な事項は、別に定める。

第4節 削除

第5節 学部の収容定員

(収容定員)

第42条 学部、学科等の収容定員は、次のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	入学定員	第2年次	第3年次	収容定員
-----	---------	------	------	------	------

			編入学定員	編入学定員	
法文学部	法経学科	76			304
	社会文化学科	47			188
	言語文化学科	52			208
				10	20
	計	175		10	720
教育学部	学校教育課程	130			520
	計	130			520
人間科学部	人間科学科	80			320
	計	80			320
医学部	医学科	90	5	5	585
	看護学科	60			240
	計	150	5	5	825
総合理工学部	物理工学科	60		2	244
	物質化学科	60		2	244
	地球科学科	50		1	202
	数理科学科	46		1	186
	知能情報デザイン学科	50		2	204
	機械・電気電子工学科	64		2	260
	建築デザイン学科	40		2	164
	計	370		12	1,504
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	80		5	330
	計	80		5	330
生物資源科学部	生命科学科	70		3	286
	農林生産学科	60		9	258
	環境共生科学科	70		3	286
	計	200		15	830
合計		1,185	5	47	5,049

第3章 大学院

第1節 大学院の構成等

(研究科)

第43条 大学院に次の研究科を置く。

人間社会科学研究科

教育学研究科

医学系研究科

自然科学研究科

(課程)

第44条 人間社会科学研究科は、修士課程とする。

2 自然科学研究科は、博士課程とする。

3 自然科学研究科の博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の

課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

- 4 医学系研究科は、医学を履修する博士課程（以下「医学博士課程」という。）及び修士課程並びに看護学を履修する博士課程とする。
- 5 医学系研究科の看護学を履修する博士課程は、博士前期課程及び博士後期課程に区分し、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。
- 6 教育学研究科は、専門職学位課程とする。

（専攻）

第45条 研究科に次の専攻を置く。

人間社会科学研究科

社会創成専攻

臨床心理学専攻

教育学研究科

教育実践開発専攻

医学系研究科

医学博士課程

医科学専攻

修士課程

医科学専攻

博士前期課程

看護学専攻

博士後期課程

看護学専攻

自然科学研究科

博士前期課程

理工学専攻

環境システム科学専攻

農生命科学専攻

博士後期課程

創成理工学専攻

第45条の2 削除

（鳥取大学大学院連合農学研究科の教育研究の実施）

第46条 鳥取大学大学院の連合農学研究科の教育研究の実施に当たっては、本学、鳥取大学及び山口大学が協力するものとする。

- 2 前項の連合農学研究科に置かれる連合講座は、鳥取大学及び山口大学の教員とともに、本学の教員がこれを担当し、又は分担するものとする。

第2節 大学院の収容定員

（収容定員）

第47条 大学院の収容定員は、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	修士課程 博士前期課程		医学博士課程 博士後期課程		専門職学位課程	
		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
人間社会科学研究科	社会創成専攻	15	30	—	—	—	—
	臨床心理学専攻	10	20	—	—	—	—
	計	25	50	—	—	—	—
教育学研究科	教育実践開発専攻	—	—	—	—	20	40
				—	—	—	—
	計			—	—	20	40

医学系研究科	医科学専攻	—	—	30	120	—	—
	医科学専攻	15	30	—	—	—	—
	看護学専攻	12	24	2	6	—	—
	計	27	54	32	126	—	—
自然科学研究科	理工学専攻	79	158	—	—	—	—
	環境システム科学専攻	78	156	—	—	—	—
	農生命科学専攻	43	86	—	—	—	—
	創成理工学専攻	—	—	15	45	—	—
	計	200	400	15	45	—	—
合計		252	504	47	171	20	40

第3節 職員組織

(研究指導及び授業担当)

第48条 研究科における研究の指導は原則として教授が行い、授業は教授、准教授、講師又は助教が担当する。

(研究科長)

第49条 研究科に研究科長を置く。

2 研究科長(人間社会科学研究科長及び自然科学研究科長を除く。)は、基礎となる学部の学部長をもって充てる。

3 研究科長は、その研究科に関する校務をつかさどる。

(副研究科長)

第49条の2 研究科に副研究科長を置くことができる。

2 副研究科長は、研究科長の職務を助ける。

(専攻長)

第49条の3 専攻に専攻長を置くことができる。

2 専攻長は、その専攻に関する事項を整理する。

(研究科教授会)

第50条 研究科に、教育研究に関する重要事項を審議するため、研究科教授会を置き、第40条第2項から第5項の規定は、研究科教授会について準用する。

2 前項に定めるもののほか、研究科教授会に関し必要な事項は、各研究科において定める。

第4章 教育内容等の改善のための組織的な研修等

(組織的な研修等)

第51条 本学は、学部においては授業の内容及び方法の改善を図るため全学及び学部ごとに、研究科においては授業及び研究指導の内容並びに方法の改善を図るため研究科ごとに、組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第5章 雑則

(学則の改廃)

第52条 この学則の改廃は、役員会の議を経て行う。

2 前項の役員会の審議に先立ち、法人の経営に関する部分については経営協議会において、国立大学法人の経営に関する部分を除く部分については教育研究評議会において審議を行うものとする。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 旧島根大学法文学部の法学科及び社会システム学科並びに教育学部の学校教育教員養成課程、生涯学習課程並びに生活環境福祉課程は、第10条の規定にかかわらず、当該学科又は課程に在学する者が当該学科又は課程に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 法文学部及び教育学部の収容定員並びに全学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成16年度から平成18年度については、次の表のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	収容定員		
		平成16年度	平成17年度	平成18年度
法文学部	法経学科	90	180	270
	社会文化学科	70	140	210
	言語文化学科	275	270	265
	法学科	435	290	145
	社会システム学科	285	190	95
	計	1,175	1,090	1,005
教育学部	学校教育課程	170	340	510
	学校教育教員養成課程	300	200	100
	生涯学習課程	195	130	65
	生活環境福祉課程	105	70	35
	計	770	740	710
合計		5,235	5,120	5,005

4 旧島根大学大学院人文社会科学研究科の法学専攻、社会システム専攻及び言語文化専攻は、第47条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

5 人文社会科学研究科及び医学系研究科医科学専攻の収容定員並びに全研究科の修士課程・博士前期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成16年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員
人文社会科学研究科	法経専攻	6
	言語・社会文化専攻	6
	法学専攻	8
	社会システム専攻	4
	言語文化専攻	4
	計	28
医学系研究科	医科学専攻	15
	計	39
合計		513

6 法務研究科の収容定員及び全研究科の専門職学位課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成16年度及び平成17年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成16年度	平成17年度
法務研究科	法曹養成専攻	30	60
	計	30	60
合計		30	60

附 則（平成16年10月 1日一部改正）

この学則は、平成16年10月 1日から施行する。

附 則（平成16年10月27日一部改正）

この学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則（平成16年12月22日一部改正）

この学則は、平成16年12月22日から施行する。

附 則（平成17年 3月 8日一部改正）

この学則は、平成17年 3月 8日から施行する。

附 則（平成17年 3月 8日一部改正）

この学則は、平成17年 4月 1日から施行する。

附 則（平成17年 3月22日一部改正）

この学則は、平成17年 3月22日から施行する。

附 則（平成17年10月26日一部改正）

この学則は、平成17年10月26日から施行する。

附 則（平成17年12月28日一部改正）

この学則は、平成17年12月28日から施行する。

附 則（平成17年12月28日一部改正）

この学則は、平成18年 1月 1日から施行する。

附 則（平成18年 3月 8日一部改正）

1 この学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

2 この学則による改正後の国立大学法人島根大学管理学則第15条の法文学部に係る規定は、平成16年4月21日から適用し、医学部に係る規定は、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成18年 3月22日一部改正）

この学則は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則（平成18年12月19日一部改正）

この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則（平成19年 3月26日一部改正）

この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則（平成19年 6月19日一部改正）

この学則は、平成19年 6月19日から施行する。

附 則（平成20年 3月25日一部改正）

1 この学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

2 教育学研究科の学校教育専攻及び教科教育専攻、医学系研究科の形態系専攻、機能系専攻、生態系専攻並びに生物資源科学研究科の生物科学専攻、生態環境科学専攻、生命工学専攻、農業生産学専攻及び地域開発科学専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 教育学研究科及び生物資源科学研究科の収容定員並びに全研究科の修士課程・博士前期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成20年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員
教育学研究科	教育実践開発専攻	20
	教育内容開発専攻	20
	学校教育専攻	5
	教科教育専攻	30
	計	75
生物資源科学研究科	生物生命科学専攻	20
	農林生産科学専攻	22
	環境資源科学専攻	18
	生物科学専攻	12
	生態環境科学専攻	18
	生命工学専攻	12
	農業生産学専攻	12

	地域開発科学専攻	22
	計	136
合計		513

4 医学系研究科博士課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成20年度から平成22年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員		
		平成20年度	平成21年度	平成22年度
医学系研究科	医科学専攻	30	60	90
	形態系専攻	24	16	8
	機能系専攻	45	30	15
	生態系専攻	21	14	7
	計	120	120	120

附 則（平成20年 7月22日一部改正）

この学則は、平成20年 7月22日から施行する。

附 則（平成21年 3月17日一部改正）

- この学則は、平成21年 4月 1日から施行する。
- 医学部医学科の入学定員及び収容定員並びに全学部の入学定員及び収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成21年度から平成34年度については、次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員						
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学部	医学科	95	95	95	95	95	95	95
	計	155	155	155	155	155	155	155
合計		1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150	1,150

学部	学科又は課程	入学定員						
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
医学部	医学科	95	95	90	90	90	90	90
	計	155	155	150	150	150	150	150
合計		1,150	1,150	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145

学部	学科又は課程	収容定員						
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学部	医学科	560	570	580	590	600	610	610
	計	820	830	840	850	860	870	870
合計		4,900	4,910	4,920	4,930	4,940	4,950	4,950

学部	学科又は	収容定員
----	------	------

	課程	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度
医学部	医学科	610	610	605	600	595	590	585
	計	870	870	865	860	855	850	845
合計		4,950	4,950	4,945	4,940	4,935	4,930	4,925

附 則（平成21年 4月21日一部改正）

この学則は、平成21年 4月21日から施行する。

附 則（平成22年 1月26日一部改正）

この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

附 則（平成22年 3月17日一部改正）

1 この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。

2 医学部医学科の入学定員及び収容定員並びに全学部の入学定員及び収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成22年度から平成36年度については、次の表のとおりとする。

学部	学科又は 課程	入学定員				
		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
医学部	医学科	100	100	100	100	100
	計	160	160	160	160	160
合計		1,155	1,155	1,155	1,155	1,155

学部	学科又は 課程	入学定員				
		平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度
医学部	医学科	100	100	100	95	95
	計	160	160	160	155	155
合計		1,155	1,155	1,155	1,150	1,150

学部	学科又は 課程	入学定員				
		平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度	平成 36年度
医学部	医学科	90	90	90	90	90
	計	150	150	150	150	150
合計		1,145	1,145	1,145	1,145	1,145

学部	学科又は 課程	収容定員				
		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
医学部	医学科	575	590	605	620	635
	計	835	850	865	880	895

合計	4, 915	4, 930	4, 945	4, 960	4, 975
----	--------	--------	--------	--------	--------

学部	学科又は課程	収容定員				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
医学部	医学科	640	640	640	635	630
	計	900	900	900	895	890
合計		4, 980	4, 980	4, 980	4, 975	4, 970

学部	学科又は課程	収容定員				
		平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	620	610	600	590	585
	計	880	870	860	850	845
合計		4, 960	4, 950	4, 940	4, 930	4, 925

3 法務研究科の収容定員及び全研究科の専門職学位課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成22年度及び平成23年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成22年度	平成23年度
法務研究科	法曹養成専攻	80	70
	計	80	70
合計		80	70

附 則（平成23年 3月23日一部改正）

- この学則は、平成23年 4月 1日から施行する。
- 医学部医学科の入学定員及び収容定員並びに全学部の入学定員及び収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成23年度から平成36年度については、次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学部	医学科	102	102	102	102	102
	計	162	162	162	162	162
合計		1, 157	1, 157	1, 157	1, 157	1, 157

学部	学科又は課程	入学定員				
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
医学部	医学科	102	102	97	97	90
	計	162	162	157	157	150

合計	1, 157	1, 157	1, 152	1, 152	1, 145
----	--------	--------	--------	--------	--------

学部	学科又は課程	入学定員			
		平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	90	90	90	90
	計	150	150	150	150
合計		1, 145	1, 145	1, 145	1, 145

学部	学科又は課程	収容定員				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学部	医学科	592	609	626	643	650
	計	852	869	886	903	910
合計		4, 932	4, 949	4, 966	4, 983	4, 990

学部	学科又は課程	収容定員				
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
医学部	医学科	652	652	647	642	630
	計	912	912	907	902	890
合計		4, 992	4, 992	4, 987	4, 982	4, 970

学部	学科又は課程	収容定員			
		平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	618	606	594	587
	計	878	866	854	847
合計		4, 958	4, 946	4, 934	4, 927

附 則（平成24年 3月19日一部改正）

- この学則は、平成24年 4月 1日から施行する。
- 総合理工学部の電子制御システム工学科及び材料プロセス工学科並びに生物資源科学部の生態環境科学科、農業生産学科及び地域開発科学科は、第10条の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 総合理工学部及び生物資源科学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成24年度から平成26年度については、次の表のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	収容定員		
		平成24年度	平成25年度	平成26年度
総合理工学部	機械・電気電子工学科	80	160	240

	建築・生産設計工学科	40	80	120
	電子制御システム工学科	240	160	80
	材料プロセス工学科	120	80	40
	計	1,632	1,624	1,624
生物資源科学部	農林生産学科	85	170	255
	地域環境科学科	45	90	135
	生態環境科学科	135	90	45
	農業生産学科	90	60	30
	地域開発科学科	165	110	55
	計	840	840	840

4 全学部 of 収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成24年度から平成36年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
合計	4,941	4,950	4,967	4,974	4,976

	収容定員				
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
合計	4,976	4,971	4,966	4,954	4,942

	収容定員		
	平成34年度	平成35年度	平成36年度
合計	4,930	4,918	4,911

5 総合理工学研究科の物質科学専攻、地球資源環境学専攻、数理・情報システム学専攻、電子制御システム工学専攻及び材料プロセス工学専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

6 総合理工学研究科博士前期課程の収容定員及び全研究科の修士課程・博士前期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成24年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員
総合理工学研究科	総合理工学専攻	124
	物質科学専攻	36
	地球資源環境学専攻	14
	数理・情報システム学専攻	28
	電子制御システム工学専攻	22
	材料プロセス工学専攻	12
	計	236
合計		514

附 則（平成24年 6月22日一部改正）

この学則は、平成24年 7月 1日から施行する。

附 則（平成25年 3月14日一部改正）

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附則（平成25年9月9日一部改正）

この学則は、平成25年9月9日から施行する。

附則（平成25年10月15日一部改正）

この学則は、平成25年10月15日から施行する。

附則（平成26年1月29日一部改正）

- この学則は、平成26年2月1日から施行する。ただし、第10条第3項の改正規定中地域・老年看護学に係る部分並びに第45条、第45条の2、第47条及び第49条の3の改正規定は、平成26年4月1日から施行する。
- 総合理工学研究科の材料創成工学専攻及び電子機能システム工学専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 総合理工学研究科博士後期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成26年度及び平成27年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成26年度	平成27年度
総合理工学研究科	総合理工学専攻	12	24
	材料創成工学専攻	12	6
	電子機能システム工学専攻	12	6
	計	36	36

附則（平成26年3月19日一部改正）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附則（平成26年7月14日一部改正）

この学則は、平成26年7月14日から施行し、平成26年7月1日から適用する。

附則（平成27年1月29日一部改正）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則（平成27年3月18日一部改正）

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 法務研究科法曹養成専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 法務研究科法曹養成専攻の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成27年度及び平成28年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	
		平成27年度	平成28年度
法務研究科	法曹養成専攻	40	20
	計	40	20
合計		40	20

附則（平成27年3月25日一部改正）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則（平成27年6月25日一部改正）

この学則は、平成27年7月1日から施行する。

附則（平成27年10月1日一部改正）

この学則は、平成27年10月1日から施行する。

附則（平成28年3月15日一部改正）

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 教育学研究科修士課程の教育実践開発専攻及び教育内容開発専攻は、第45条の規定にかかわらず、

当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

- 3 教育学研究科修士課程及び教育学研究科専門職学位課程の収容定員並びに全研究科の修士課程及び専門職学位課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成28年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	修士課程 博士前期課程	専門職学位課程
		収容定員	収容定員
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	17
	臨床心理専攻	8	—
	教育内容開発専攻	20	—
合計		494	37

- 4 医学系研究科看護学専攻博士後期課程の収容定員及び全研究科の博士後期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成28年度及び平成29年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	収容定員
		平成28年度	平成29年度
医学系研究科	看護学専攻	2	4
合計		158	160

附 則（平成28年 6月24日一部改正）

この学則は、平成28年 7月 1日から施行する。

附 則（平成29年 2月 2日一部改正）

この学則は、平成29年 2月 2日から施行する。

附 則（平成29年 2月 2日一部改正）

- 1 この学則は、平成29年 4月 1日から施行する。
 2 法文学部、教育学部及び人間科学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成29年度から平成31年度については、次の表のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	収容定員		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
法文学部	法経学科	350	340	330
	社会文化学科	260	240	220
	言語文化学科	250	240	230
	計	880	840	800
教育学部	学校教育課程	640	600	560
	計	640	600	560
人間科学部	人間科学科	80	160	240
	計	80	160	240

附 則（平成29年 3月14日一部改正）

この学則は、平成29年 4月 1日から施行する。ただし、平成28年島大学則第1号附則第3項の改正規定は、平成28年 4月 1日から適用する。

附 則（平成30年 3月14日一部改正）

- 1 この学則は、平成30年 4月 1日から施行する。

- 2 総合理工学部の物質科学科，地球資源環境学科，数理・情報システム学科及び建築・生産設計工学科並びに生物資源科学部の生物科学科，生命工学科及び地域環境科学科は，第10条の規定にかかわらず，当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 3 医学部医学科の入学定員及び収容定員並びに全学部の入学定員は，第42条の規定にかかわらず，平成30年度から平成36年度については，次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員				
		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
医学部	医学科	102	102	90	90	90
	計	162	162	150	150	150
合計		1,157	1,157	1,145	1,145	1,145

学部	学科又は課程	入学定員	
		平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	90	90
	計	150	150
合計		1,145	1,145

学部	学科又は課程	収容定員				
		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
医学部	医学科	652	652	640	628	616
	計	912	912	900	888	876

学部	学科又は課程	収容定員	
		平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	604	592
	計	864	852

- 4 総合理工学部及び生物資源科学部の収容定員は，第42条の規定にかかわらず，平成30年度から平成32年度については，次の表のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	収容定員		
		平成30年度	平成31年度	平成32年度
総合理工学部	物理・マテリアル工学科	73	146	221
	物質化学科	73	146	221
	地球科学科	50	100	151
	数理科学科	50	100	151

	知能情報デザイン学科	50	100	152
	機械・電気電子工学科	304	288	274
	建築デザイン学科	40	80	122
	物質科学科	390	260	130
	地球資源環境学科	150	100	50
	数理・情報システム学科	300	200	100
	建築・生産設計工学科	120	80	40
	(第3年次編入学)	24	24	12
	計	1,624	1,624	1,624
生物資源科学部	生命科学科	70	140	213
	農林生産学科	315	290	274
	環境共生科学科	70	140	213
	生物科学科	90	60	30
	生命工学科	120	80	40
	地域環境科学科	135	90	45
	(第3年次編入学)	40	40	20
	計	840	840	835

5 全学部 of 収容定員は、第42条の規定にかかわらず、平成30年度から平成36年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員				
	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
合計	4,976	4,976	4,959	4,942	4,930

	収容定員	
	平成35年度	平成36年度
合計	4,918	4,906

6 総合理工学研究科博士前期課程総合理工学専攻並びに生物資源科学研究科生物生命科学専攻、農林生産科学専攻及び環境資源科学専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

7 自然科学研究科博士前期課程、総合理工学研究科博士前期課程及び生物資源科学研究科の収容定員並びに全研究科の修士課程・博士前期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、平成30年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員
自然科学研究科	理工学専攻	79
	環境システム科学専攻	78
	農生命科学専攻	43
	計	200
総合理工学研究科	総合理工学専攻	124
	計	124

生物資源科学研究科	生物生命科学専攻	20
	農林生産科学専攻	22
	環境資源科学専攻	18
	計	60
合計		478

附 則（平成30年 3月20日一部改正）

この学則は、平成30年 4月 1日から施行する。

附 則（平成30年 5月14日一部改正）

この学則は、平成30年 6月 1日から施行する。

附 則（平成30年10月 4日一部改正）

この学則は、平成30年11月 1日から施行する。

附 則（平成31年 1月25日一部改正）

この学則は、平成31年 2月 1日から施行する。

附 則（平成31年 3月11日一部改正）

この学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則（平成31年 3月22日一部改正）

この学則は、平成31年 4月 1日から施行する。

附 則（令和元年10月15日一部改正）

この学則は、令和元年10月15日から施行する。

附 則（令和2年 3月11日一部改正）

1 この学則は、令和 2年 4月 1日から施行する。

2 医学部医学科の入学定員及び医学部の収容定員並びに全学部の入学定員は、第42条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度については、次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医学部	医学科	102	102	90	90	90
	計	162	162	150	150	150
合計		1,157	1,157	1,145	1,145	1,145

学部	学科又は課程	入学定員	
		令和7年度	令和8年度
医学部	医学科	90	90
	計	150	150
合計		1,145	1,145

学部	学科又は課程	収容定員				
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
医学	医学科	652	652	640	628	621
	看護学科	250	240	240	240	240

部	計	902	892	880	868	861
---	---	-----	-----	-----	-----	-----

学部	学科又は課程	収容定員	
		令和7年度	令和8年度
医学部	医学科	609	597
	看護学科	240	240
	計	849	837

3 全学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和2年度から令和8年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
合計	4,961	4,946	4,934	4,922	4,915

	収容定員	
	令和7年度	令和8年度
合計	4,903	4,891

4 総合理工学研究科博士後期課程総合理工学専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

5 自然科学研究科博士後期課程及び総合理工学研究科博士後期課程の収容定員並びに全研究科の博士後期課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、令和2年度及び令和3年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	収容定員	
		令和2年度	令和3年度
自然科学研究科	創成理工学専攻	15	30
	計	15	30
総合理工学研究科	総合理工学専攻	24	12
	計	24	12
合計		165	168

附 則（令和2年12月28日一部改正）

この学則は、令和3年 1月 1日から施行する。

附 則（令和3年 3月29日一部改正）

- この学則は、令和3年 4月 1日から施行する。
- 人文社会科学研究科法経専攻及び言語・社会文化専攻並びに教育学研究科臨床心理専攻は、第45条の規定にかかわらず、当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 人間社会科学研究科、人文社会科学研究科及び教育学研究科の収容定員並びに全研究科の修士課程・博士前期課程及び専門職学位課程の収容定員は、第47条の規定にかかわらず、令和3年度については、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	修士課程 博士前期課程	専門職学位課程
		収容定員	収容定員

人間社会科学研究所	社会創成専攻	15	—
	臨床心理学専攻	10	—
	計	25	—
人文社会科学研究所	法経専攻	6	—
	言語・社会文化専攻	6	—
	計	12	—
教育学研究所	教育実践開発専攻	—	37
	臨床心理専攻	8	—
	計	8	37
合計		45	37

附 則（令和3年9月30日一部改正）

この学則は、令和3年10月1日から施行する。

附 則（令和4年3月22日一部改正）

1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。

2 医学部医学科の入学定員及び収容定員並びに全学部の入学定員は、第42条の規定にかかわらず、令和4年度から令和9年度については、次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医学部	医学科	102	90	90	90	90	90
	計	162	150	150	150	150	150
合計		1,157	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145

学部	学科又は課程	収容定員					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医学部	医学科	652	640	633	621	609	597
	計	892	880	873	861	849	837

3 全学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和4年度から令和9年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員					
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
合計	4,946	4,934	4,927	4,915	4,903	4,891

附 則（令和4年3月22日一部改正）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和5年 月 日一部改正）

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 法文学部、総合理工学部及び材料エネルギー学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和5年度から令和7年度については、次の表のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	収容定員		
		令和	令和	令和

		5年度	6年度	7年度
法文学部	法経学科	316	312	308
	社会文化学科	197	194	191
	言語文化学科	217	214	211
	計	750	740	730
総合理工学部	物理工学科	283	270	257
	物質化学科	283	270	257
	地球科学科	202	202	202
	数理科学科	198	194	190
	知能情報デザイン学科	204	204	204
	機械・電気電子工学科	260	260	260
	建築デザイン学科	164	164	164
計	1,594	1,564	1,534	
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	80	160	245
	計	80	160	245

3 全学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和5年度から令和9年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
合計	4,974	5,007	5,040	5,073	5,061

国立大学法人島根大学管理学則（案）変更事項について

第9条関係

材料エネルギー学部について規定

第10条関係

総合理工学部の物理・マテリアル工学科の名称を物理工学科に改めるとともに、材料エネルギー学部材料エネルギー学科について規定

第42条関係

法文学部、総合理工学部、材料エネルギー学部の収容定員を規定

附則関係

法文学部、総合理工学部、材料エネルギー学部の収容定員変更に係る学年進行による経過措置を規定

管理学則 新旧対照表

改 定 (案)	現 行
<p>管理学則</p> <p>第9条 本学に次の学部を置く。</p> <p>法文学部</p> <p>教育学部</p> <p>人間科学部</p> <p>医学部</p> <p>総合理工学部</p> <p><u>材料エネルギー学部</u></p> <p>生物資源科学部</p> <p>第10条 法文学部に次の学科及び講座を置く。 (省略)</p> <p>2 教育学部に次の課程を置く。 (省略)</p> <p>3 人間科学部に次の学科を置く。 (省略)</p> <p>4 医学部に次の学科，系及び講座を置く。 (省略)</p> <p>5 総合理工学部に次の学科を置く。</p> <p><u>物理工学科</u></p> <p>物質化学科</p> <p>地球科学科</p> <p>数理科学科</p>	<p>管理学則</p> <p>第9条 本学に次の学部を置く。</p> <p>法文学部</p> <p>教育学部</p> <p>人間科学部</p> <p>医学部</p> <p>総合理工学部</p> <p>生物資源科学部</p> <p>第10条 法文学部に次の学科及び講座を置く。 (省略)</p> <p>2 教育学部に次の課程を置く。 (省略)</p> <p>3 人間科学部に次の学科を置く。 (省略)</p> <p>4 医学部に次の学科，系及び講座を置く。 (省略)</p> <p>5 総合理工学部に次の学科を置く。</p> <p><u>物理・マテリアル工学科</u></p> <p>物質化学科</p> <p>地球科学科</p> <p>数理科学科</p>

知能情報デザイン学科
 機械・電気電子工学科
 建築デザイン学科

6 材料エネルギー学部に次の学科を置く。

材料エネルギー学科

7 生物資源科学部に次の学科を置く。
 (省略)

第42条 学部，学科等の収容定員は，次のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	入学定員	第2年次編入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
法文学部	法経学科	76			304
	社会文化学科	47			188
	言語文化学科	52			208
				10	20
	計	175		10	720
教育学部	学校教育課程	130			520
	計	130			520
人間科学部	人間科学科	80			320
	計	80			320
医学部	医学科	90	5	5	585
	看護学科	60			240

知能情報デザイン学科
 機械・電気電子工学科
 建築デザイン学科

6 生物資源科学部に次の学科を置く。
 (省略)

第42条 学部，学科等の収容定員は，次のとおりとする。

学部名	学科又は課程名	入学定員	第2年次編入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
法文学部	法経学科	80			320
	社会文化学科	50			200
	言語文化学科	55			220
				10	20
	計	185		10	760
教育学部	学校教育課程	130			520
	計	130			520
人間科学部	人間科学科	80			320
	計	80			320
医学部	医学科	90	5	5	585
	看護学科	60			240

	計	150	5	5	825
総合理工学部	理工工学科	60		2	244
	物質化学科	60		2	244
	地球科学科	50		1	202
	数理科学科	46		1	186
	知能情報デザイン学科	50		2	204
	機械・電気電子工学科	64		2	260
	建築デザイン学科	40		2	164
	計	370		12	1,504
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	80		5	330
	計	80		5	330
生物資源科学部	生命科学科	70		3	286
	農林生産学科	60		9	258
	環境共生科学科	70		3	286
	計	200		15	830
合計	1,185	5	47	5,049	

	計	150	5	5	825
総合理工学部	物理・材料工学科	73		2	296
	物質化学科	73		2	296
	地球科学科	50		1	202
	数理科学科	50		1	202
	知能情報デザイン学科	50		2	204
	機械・電気電子工学科	64		2	260
	建築デザイン学科	40		2	164
	計	400		12	1,624
生物資源科学部	生命科学科	70		3	286
	農林生産学科	60		9	258
	環境共生科学科	70		3	286
	計	200		15	830
合計	1,145	5	42	4,879	

附 則 (令和5年 月 日一部改正)

1. この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 法文学部、総合理工学部及び材料エネルギー学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和5年度から令和7年度については、次の表のとおりとする。

学部名	学科又は 課程名	収容定員		
		令和5 年度	令和6 年度	令和7 年度
法文学部	法経学科	316	312	308
	社会文化学科	197	194	191
	言語文化学科	217	214	211
	計	750	740	730
総合理工学部	物理工学科	283	270	257
	物質化学科	283	270	257
	地球科学科	202	202	202
	数理科学科	198	194	190
	知能情報デザイン学科	204	204	204
	機械・電気電子工学科	260	260	260
	建築デザイン学科	164	164	164
	計	1,594	1,564	1,534
材料エネルギー学部	材料エネルギー学科	80	160	245
	計	80	160	245

3 全学部の収容定員は、第42条の規定にかかわらず、令和5年度から令和9年度については、次の表のとおりとする。

	収容定員				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
合計	4,974	5,007	5,040	5,073	5,061

材料エネルギー学部教授会規則（案）

（令和5年島大材料エネルギー学部規則第〇号）

（令和5年4月1日制定）

機密性1

（趣旨）

第1条 この規則は、管理学則（平成16年島大学則第1号。以下「管理学則」という。）第40条第6項の規定に基づき、島根大学材料エネルギー学部教授会（以下「教授会」という。）の運営等に関し必要な事項を定める。

（組織）

第2条 教授会は、材料エネルギー学部を担当する本学専任の教授、准教授、講師及び助教（以下「構成員」という。）をもって組織する。

（審議事項）

第3条 教授会は、管理学則第40条第2項に定めるもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じ意見を述べることができる。

- 一 副学部長の選考に関する事項
- 二 学部の諸規則の制定及び改廃に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 授業及び試験等学業に関する事項
- 五 その他学部の教育研究及び運営に関する重要事項

（招集及び議長）

第4条 教授会は学部長が招集し、議長は学部長をもってこれに充てる。ただし、学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長が指名した教授がその職務を代理する。

2 教授会は、学部長が必要と認めるとき、又は構成員の3分の1以上の者から請求があったときに招集する。

（定足数）

第5条 教授会は、構成員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

2 前項の定足数の算出にあたり、次の各号の一に該当する者は、構成員の数に算入しない。

- 一 出張者
- 二 研修者
- 三 30日以上にわたる病休者
- 四 休職者

（議決）

第6条 教授会の議事は、当該教授会での審議を受け、議長の決定をもって議決とする。

（事務）

第7条 教授会の事務は、松江地区学部等事務部総務課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会において定める。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

島根大学材料エネルギー学部
設置の趣旨等を記載した書類



国立大学法人島根大学

1.設置の趣旨及び必要性	1
(1) 設置の背景及び必要性	1
(2) 育成する人材像	7
(3) 学生に修得させる力	8
(4) 研究対象とする中心的な学問分野	9
(5) 既設学部との関係	9
2.学部・学科等の特色	10
3.学部・学科等の名称及び学位の名称	11
4.教育課程の編成の考え方及び特色	12
(1) 教育課程編成の考え方	12
(2) 教育課程の特色	13
5.教育方法、履修指導方法及び卒業要件	15
(1) 教育方法の特色	15
(2) 履修モデル	15
(3) 修学支援	16
(4) 履修登録上制限	16
(5) 卒業要件	17
6.編入学定員を設定する場合の具体的な計画	18
7.インターンシップの具体的な計画	19
8.海外研修の具体的な計画	22
9.入学者選抜の概要	24
10.教員組織の編成の考え方及び特色	28
11.施設、設備等の整備計画	29
12.管理運営	31
13.自己点検・評価	32
14.情報の公表	33
15.教育内容等の改善を図るための組織的な取組	34
16.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	35

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の背景及び必要性

1. 社会的背景

1-1. エネルギー変革の原動力となるマテリアル革新の重要性

昨今、急激な気候変動に伴う気象災害が世界各地で生じ、それによる人的・経済的損失は拡大している。この気候変動問題への対応は喫緊の課題であり、その解決に向けて、2020年から本格的に運用されているパリ協定を着実に実施し、同協定の目指す今世紀後半の世界の脱炭素社会の実現に向けた取組を進めていくことが不可欠となっている。

こうした中、EUをはじめ世界各国で、カーボンニュートラル実現のための技術開発、社会実装等への積極的な投資が展開され、この流れはEUの「グリーンリカバリー」等に見られるように、カーボンニュートラルへの取組がコロナ禍からの経済復興の柱に位置付けられることで、さらに加速している。

我が国でも、「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」（令和元年6月閣議決定）において、最終到達点として「脱炭素社会」を掲げ、2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減の実現に向けて大胆に取り組むことを宣言し、この長期戦略に基づき「革新的環境イノベーション戦略」を策定している。そこでは、世界のカーボンニュートラル、過去のCO2削減（ビヨンド・ゼロ）を可能とする革新的技術を2050年までに確立するため、長期戦略に掲げた目標に向けて社会実装を目指し、エネルギー転換（供給）の取組として再生可能エネルギーの主力電源化や低コストな次世代蓄電池の開発、水素輸送・貯蔵の技術開発が、またエネルギー需要の取組として、自動車・航空機等の電動化（高性能蓄電池等）の拡大と環境性能の大幅向上（燃費向上に資する機体やエンジンの材料軽量化等）、さらにはプラスチック等の高度資源循環技術等の研究・技術開発が提示されている。

このように、「革新的環境イノベーション戦略」を結実させるためにはマテリアル（材料・素材）の革新が不可欠である。また、製品を構成するマテリアル（材料・素材）の高効率化、高付加価値化がエネルギー変革の原動力となり、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献するものといえる。

1-2. マテリアル革新を支える人材の必要性

マテリアル革新を生み出すのは「人」であるが、近年の研究環境の魅力低下とあいまって、マテリアル領域の人材不足が指摘されている。

マテリアル特有の人材育成・確保の取組は、産学官が一体となって推進していく必要があるが、特にマテリアル研究開発のデジタルトランスフォーメーションが不可欠となる中で、マテリアルデータを適切に扱える人材の必要性は大幅に増大する。近年、産業界や大学院において、マテリアルとデータ科学の双方の専門知識を有する人材の育成が進んできているとはいえ、このような取組を迅速に普及・拡大していくことが求められている。今

後の方向性としても、産学官協力の下、「マテリアル×デジタル」融合人材を早急に育成すること、さらに、産学官におけるマテリアル関連分野の研究者・技術者を我が国全体として適切に育成・確保することが打ち出されている。また、データ駆動型研究開発やスマートラボラトリの普及といったデジタルトランスフォーメーションを加速することで、創造性、生産性、強靱性の高い、世界で最も魅力あるマテリアルの研究開発環境を整備するとともに、次代を担う児童・生徒・学生に対するマテリアルの研究開発の魅力を提供・発信することにより、我が国のマテリアル革新力を支える人材の持続的確保を進めることとしている（令和2年6月2日マテリアル革新力強化のための戦略策定に向けた準備会合「マテリアル革新力強化のための政府戦略に向けて」）。

産学官のマテリアル研究開発のデジタルトランスフォーメーションの加速に不可欠な「マテリアル×デジタル」融合人材とは、データ構造を設計できるような専門人材と、データ駆動型研究開発をツールとして駆使できるマテリアル研究者であり、このような人材を育成するためには、産学官の多くのマテリアル関連人材が、数理・データサイエンス・AIの専門知識を獲得することが求められる。

また、産業界の人材養成ニーズと大学・大学院教育のミスマッチを解消することが重要であり、特に、産業界の基盤技術を支える学問分野に関する大学・大学院教育の改革が必要とされている。一方で、このような大学・大学院の人材養成の取組に、産業界が積極的に関与していくことが期待されている。

1-3. マテリアル革新を支える人材に求められる能力

上記 1-2 で概観したマテリアル革新を支える人材に求められる能力とは何か。エネルギー変革の原動力となるマテリアルの革新に貢献できる人材に求められる能力について整理する。

まず、産学官のマテリアル研究開発のデジタルトランスフォーメーションの加速に不可欠な「マテリアル×デジタル」融合人材のベースとして、マテリアルの専門知識に加え、数理・データサイエンス・AIの専門知識を持つことにより、多量なデータを分析・解析し、それらをエビデンスベースで理解・説明する能力が求められる。

また、マテリアルに“革新”を起こすためには、既存の枠組みや従来の思考では対応できない課題に主体的に取り組む能力、様々な事象を組み合わせ新しい価値を創出するデザイン力などが求められる。

一方で、革新的環境イノベーション戦略では、世界のカーボンニュートラルを可能とする革新的技術を確立するための社会実装を目指しており、マテリアル革新に向けた課題は産業界と大学で共通認識していなければならない。このことから大学・大学院で身に付けた学問的専門性を、実社会で展開できる力が求められる。

さらに、グローバル化時代においては、新たな技術開発は一国で成し遂げられるものではなく、さまざまな国との連携・協力も必要となることから、グローバルな視野と発想力、それを支える高い外国語によるコミュニケーション力が求められる。

これらの能力に加え、マテリアル革新の先にエネルギー変革があることを認識するため、

エネルギー課題を俯瞰的に理解する力が求められる。

1-4. 地域との共創によるマテリアルの革新

島根県では、マテリアル関連産業が全産業の約4割と高く、県の経済を牽引する主要産業である。このマテリアル関連産業の集積が県内産業の強みである一方、中小企業の多くが下請け型で製品開発力が不十分であることが課題となっている。

しかし、カーボンニュートラルに向けた産業構造の変革を機に、島根県では、革新的な製品開発に必要な新たな金属素材については島根県東部に集積する特殊鋼クラスターを強みとして活かし、県内中小企業の下請け型脱却、研究開発型への転換を図ることとしている。そこに必要なマテリアル関連産業における研究者・技術開発者といった高度専門人材については、地域の産学官金が一体となった地域連携プラットフォーム「しまね産学官人材育成コンソーシアム」において策定した「島根県版 高等教育のグランドデザイン（令和4年3月策定）」に島根大学工学系新学部設置を言明し、地域を挙げてマテリアル革新を支える人材育成に取り組むこととしており、マテリアル分野での社会実装に向けた研究・教育の要望は高い。

1-5. マテリアル革新を支える人材育成に向けた島根大学での教育研究体制構築の必要性

現行の島根大学総合理工学部の教育研究体制は平成30年度改組により、材料工学の教育体制は、材料工学を物理系と化学系の2つに分け、それぞれの教育を物理・マテリアル工学科と物質化学科の2学科で行う体制とした。また、数理科学と情報科学の教育体制については、学部段階では数理科学あるいは情報科学の基礎をしっかりと身につけることを重視し、それぞれの教育を数理科学科と知能情報デザイン学科の2学科で行う体制とした。さらに、総合理工学部は上記の4学科のほか、地球科学科、機械・電気電子工学科及び建築デザイン学科を加えた7学科体制により、理学・工学の融合による幅広い理工系分野の教育研究体制を整備している。

しかし、上記1-2及び1-3で概観したように、「マテリアル革新を支える人材」の育成を迅速に実現していくためには、材料工学分野に特化し、この分野における専門知識に加え、そこで求められる数理・データサイエンス・AIといったデータ科学の専門知識や新しい価値を創出するデザイン力を養い、身に付けた学問的専門性を実社会で展開することのできる社会実装に資するための教育研究体制の構築が必要である。

一方、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出- Next Generation TATARA Project -」において、島根大学では、次世代たたら協創センターを中心として、金属材料分野における世界最高水準の研究拠点づくりを推進しており、次のステージとして当該分野における高度専門人材を育成する体制を整えることで、材料工学分野での産業界の基盤技術を支えるための教育研究体制を確立できる強みがある。

このように、マテリアル革新を支える人材を迅速に実現するためには、本学の強みである次世代たたら協創センターを中心として展開する金属材料分野での研究力を基盤に、現行の総合理工学部の2学科（物理・マテリアル工学科及び物質化学科）に分散する材料工

学分野の教育研究分野を1つに集結させる体制が必要である。この集結にあたっては、産業界の基盤技術を支えるという「社会実装」に重点を置き、物理系・化学系の基礎分野は既存の総合理工学部で継続実施することで、新たに設置する学部（材料エネルギー学部）とは機能分担を図る。

また、数理・データサイエンス・AIについては、「マテリアル×デジタル」融合人材に求められる、データ構造の設計やデータ駆動型研究開発をツールとして駆使できるといった点を重視し、材料工学を深化させるツールとして修得できるよう、材料エネルギー学部の教育研究体制に組み込んでいく。

さらに、社会実装に資する教育研究としては、アントレプレナーシップ教育におけるデザイン思考の学びの実現、県内企業等との連携によるプロジェクト型演習や長期インターンシップによる企業の実課題をテーマとしたプロジェクト研究など、アクティブラーニングを学部全体で展開していく必要がある。しかし、これらを産業界と緊密に機動的に展開していくためには、7学科 400名の入学定員を有する総合理工学部の規模では早急な体制変更が困難である。このことから、国の戦略や島根県の強み・特色を活かした「材料工学分野」という特定分野での革新的技術確立のための社会実装を目指した小規模・先鋭的な材料エネルギー学部を新設することは必要かつ効果的な取組である。

1-6. 島根大学の中長期ビジョン

本学としては、平成28年度に策定した「島根大学未来戦略（SMART20）」の検証結果を踏まえながら、また、第4期中期目標大綱の趣旨や島根大学憲章、島根大学のSDGs行動指針に則り、独自の将来構想の観点から中期的ビジョンとしての「島根大学ビジョン2021」を令和3年3月に策定した。この中で、ビジョンを「教育」「研究」「地域・社会連携」「経営戦略」の4項目に整理し、それを実現するための17の目標、62の戦略を定めている。

「島根大学ビジョン2021」の研究ビジョンにおいて、「本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する」ことを目標に掲げ、強みのある特定領域の研究をさらに伸ばしていくこととしている。

また、地域・社会連携ビジョンにおいては、「地域産業の強み、特色をさらに伸張させる研究や地域社会の複合的な課題の解決に資する研究を推進し、地域の活性化・発展に貢献する」ことを目標に掲げ、「地域や地域産業の活性化に資する研究について、学術的価値がさらに高まる研究を推進し、それを産業界に還元する」旨の戦略を定め、研究成果の社会における応用や実用化に向けた取組を強化することとしている。

さらに、経営戦略ビジョンにおいて、「ガバナンスを強化し機動的な経営を推進すると共に、規制緩和により拡大される経営裁量を最大限に活かし、多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的経営を実現する」ことを目標に掲げ、「社会や地域ニーズに則した組織整備や規制緩和される学生定員等の柔軟化に対応するなど大学の機能を強化する」戦略のもと、地方大学・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出- Next Generation TATARA Project - (H30～R4)（以下「たたらプロジェクト」と

いう。)」における次のステージとして、材料工学分野における高度専門人材を育成するための体制を整備することとしている。

令和4年度から開始する第4期中期計画においても「島根県の主要産業である金属、特殊鋼関連産業を振興し、地域に新たな雇用を創出するため、マテリアル・金属素材に関する産学共同研究を推進するとともに、材料工学を対象とする専門人材育成プログラムを中心に地域における金属、特殊鋼関連産業を継続的に発展させる人材を養成する」こととしている。さらに、材料工学分野における高度専門人材を育成するための体制整備については、島根県における地域連携プラットフォームである「しまね産学官人材育成コンソーシアム」において策定した「島根県版高等教育のグランドデザイン」の下、地域の産業や雇用創出の中核を担う工学系学部を設置する旨を明言している。

このように、中長期ビジョンにおいては、世界トップレベルの研究拠点の形成だけではなく、金属材料分野を中心とする材料工学分野での高度専門人材の育成につなげ、地域の産学共創の場としての島根版フラウンホーファーを確立していくことを目指しており、先鋭的な学部形成により大学改革・地方創生を実現するロールモデルとなるべく教育・研究・産学連携機能の更なる強化に向けて取り組む必要があるため、「令和5年度魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」の選定結果を踏まえ、材料エネルギー学部を設置するものである。

(2) 育成する人材像

「島根大学ビジョン 2021」において「専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成」することを掲げている。材料エネルギー学部の設置により、島根県内唯一となる工学系学部を発足させ、地域の産業や企業と実課題を共有し、大学の専門的な研究による成果を地元企業に還元していくことを大きな使命とし、本学部では以下の人材を養成する。

- ・世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材
- ・材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材

(3) 学生に修得させる力

(ア) 人材育成目標・ディプロマポリシー（学位授与の方針）

上記の育成する人材像に基づき、本学部における、人材育成目標・ディプロマポリシー（学位授与の方針）を次のとおりとした。

人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、卒業生が身につけるべき資質・能力）

材料エネルギー学部では、材料工学に関する専門性を身に付け、地域のみならず我が国の発展に貢献できるよう、材料が持つ複雑性や多面性・アプローチの多様性を理解して得られる課題抽出能力・表現力・社会実装力の育成を目指す学士・修士一貫型教育における学士教育を通じて、材料工学の専門性を活かした新しい価値を創出できる創造性豊かな高度専門人材を養成することを目的としている。

学修目標（目標としての学修成果）

1. 持続可能な社会の形成に関する現実課題を理解し、材料工学分野の知識・技能を身につけ新材料の研究開発を先導することができる。
2. 情報収集・データ活用技術を習得し、専門領域に応用することができる。
3. 国際的な動向を認知し、広い視野、教養と協調性により、多様な人とコミュニケーションを取ることができる。
4. 目標となる未来社会をデザインし、創造的に解決策を見出すことができる。
5. 社会動向を見極め、修得した知識・技術を地域社会で実践できる。

(イ) カリキュラムの特徴

ディプロマポリシー（DP）に示した5つの学修目標を達成するため、次のように全学共通教育と専門教育からなる教育課程を編成する。

全学共通教育は、基礎科目として「外国語」、「健康・スポーツ、文化・芸術」、「情報科学」「数理・データサイエンス」の科目群、教養育成科目として「人文・社会分野」、「自然分野」、「学際分野」の科目群を編成している。学生の知的好奇心・探究心を活性化させ、幅広い知識や情報収集力、コミュニケーション能力など社会に貢献し、活躍するためのリテラシーを身につける。

専門教育科目では、以下のように科目を配置する。

- (1) エネルギー問題に関する基本的な知識の習得と同問題への関心を高め、材料を学ぶ上で必要な基礎科学の知識を修得する科目を配置し、実用材料の現状と課題を知り、材料が社会において果たす役割を理解する。年次進行に合わせ、新材料の研究開発に必要となる先端金属材料、バイオマテリアル、ナノ・機能性材料の専門知識を身に付ける科目を配置する。
- (2) 材料工学を深化させるツールを修得するため、マテリアルズ・インフォマティクスに資するデータサイエンスの活用方法及びデータ処理技術を修得し、機械学習による計算科学におけるデータ活用について理解するための科目を配置する。
- (3) グローバルな感性を養い専門性を高めるための海外大学と連携の上、材料工学に関する専門英語の読解力や記述力、コミュニケーション能力を養う科目を配置する。
- (4) 身につけた知識やスキルをもとに、行動して活かすことができるようになるため、課題の本質がどこにあるかを解析し、その課題を解決するために必要となる知識を見出す力を培う科目を配置する。また、地域の特徴でもある材料分野における産業振興に向け、研究成果を社会実装し、社会課題の解決を目指すデザイン力を身につける科目を配置する。
- (5) 企業ニーズを踏まえた主体的な学びを促すため、新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り、企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習、インターンシップを配置する。

(4) 研究対象とする中心的な学問分野

本学部では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、を踏まえ、「マテリアル×デジタル」融合人材を養成し、政府全体のマテリアル革新力強化に資するとともに、島根創生に貢献する研究の推進を図ることとしており、中心となる学問分野は、マテリアル関連分野としては、材料工学、金属工学、材料システム工学、有機化学、無機化学、バイオマテリアル、マテリアル・インテグレーション等であり、デジタル関連分野としては、マテリアルズ・インフォマティクス、情報理論やネットワーク工学等である。

(5) 既設学部との関係

上記 1-5 でも触れているが、既設学部である総合理工学部は、理工融合を学部のポリシーとして、理学と工学両分野について、幅広く教育・研究を展開している。他方、本学部は材料工学に特化し、産業界との連携による教育・研究の社会実装を展開する工学系学部である。総合理工学部からは、専門基礎教育を主に授業の提供を受けながら、専門教育については、互いの強みを相互に提供しながら両学部の教育の充実を図る。また、材料エネルギー学部による社会実装に資する研究・教育のノウハウを総合理工学部にも波及することで、相乗的に共同研究等の増加、外部資金獲得増加へつなげていく。

2.学部・学科等の特色

平成30年11月にとりまとめられた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を踏まえ、今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。基礎及び応用科学はもとより、特にその成果を開発に結び付ける学問分野においては、数理・データサイエンス等を基盤的リテラシーと捉え、文理を越えて共通に身に付けていくことが重要である。

予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野についての専門性を有するだけではなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材、すなわち「21世紀型市民」が多く誕生し、変化を受容し、ジレンマを克服しつつ、更に新しい価値を創造しながら、様々な分野で多様性を持って活躍していることが必要である。文理横断的にこうした知識、スキル、能力を身に付けることこそが、社会における課題の発見とそれを解決するための学問の成果の社会実装を推進する基盤となる。

特に、人工知能（AI）などの技術革新が進んでいく中においては、新しい技術を使っていく側として、読解力や数学的思考力を含む基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、技術革新と価値創造の源となる飛躍知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力が求められる。一言で言えば、AIには果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材が必要となる。

そのため、本学部では、当該グランドデザインを踏まえ、学生である学修者の「主体的な学び」の質を高めるための仕組みとして、グローバル教育及び企業等と連携した社会実践教育の充実により、学生の主体的な学びを推進する。

3.学部・学科等の名称及び学位の名称

(1)学部名、学科名及び学位の名称

学部・学科の名称:材料エネルギー学部材料エネルギー学科

(Faculty of Materials for Energy Department of Materials for Energy)

2015年に国連が採択した持続可能な開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) の達成、2050年カーボンニュートラルの実現を見据えると、温室効果ガス排出の8割以上を占めるエネルギー分野の課題へ対応していくことは極めて重要である。

エネルギー課題は、製品を構成する材料・素材の高効率化、高付加価値化に帰着し、省資源化と脱炭素を両立する材料イノベーションを創出する力が必至となっている。材料は、最終製品の構成物である一方で、最終製品の各種機能の源泉であり、持続可能性の重要性が叫ばれる中、経済と環境の好循環を同時に創出し、成長が期待される環境・エネルギー分野に向けた材料の高性能化と迅速な社会への実装が求められる。

本学部では世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材や材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材を養成するため、材料の専門知識を軸にして、エネルギー政策を俯瞰的に理解できる教育（材料系エンジニアのためのエネルギー概論等）やアントレプレナーシップ教育（新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーシップへの道）によるマテリアル起点の社会実装教育を展開する。

このような背景と養成する人材像に基づき、学部名を「材料エネルギー学部」、学科名称を「材料エネルギー学科」とし、英文名称については、連携しているオックスフォード大学においても「Faculty of Materials」を有していることから、国際通用性も踏まえ、「Faculty of Materials for Energy Department of Materials for Energy」とする。

学位の名称:学士(工学)

(Bachelor of Engineering)

本学部では、材料を通じた社会変革を実現するため、物質・材料に関する工学教育を基盤に、工学の在り方に密接に関わる「ものづくり」の基礎となる実験・解析手法、データ駆動型のマテリアル改革や材料分野の研究開発におけるDXの推進に必要なICT活用技術を習得し、マテリアルとデータ科学を連携させ、活用できる教育編成としていることから、学位に付記する専攻分野の名称を工学とし、授与する学位の名称を工学とする。

なお、学位の英文名称については、国際通用性も踏まえ、「Bachelor of Engineering」とする。

4.教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の考え方(カリキュラムポリシー)

ディプロマポリシー (DP) に示した5つの学修目標を達成するため、次のように全学共通教育と専門教育からなる教育課程を編成する。

全学共通教育は、基礎科目として「外国語」、「健康・スポーツ、文化・芸術」、「情報科学」「数理・データサイエンス」の科目群、教養育成科目として「人文・社会分野」、「自然分野」、「学際分野」の科目群を編成している。学生の知的好奇心・探究心を活性化させ、幅広い知識や情報収集力、コミュニケーション能力など社会に貢献し、活躍するためのリテラシーを身につける。

専門教育科目では、以下のように科目を配置する。

- (1) エネルギー問題に関する基本的な知識の習得と同問題への関心を高め、材料を学ぶ上で必要な基礎科学の知識を修得する科目を配置し、実用材料の現状と課題を知り、材料が社会において果たす役割を理解する。年次進行に合わせ、新材料の研究開発に必要となる先端金属材料、バイオマテリアル、ナノ・機能性材料の専門知識を身に付ける科目を配置する。
- (2) 材料工学を深化させるツールを修得するため、マテリアルズ・インフォマティクスに資するデータサイエンスの活用方法及びデータ処理技術を修得し、機械学習による計算科学におけるデータ活用について理解するための科目を配置する。
- (3) グローバルな感性を養い専門性を高めるための海外大学と連携の上、材料工学に関する専門英語の読解力や記述力、コミュニケーション能力を養う科目を配置する。
- (4) 課題の本質がどこにあるかを解析し、その課題を解決するために必要となる知識を見出し、学ぶ動機付けを与える科目を配置する。また、地域の特徴でもある材料分野における産業振興に向け、研究成果を社会実装し、社会課題の解決を目指すデザイン力を身につける科目を配置する。
- (5) 企業ニーズを踏まえた主体的な学びを促すため、新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り、企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習、インターンシップを配置する。

(2)教育課程の特色

材料エネルギー学部では、たたらプロジェクトで培った金属材料分野における世界最高水準の研究力に裏打ちされた教育をベースに、島根県や県内におけるマテリアル関連企業が求めている材料工学分野での産業界の研究開発力と基盤技術を支えるための高度専門人材を育成する。

本学部の教育課程では、まず全学共通科目として主に1～2年次を中心に開講される「基礎科目」「教養育成科目」において、専門分野の域を超えて、本学の学生に共通に求められる基礎的な力や幅広い知識を育成する。

また、専門教育のカリキュラムの特色は、以下の5点である。詳細は別添の教育課程等の概要のとおりである。

① 持続可能な社会の形成に向けた材料科学の専門知識

先端金属材料、バイオマテリアル、ナノ・機能性材料など、社会や生活の基盤となるさまざまな「材料」の専門知識を修得するため、「材料評価学」、「資源循環化学」などすべての材料に共通する内容となる科目をはじめ、「実用金属材料学」、「機能材料学」、「セラミック化学」などの科目を配置する。また、喫緊の課題であるエネルギー問題に対する関心を高めるとともに、国際的な取組や我が国のエネルギー計画を理解し、材料分野に期待される知識を修得するため、「材料エンジニアのためのエネルギー概論」、「カーボンニュートラル社会のための材料学」などの科目を配置し、エネルギー課題を俯瞰的に理解し、材料工学分野の知識・技能を身に付け新材料の研究開発を先導することができる力を身に付ける。

② マテリアルズ・インフォマティクスに資するデータサイエンス教育

材料科学を深化させるツールを修得するため、プログラミング演習、機械学習のための基礎的なデータ処理技術を修得できる「マテリアルズ・インフォマティクス基礎」、「データ構造とアルゴリズム」や「相平衡の熱力学と状態図入門」などの科目を配置し、IoT・データ活用技術を習得し、材料工学分野を始め広く応用することができる力を身に付ける。

③ グローバルな感性を養い専門性を高める海外大学との連携教育

多様な価値観を持ち、徹底した英語教育を実施するため、オックスフォード大学やヘルシンキ大学と連携の上、対面やオンラインによる授業の実施、英国・フィンランドなど欧州での長期海外留学などの学生交流を行う。専門科目に「海外研修」、「Materials Science」、や「Introduction for polymer colloids and interfaces」などの科目を配置するなど、国際的な動向を認知し、広い視野、教養と協調性により、多様な人とコミュニケーション

を取ることができる力を身に付ける。

④ 産業振興に直結する社会実装教育

デザイン思考の学び、社会を創造する力を育成するため、アントレプレナーシップや事業化に向けた経営・設計・マネジメント関連を学ぶ「新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道」、「MOT・技術者倫理概論」、「地域創生論」などの科目を配置し、未知の課題に粘り強く取り組み、デザイン力をもって、創造的に解決策を見出すことができる力を身に付ける。

⑤ 社会実装を見据えたプロジェクト型演習

企業ニーズを踏まえた主体的な学びを促すため、企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習等を行う「新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り」、「企業実践プロジェクト演習」、「実践インターンシップ」などの科目を配置し、地域課題を理解し、身に付けた知識・技能を地域貢献に活かすことができる力を身に付ける。

5.教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法の特色

本学部では、学部の育成する人材像のもと、社会の多様な分野において課題の本質の理解や探求心を持たせるために、STEAM教育を含む全学共通教育科目やアントレプレナーシップなど産業振興に直結する社会実装教育を専門教育科目として位置付け、イノベーションにつながる素養に加えて材料工学の基礎を身に付けた学生を養成する。また、現代社会における基盤となるIoT・データ活用技術を身に付けさせるため、データサイエンスやプログラミングを必修としている。さらに、材料科学の専門知識はもちろんのこと、多様な人とコミュニケーションを取り、エネルギー問題を理解し、主体性を持ち、創造的に解決策を見出すとともに、地域課題を理解し、地域貢献に活かすことができるよう専門教育科目を行う。

専門教育科目では、講義科目の他、実践的演習、実験を体系的に組み合わせて実施する。講義系の授業群では、基礎的な概念から、実際の材料の研究開発や生産、利用や循環について理解させる他、材料と社会のつながりやエネルギー問題とのつながりも理解させる。

演習では、学んだ知識をもとに考えさせ、現場での体験や課題に対して自ら調査し、討議などを行うことにより、材料に対する関心や多面的な理解を深める。

実験では、実験装置・器具の利用法を理解した上で、実際に体験し、材料の研究開発に必要な応用的な技術習得させます。また、フィールドワークや企業との共同プロジェクトに取り組み、実践力を養う。これらの科目にはチームで行う内容を含み、集团的・組織的に問題解決にあたるようにする。

卒業研究では、社会実装を見据え、研究成果を得るための実験や調査を計画し、あるいは企業等とのプロジェクト演習や海外研修などに取り組み、実験やデータ収集・解析に取り組み、検討結果や検証に基づいて、一つの論文や成果報告書としてまとめ、第3者が理解できるように正確にプレゼンテーションできる能力を身につけさせる。

(2) 履修モデル

本学部の教育方法の特色を踏まえ、本学部では、入学者の興味・関心や基本的素養、将来の進路等を考慮し、教育の特色もわかるよう履修モデルを作成している。これにより、専門教育科目における専門選択科目の履修についても、ガイダンスと個別指導により効率的・効果的な学修を促す。

(3) 修学支援

新入生に対して、教員によるガイダンスの他、各学生にはチューター（指導教員）1名をつけ、履修指導、生活指導等を行うこととする。また、1年通年の「新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーシップへの道」は本学部専任教員すべてが担当する必修科目であり、また、教員と学生が相互作用できる授業・演習であるため、教員が学生の動向を把握しやすいとともに、学生がこれらの授業の担当教員と話がしやすくなることが期待できる。これらの授業を担当する教員が1年次生の指導教員となり、新入生が大学生活に円滑に入っていけるようにする。

○ 具体的な履修指導は、以下の点を踏まえて行う。

- ① 履修登録、成績、単位の取得等に関する全般的な履修指導は、新学年の授業開始前に実施するガイダンスにて詳しく行う。その際、本学部の履修の手引等を配布し、それらを参照しながら履修登録や学習に対する学生の理解を確認する。
- ② シラバスには、授業科目名、授業の目的、達成目標（達成度）、授業の内容、授業の進め方、テキスト及び成績評価の方法等が明確に記載されていることを周知し、選択科目についてはそれらを熟読して自らの学習目標の実現を助ける科目を適切に選択するように指導する。
- ③ 履修登録や教務に関連した情報の提供は、学内掲示板の他、全学的に運用されている学務情報システム「Campus Square」により行う。
- ④ 各学生にはチューター（指導教員）1名をつけ、履修指導、生活指導等を行う。
- ⑤ 上記学務情報システム内で、「ディプロマポリシーの達成支援」という観点から、学生一人一人の学びの軌跡を記録する「カルテ」としての活用を目的とし、履修単位の成績を基に算出したディプロマポリシーの達成率を示すレーダーチャートにより、学修成果を可視化する。学生はレーダーチャートに示されたディプロマポリシー達成状況の自己評価、学修の振り返りおよび次学期の学習目標を文書として記録する。この情報を踏まえ、指導教員はコメントを入力し、履修指導にあたる。

以上のように、本学部の教育方法については、本学の教育方針にもとづき本学部が主体的に設定し実施する。

(4) 履修登録上限制

学生に対する教育の質を保証するため、各学期において履修登録できる単位数の上限を25単位とする。

(5)卒業要件

124 単位を修得し、かつ、各科目区分の卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。
各科目区分の卒業要件は次の通りである。

全学共通教育		26 単位	
(内訳)	外国語（英語）	6 単位	
	外国語（初修外国語）	2 単位	
	健康・スポーツ/文化・芸術	2 単位	
	情報科学	2 単位	
	数理・データサイエンス	2 単位	
	教養育成科目	12 単位	人文社会科学分野から 4 単位、自然科学分野から 4 単位必修 「基礎物理・化学」、「数学基礎Ⅰ」、「数学基礎Ⅱ」は必修
専門教育科目		94 単位	
(内訳)	基盤科目	13 単位	
	専門必修科目	63 単位	
	専門選択科目	18 単位	
全学共通教育科目、専門教育科目を通じた選択		4 単位	
合 計		124 単位	

6.編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学部では、アドミッション・ポリシーに従って編入学生を受け入れ、学部 3 年次への編入を行う。定員は 5 名とし、修業年限は原則として 2 年とする。編入学の対象は、高等専門学校や短期大学出身者に限らず、大学既卒者や 4 年制大学在学学生、専修学校の専門課程修了生等まで門戸を広げて、多様な進路選択の機会を提供する。

ア. 既修得単位の認定方法

編入学試験に合格した編入学者が決定した場合は、入学者が在籍していた高等専門学校等の教育課程表およびシラバスを審査し、既修得科目の中から本学で開設される授業科目と同等の内容として認めた科目について、卒業に必要な単位として認定する。

イ. 履修指導方法

編入学生には、2 年間で学士課程の確実な修得を図るために、チューター教員、教務担当教員、学部長が協力してきめ細やかな履修指導を行う。入学時のガイダンスを実施し、既修得単位の認定状況に応じた履修計画を立てられるように個別対応する。編入学生は専門科目を中心に履修し、認定された既修得単位を含めて卒業要件単位数以上の単位を修得することにより卒業が認定される。編入学以前の履修状況に応じて、本学部の基盤となる基盤科目についても履修可能な体制を整備する。

ウ. 教育上の配慮等

チューター教員が毎学期の履修登録時に面談を行うことで、必要単位の履修を徹底する。また、編入学生に対しては、毎年履修できる単位数の上限を通常の 50 単位から 60 単位まで引き上げ、必要単位に関してより柔軟な履修計画が可能となるよう対応する。

7. インターンシップの具体的計画

本学部では、専門分野において設定した課題に関連した企業、あるいは共同研究実施企業が、教員と連携しながら、主導的に実施する、実習やインターンシップ等に学生が参加する「実践インターンシップ」を3年次以降に選択科目として実施する。

これにより、実際に企業が困っている課題の解決に向けたより実践的な経験を積みながら、必要な知識や方法論を体験的に修得することを目指している。

具体的なインターンシップ先については、各担当教員の共同研究を実施している企業や学生の就職先として想定される県内企業を中心に、各学生のニーズも踏まえインターンシップを行う。

関連企業等でのインターンシップを実施するにあたり、インターンシップの教育効果を最大化し、取組を進めることができるよう、本学部では、1年通年の必修科目において「新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道」を開講し、身につけた学問やスキルをもとに、行動して活かすことができるようになるため、地球全体で解決すべき問題に目を向け、課題の本質がどこにあるかを解析し、その課題を解決するために今後何を学ぶ必要があるかを見出す教育を行う。更に、デザイン思考の学び、社会を創造する力を育成するため、アントレプレナーシップや事業化に向けた経営・設計・マネジメント関連を学ぶ「MOT・技術者倫理概論」、「地域創生論」などの科目を配置し、未知の課題に粘り強く取り組み、デザイン力をもって、創造的に解決策を見出すことができる力を身に付けておくことを目標とする。

「実践インターンシップ」においては、事前指導において実習の目的、実習の内容と受け入れ先についての知識、実習における留意点（準備すべきこと、倫理、不慮の事態への対処法など）を指導し、事後指導において実習を振り返りその意味付けを行うことを徹底するとともに、実習中には必ず専任教員が巡回指導に当たって、実習内容の水準の維持・向上に努める。

さらに、実践インターンシップを担当する専任教員による「インターンシップ担当者会議」を学務委員会に設け、各学生の実習先や受け入れ期間の調整等にあたる。

評価方法としては、共通の評価基準に基づく受け入れ先の実習担当者の所見を参考にしながら、「インターンシップ担当者会議」で成績評価を行う。

受け入れ施設・機関との関係については、「インターンシップ協議会」を開催して実習受け入れ施設・機関との間の連携を密にし、インターンシッププログラムの共有等、実習内容の均質化を推進する。

具体的な取組計画は、以下のとおりである。

(ア) 水準の確保の方策

各施設が持つ特徴を活かしながら実習目的を達成するために、以下の方策を講じる。

(ア-1) 実習目的、手段、評価基準の共有

各施設へインターンシップ目的を周知するとともに、各施設の担当者とも協議しながら、目的を達成するための手段、評価基準等を整備し、各施設と共有する。また、全てのインターンシップにおいて、事前に各実習先から実習受け入れ可能な人数を確認しておく。インターンシップ希望者が、受入先の受け入れ可能な人数よりも多く出た場合は、担当教員が履修者との面談等を実施し、本人の目的意識をよく確認した上で、妥当な実習先に変更を求めるなどの弾力的で細やかな対応を行うこととする。

(ア-2) 施設共通実習指導の実施

実習前に専任教員を含む担当教員による事前指導（オリエンテーション）を行い、インターンシップにおける留意点等を確認する。また、事後指導やインターンシップの発表等を通して、学生が異なる施設での実習体験を互いに共有できるようにし、自らの実習体験を相対化し、学びの深化を図りながら目的達成を促進する。

(ア-3) インターンシップ先との連携体制の確立

インターンシップを担当する教員は、施設の担当者と連絡を取り合い、インターンシップに関する事前打ち合わせを行う。また、インターンシップ期間中は教員が施設を訪問し、学生の実習の状況を観察・指導するとともに、学生の状況について施設の担当者と情報交換を行う。なお、施設で開催される反省会等には教員も参加し、実習の成果と課題について協議する。さらに、実習の目的等について説明すると同時に、受け入れ施設からの報告・要望等を聴取し、インターンシップの方法・内容について定期的な見直し作業を行い、水準の確保に努める。

(イ) インターンシップ前の準備状況

学生にはインターンシップ中の事故に対応できる災害傷害保険と賠償責任保険に加入することを義務づける。

(ウ) 事前・インターンシップ中・事後における指導計画

事前指導として、インターンシップの目的や内容についてのオリエンテーションを行う。あわせて、インターンシップに対する留意点や、インターンシップ中の事故等への対応方法について指導する。インターンシップ中は、適時、教員が施設を訪問し、学生

との面談・相談を受けると共にインターンシップの取組状況を確認する。また、事後指導を行い、さらにインターンシップの発表会を実施することで、学科全体に実習成果を発表する機会を設ける。

(エ) 教員の配置ならびに巡回指導計画

各施設それぞれにインターンシップ担当教員を配置し、実習中は学生の健康状態、実習計画の進捗状況の確認、学生への指導などのための巡回指導を行う。

(オ) 実習施設における指導者の配置計画

各施設におけるインターンシップ担当者の配置については、それぞれの施設に一任する。

(カ) 成績評価体制及び単位認定方法

異なる実習施設間においても評価の公平性を担保できるよう、評価の基準となる手引きを作成し、インターンシップごとにその目的に従って評価項目を定めて、インターンシップ担当専任教員へ周知する。受け入れ機関との「インターンシップ協議会」においても、インターンシップの評価について説明することで評価水準の確保に努める。

成績評価は、まず、受け入れ先のインターンシップ担当者の評価を参考として、インターンシップ担当専任教員が、巡回指導時に観察されたインターンシップへの参加態度・所見、報告内容や事前・事後レポートの内容などを総合的に判断する。そして、インターンシップ担当専任教員で構成する「インターンシップ担当者会議」で成績評価を行う。

8. 海外研修の具体的計画

本学部においてグローバルな感性を養い専門性を高めるため海外大学との連携教育を行う。その中で3年次以降「海外研修」を選択科目として配置する。具体的には、指導教員に助言をもらいながら、本学の海外協定校を中心に、自身のスキルアップや研究に関連した機関へ留学して体験を積む。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか、授業やワークショップ、現地の学生とのディスカッション、教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める。

(1) 海外研修の指導体制

本研修では学生が主体的となって課題を見出し、解決できるように海外研修の内容をデザインする。これを実現するために、本学部の全教員が事前・事後指導を担当する。また当該学生の指導教員が訪問先機関の担当者との調整を行う。

(ア) 事前指導

海外研修の参加を希望する学生はまず、当該学生が指導教員の指導のもと、訪問国の文化、医療、福祉などの社会体制、日本におけるそれらとの相違点等について学習を行う。この学習から海外研修の課題を設定し研修計画書を作成する。これをもとに指導教員が訪問先担当者と研修内容の調整を行い、学生が求める課題の解決につながるよう努める。また訪問国の公用語について事前指導を行う。

(イ) 研修先での指導

指導教員が訪問先担当者と綿密に連絡を行い研修先施設での研修実施内容の確認や研修内容変更などのサポートを行う。

(ウ) 事後指導

事後指導として研修報告書の作成指導を行う。また、研修報告会を実施し実習内容のプレゼンテーションを行わせ、海外研修に参加していない学生とのディスカッション間で取得した知識や経験の共有を行う。

(2) 海外研修の成績評価並びに単位認定方法

本研修の評価は下記の 3 項目について、指導教員が行う。1) 研修計画書で設定した目標の達成度についての自己評価 (30%)、2) 研修先での研修状況や研修内容に関する指導教員による評価 (30%)、3) 研修報告書と報告会の発表内容 (40%)。なお括弧は各項目が総合評価に占める割合を表す。総合評価において一定以上の評価を得た場合に、「海外研修」2 単位を認定する。

(3) 海外研修のサポート体制

海外研修にあたっては事前指導として渡航先の安全情報の確認、危機事案別の対処方法、渡航に関する諸手続等のサポートを行う。海外研修は海外長期留学経験を持つ本学部教員が引率し、海外滞在時の危機管理や異文化での生活についてサポートを行う。危機発生時は引率教員が現地での情報収集、現地大使館や領事館との連絡、ならびに本学との連絡を行う。本学の対応部署は参加学生の家族との連絡を行う。初動時の対応は材料エネルギー学部長が行うが、ケースに応じて全学的な危機対策本部を設置するなどの学内体制をとる。海外研修に際して、本学では渡航費補助などの経済的支援制度が利用可能である。

9.入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

(ア) 育成する人物像

- ・世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材
- ・材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材

(イ) 求める人物像

1. 新しい技術に関心があり、材料科学分野の知識・技術を実社会に役立てる意欲のある人
2. 実験やデータ解析を検証することで課題解決の糸口を考えようとする人
3. グローバルな視野をもって多様な人と協働して学ぶ意欲のある人
4. 社会の動向にアンテナを張り、新しいことに自分からチャレンジする人
5. 地域の関連産業の発展やエネルギー問題の解決に貢献したい人

(ウ) 入学者選抜の基本方針

本学部では、アドミッション・ポリシーに基づいて、受験者の多様な能力を多面的に評価するために、一般入試(前期日程・後期日程)のほか、総合型選抜Ⅰ(へるん一般型、へるん特定型(地域志向入試、専門高校入試、グローバル英語入試))、学校推薦型選抜Ⅱを実施する。

(2) 選抜方法

本学部の募集人員は80名で、次の入試を実施する。

(ア) 一般選抜(前期日程)

【基礎的知識と論理性を重視】

大学入学共通テスト及び個別学力試験(筆記)によって、理科や数学をはじめとする高等学校で修得すべき基礎学力や論理性を十分に備えているかを評価する。

(イ) 一般選抜(後期日程)

【基礎的知識と論理性に加え、学習に対する意欲も重視】

大学入学共通テストによって、物理、化学、数学の高等学校で修得すべき基礎的知識を十分に備えているかを評価する。また、面接によって、材料科学を学びたいという意欲、

さらに論理的思考力についても評価する。

(ウ) 総合型選抜Ⅰ へるん一般型

「調査書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を総合的に評価する。

(エ) 総合型選抜Ⅰ へるん特定型地域志向入試

「調査書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価する。特に、「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い、地域課題への貢献についての興味・関心进行评估する。

(オ) 総合型選抜Ⅰ へるん特定型専門高校入試

「調査書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価する。さらに、「口頭試問」により理科に関する基礎知識と論理性及び専門高校における活動実績を評価する。

(カ) 総合型選抜Ⅰ へるん特定型グローバル英語入試

「調査書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の3要素を総合的に評価する。なお、別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし、「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い、英語の活用能力を評価する。

(キ) 学校推薦型選抜Ⅱ

大学入学共通テストによって理科及び数学の高等学校段階で習得すべき基礎知識を十分に備えているかを評価する。また、面接によって、将来、女性研究者や技術者等として理工系分野の発展に貢献したいという意欲及び適性について評価する。

【日程・募集人員（名）】

学部	学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜Ⅰ「へるん入試」				学校推薦型選抜Ⅱ	私費外国人選抜
			前期日程	後期日程	一般型	地域志向 (島根県・鳥取県 県枠)	専門 高校	グロ ーバ ル 英語		
材料エネ ルギー	材料エネ ルギー	80	48		32					若干名

【一般選抜（配点）】

	大学入学共通テスト	個別学力試験等	合計
前期日程	750	200	950
(※)	550	400	950
後期日程	400	100	500

※ いずれか高得点のパターンを採用する。

【総合型選抜Ⅰ「へるん一般型」】

() 内は配点を示す。

第1次選考	第2次選考
(概ね3倍を超えた場合に実施する) ・調査書、クローズアップシート	・調査書及びクローズアップシート (80) ・読解・表現力試験 (100) ・面接 (100)

【総合型選抜Ⅰ「へるん特定型 地域志向入試（島根県・鳥取県枠）」】

() 内は配点を示す。

選考
・調査書及びクローズアップシート (80) ・読解・表現力試験 (100) ・面接 (100) ・地域志向面接 (50)

【総合型選抜Ⅰ「へるん特定型 専門高校入試」】

()内は配点を示す。

選考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書及びクローズアップシート (80) ・ 読解・表現力試験 (100) ・ 面接 (100) ・ 口頭試問 (20)

【総合型選抜Ⅰ「へるん特定型 グローバル英語入試」】

()内は配点を示す。

選考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査書及びクローズアップシート (80) ・ 読解・表現力試験 (100) ・ 面接 (100) ・ 英語面接 (20) ・ 英語資格・検定試験 (30)

【学校推薦型選抜Ⅱ】

()内は配点を示す。

	大学入学共通テスト	個別学力試験等	合計
学校推薦型選抜 Ⅱ	400	100	500

【私費外国人留学生選抜】

選考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出願書類及び日本留学試験

10.教員組織の編成の考え方及び特色

本学部の専任教員については23名としている。

具体的には、学内の総合理工学部の担当教員から4名、次世代たたら協創センター(NEXTA)から1名の計5名を配置転換するほか、学外から計18名を招聘する。

学外からの招聘に当たっては、学長のリーダーシップの下で整備した人件費の一元管理・再配分の仕組みを活用して、学外から機動的に配置を行う。

具体的には、東北大学からマテリアル関係の専門家、大阪大学からコンピューティング関連の専門家等を招聘するとともに、クロスアポイントメント制度の活用や著名な研究者による授業の提供など行う。専門分野の専任教員は博士号をもち、十分な研究業績と専門性を有する。これにより学部内で高度な研究体制を維持することが可能である。なお、兼任教員についても、いずれもその分野において十分な経験や学識を有する人材を採用する。

また、専任教員の研究分野については、マテリアル関連分野(エネルギー分野含む)が18名、コンピューティング関連が5名としており、教育上主要となる科目である専門教育科目における必修科目を中心に専任の教授、准教授を配置し教育を行うこととしている。

本学部の専任教員23名のうち、教授が12名、准教授が6名、講師が1名、助教が4名である。専任教員の年齢構成については、完成年度(令和9年3月31日)時点で、30~39歳が3名、40~49歳が7名、50~59歳が9名、60歳以上が4名となっており、教育研究水準の維持向上、教育組織の持続性に問題はない構成となっている。なお、学年進行中に定年に達する3名の教員については、特任教員として引き続き完成年度まで教育研究を担当することを決定しており、同等の教育研究を継続することができる。

11.施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

島根大学は、松江キャンパス及び出雲キャンパスを中心に土地 6,478,791 m²、校舎等の建物延べ 261,438 m²を有している。

本学部を設置する松江キャンパスは法文学部、教育学部、人間科学部、総合理工学部及び生物資源科学部の 5 学部、人間社会科学研究科、人文社会科学研究科、教育学研究科、自然科学研究科の 4 研究科が設置され、全学の教養教育が行われる等、本学における中心的なキャンパスである。

建物は、講義室、研究室、実験室、自習室、演習室等を中心に教育研究活動に必要な施設を整備している。建物の耐震化では耐震改修促進法の対象建物はすべて耐震改修が終了しており、バリアフリー化も計画的、段階的に実施している。さらに、安全・防犯面については、大学構内入口には監視カメラを設けているほか、主要建物入口には、入退館システムを導入し、セキュリティの強化を図っている。

また、附属図書館、保健管理センター、福利厚生施設といった大学には必要不可欠な施設が設置されている。

運動場は、野球場、運動場、テニスコート等の屋外体育施設と、第一体育館、第二体育館、武道場、プール棟等の屋内体育施設を備えている。

学生が休息するスペースは、学生会館、食堂、カフェ、売店等が備えられており、懇談スペースも屋内外に備えられている。

本学部が設置される松江キャンパスには、既存学部と共用できるだけの十分な施設が整備されている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学部の設置に伴い、学生定員が 40 名（収容定員では編入学定員を含め 175 名）増加するため、既存施設の大規模改修・改築・増築を行うこととしている。

具体的な特徴としては、社会実装を見据えたプロジェクト演習等を行うために、フレキシブルに使用形態が変更できるアクティブラーニングスペースを確保するとともに、地元産業界のニーズに対応したプロジェクトや共同研究等に活用できるよう産学共創スペースを設置する。

また、基礎的な実験技術習得や高度な研究に対応できるよう、大型機器実験室を含む多数の実験室を設け、それぞれの研究テーマに応じた、専門的な実験機器を設置することで、高度な実験が可能な環境を整える。

実験室以外にも、講義室に加え ICT 演習室、教員室、研究室等も整備し、研究教育活動としても十分な環境を担保している。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学附属図書館は、松江キャンパスに本館を、また、出雲キャンパスに医学図書館を設置し、図書・雑誌、電子ジャーナル及びデータベースなどの学術情報を整備している。

蔵書冊数は 980,494 冊、雑誌所蔵種類数は 14,360 種、電子ジャーナルタイトル数は 7,205 タイトルとなっている。閲覧座席数は、771 席である。

また、本学図書館は資料収集方針として、シラバス掲載の教科書や参考図書等のシラバス関連図書等を最優先で購入し、毎年更新することで、利用頻度が特に高い新刊書を整備する予定である。また、この方針は今後も継続していく予定である。さらに、今回開設予定の材料エネルギー学部に関連する分野、即ち材料科学、インフォマティクス等に関わる図書資料（雑誌を含む）は十分に整備されているが、材料科学やインフォマティクス、エネルギー関連技術の進展に対応すべく随時更新を進め、教育・研究環境の充実を図る。

さらに、図書館利用者の学習、教育及び研究の発展に資する目的で島根県立大学、松江工業高等専門学校、島根県立図書館、松江市立図書館及び出雲市立図書館をはじめとする県内図書館と連携して蔵書横断検索及び相互貸借システムを確立し、本館又は医学図書館の窓口を通じて各図書館から所蔵図書等を借り受けることができる。

本学所蔵の貴重資料の他、学外の個人や機関が所蔵する資料について許諾を得て電子化し、ホームページで閲覧できるデジタルアーカイブ・システムを構築している。

12.管理運営

(1) 学部長の選考

本学では、学部長候補者の選考は当該学部の教授会において行ない、面接等を経て学長が任命する形をとっているが、本学部の初代学部長に限っては、学長の直接の指名によるものとする。

(2) 学部の管理運営体制と教授会の役割

教学面における管理運営は、教授会が中心となっていなう。教授会は、本学部所属の専任教員全員で構成し、原則として毎月 1 回開催して、学生の入学、卒業、学位の授与等、学部の教育、研究及び運営に関する事項を審議する。

(3) 副学部長及び常置委員会

学部長による学部運営を円滑に進めるために、学部長の業務を補佐する学部長指名の副学部長を置き、学部長・副学部長からなる戦略企画会議を設ける。

加えて、本学部においては、学部長、副学部長、外部有識者を構成員とする学部経営会議を設ける。

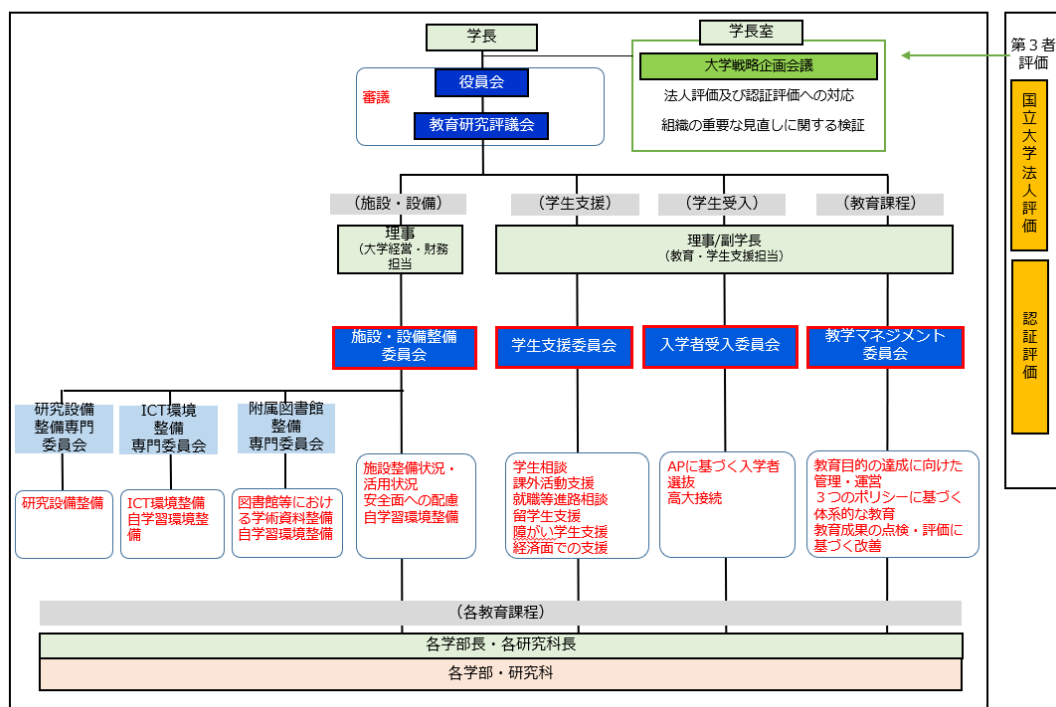
13.自己点検・評価

本学は、「内部質保証に関する規程」に基づき、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、それによってその質を自ら保証し、大学等の教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準について、継続的に維持、向上を図ることを目的とした全学的な体制を整備している。

例えば、教育課程の自己点検・評価に関しては、認証評価機関が定める評価基準に照らし、「島根大学アセスメントプラン」に定める項目により各部署責任者において実施しており、具体的な実施体制等の詳細は「内部質保証に関する全学的な体系図」のとおりである。

本学部においても、全学的な対応の中で、自己点検・評価を行うこととしている。

内部質保証に関する全学的な体制図



14.情報の公表

本学では、社会に対する説明責任を果たすとともに、本学の教育研究活動等の状況を分かりやすく公表するため、また、「学校教育法施行規則」等の一部改正による教育研究活動等の情報公開の義務化に対応するため、大学ウェブサイトに「教育情報の公表」ページを設置し、法令に対応した情報公開を行っている。下記の情報は、本学のホームページ（アドレス：<http://www.shimane-u.ac.jp/>）に掲載している。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- ⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 等）

教育職員の業績等については、教育・研究活動及び社会活動等の状況を学内外に広く発信するため、教員情報検索システム（<http://www.staffsearch.shimane-u.ac.jp/kenkyu>）により公表している。

また、自己点検・評価の結果を基に作成した「各事業年度及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書」と併せて国立大学法人評価に係る評価結果を公表している。

15.教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学が、教育目的を達成するために、卒業認定・学位授与の方針（DP）や教育課程編成・実施の方針（CP）、入学者受入れの方針（AP）に基づく体系的で組織的な教育を展開し、成果を、学位を与える課程共通の考え方や尺度に則って点検・評価し、もって教育に関する全学的な内部質保証を一元的に行うため、教学マネジメント委員会を設置し、FD・SD の高度化・実質化に関する活動を含め教育の質保証に係る活動を行っている。

具体的には、本学大学教育センターにおいて、教職員を対象に「教育の動向を知る」「教育の理論を理解する」などのFDセミナーの開催やより良い授業のために授業デザインや教育方法を身につける機会としてワークショップやランチョンセミナー、授業デザインワークショップやオンラインFD コースなどを開催し、教育の質の向上に向けて取り組んでいる。

さらに、平成 19 年度から教育面での実績に対する功労の評価、優れた実践の周知、また、教育方法及び教育技術の向上を目的として教育実践表彰を実施している。

SD についても、職員の資質向上と特定分野での専門性の向上を目的に英語研修の実施や資格取得に必要な経費支援を行う資格取得チャレンジ制度に基づく支援、一般職員研修としては、放送大学の授業科目「大学マネジメント論」等を毎年度 20 名程度が受講するとともに、階層別研修として、若手職員フォローアップ研修、中堅職員研修、課長補佐級・係長級研修、課長級・課長補佐級研修を実施している。

本学部においても、大学全体で行っているFD・SD 活動等に基づいて、教育内容等の改善を図るための組織的な研修等行っていく。

16.社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

全学共通教育科目としては、「大学生の就職とキャリア」をはじめとした社会人力養成科目群を設定して、学生の社会的・職業的自立に向けた教育の充実に努めている。

専門教育科目においては、アントレプレナーシップや事業化に向けた経営・設計・マネジメント関連を学ぶ「新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道」、「地域創生論」等の科目を配置し、産業振興に直結する社会実装教育を実施するとともに、企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習等を行う「新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り」、「企業実践プロジェクト演習」等も社会的・職業的自立に向けての実践的な訓練の場としても機能することになる。

(2) 教育課程外の取組について

全学的な取組としては、教育・学生支援機構大学教育センター（キャリア担当）が、島根大学で学ぶ高度で実践的な専門性を生かし、自身のキャリアをデザインする力を身につけるための「キャリアデザインプログラム」を設定しており、さらに就職支援のための各種のセミナー・ガイダンス・講座を開催している。

学部内では、就職内定者による就職体験発表会等、学生が積極的に参加して社会的・職業的自立を促進する各種の企画を予定している。

(3) 適切な体制の整備について

全学的には、学生の就職支援を担当する教育・学生支援機構大学教育センター（キャリア担当）が設置されている。また種々の身体的・精神的問題を抱えた学生を支援し、その社会的自立を促す保健管理センターが設置されている。

学部内では、指導教員による個々の学生指導のなかで社会的・職業的自立を促していくのはもちろんのこと、学生の社会的・職業的自立に向けての支援体制を構築する。

島根大学

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

参考資料 1	令和5年度 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増の選定結果…	1
参考資料 2	島根県の現状・課題…	3
参考資料 3	島根県の産業構造と発展の方向性…	4
参考資料 4	地方大学・地域産業創生交付金事業の取組…	5
参考資料 5	緊密な地域連携体制の構築と新学部の位置づけ…	6
参考資料 6	材料エネルギー学部の設置による地方創生…	7
参考資料 7	カリキュラムの特色…	8
参考資料 8	履修モデル…	9

令和 4 年 6 月 1 0 日

**令和 5 年度 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増
の選定結果をお知らせします**

令和 5 年度の魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増について、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増に関する審査会」における審査を踏まえ、以下のとおり決定いたしましたので、お知らせします。

1. 定員増の概要

魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学における定員増は、大学が地域貢献の役割や自らの存在価値を自覚し、地方公共団体、地元産業界、他の公私立大学等を巻き込んだ上で、地域のニーズを踏まえた大学の特色と強みを最大限に生かした取組を通じ、地方創生に資する魅力ある地方大学の実現のために、特例的かつ限定的に実施することとしております。

今回、選定結果を公表する令和 5 年度の定員増については、令和 3 年 1 2 月 1 0 日付けで各国立大学法人宛に公募を行い、4 月 1 5 日〆切で取組構想の申請を受け付けました。

2. 申請件数 : 5 大学 5 件

3. 審査結果（選定件数） : 3 大学 3 件（別紙のとおり）

4. 審査状況

各申請内容について、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増に関する審査会」において審査（ヒアリング審査）を実施。

<別添 1> 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増に関する審査会 委員一覧

<別添 2> 令和 5 年度 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増 公募要領

<担当> 高等教育局国立大学法人支援課
課長補佐 石川 真理（内線 3337）
支援第 4 係 市橋 範之（内線 3754）
電話 : 03-5253-4111（代表）

令和5年度 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増 選定一覧

整理番号	大学名	取組構想名	対象学部・学科名	令和4年度 入学定員 (人)	令和5年度 入学定員 (人)	増加数 (人)	備考 ※審査の結果、定員増が認められた部分について下線を付す
1	島根大学	材料エネルギー学部による産業変革先導拠点の創出 ～“マテリアル・イノベーション”人材養成を起爆剤とした 大学改革・エネルギー変革・島根創生の実現～	材料エネルギー学部 材料エネルギー学科 (仮称) 【新設】	0	80	80	・増加数 [80人] の内訳 定員増 <u> </u> : 40人 学内措置 : 40人
2	広島大学	広島が牽引する「デジタル田園都市国家構想」 ～DX推進人材が切り拓く地方創生～	情報科学部 情報科学科 【既設】	80	150	70	・増加数 [70人] 内訳 定員増 <u> </u> : 50人 学内措置 : 20人
3	徳島大学	次世代ひかりトクシマ若者雇用創出計画 ～『医光/医工融合人材』が切り拓く新たな地方創生～	理工学部 理工学科 【既設】	595	625	30	・増加数 [30人] 内訳 定員増 <u> </u> : 30人 (令和7年度以降、学内措置で▲15人を実施)

島根県の現状・課題

人口減少・少子高齢化、若者の県外流出による**生産年齢人口の減少**が最大の課題。
県内に2大学しかなく収容力不足。工学系は島根大学のみ。

現状・課題

- 2020年の人口は約67万人（約30年間で▲10万人）
2021年も▲6,319人（約1%減）
- 2021年の15歳～64歳の生産年齢人口は約35万人と年々減少
特に15歳～24歳の若者が進学や就職を機に県外へ流出
【社会増減 ▲1,616人】



企業の労働力不足 **地域の持続可能性**
 深刻な課題

- 産業構造は脆弱
 （県内に本社を置く上場企業は3社のみ。県内企業の99%が中小企業）

強み・特色

- たたら製鉄を源流とする鉄鋼業等の素材産業
 （開発・加工技術）に強み

対策

地方版総合戦略「**島根創生計画**」（2020-2024）

○目指す将来像

「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」



⇒ **2030年までに社会増減の均衡を目指す**

基本目標Ⅰ **活力ある産業をつくる**

- ものづくり・IT産業の振興
- 産業の高度化の推進
- 成長を支える経営基盤づくり

基本目標Ⅳ **島根を創る人をふやす**

- 学校と地域の協働による人づくり
- 地域を担う人づくり
- 若者の県内就職の促進

高等教育機関の現状・課題

収容力不足

県内の高校

R2 大学進学
2,722人

卒業生 5,949人

県内の大学

入学定員
1,617人

4年制大学は2大学のみ
（私立大学はない）



国立大学法人
島根大学

うち工学系154人



公立大学法人
島根県立大学

うち工学系 0人

**毎年1,000人を超える
社会減を生む構造**

✓ **今後の18歳人口減を考慮しても収容力不足は顕著**

学校基本調査より2032年の18歳人口を推計 → 5,662人
 進学率を42%（R2実績）とした場合の進学者 → 2,378人
 ⇒ 入学定員1,617人に対して761人不足（収容率68%）

✓ **工学系の定員は154人と近隣大学と比べ少ない**

島根大学	鳥取大学	岡山大学	広島大学	山口大学
154	450	610	445	530

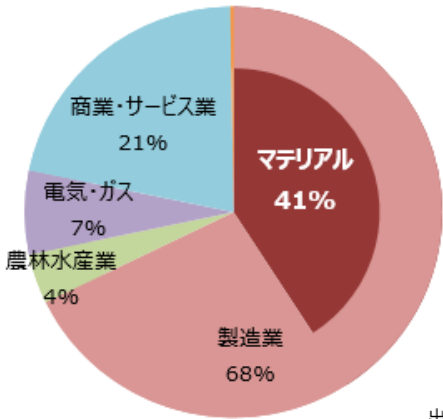
⇒ **島根創生「ものづくり産業の振興」に必要な工学系人材が不足**

島根県の産業構造と発展の方向性

産業構造の変化が進む中、地域経済の発展のためには、本県の強みであるマテリアル関連産業（素材+加工）を軸とした**研究開発力の強化と高度専門人材の確保・育成が必須**

島根県の産業構造

外貨獲得シェア（島根県）
（移輸出額構成比）

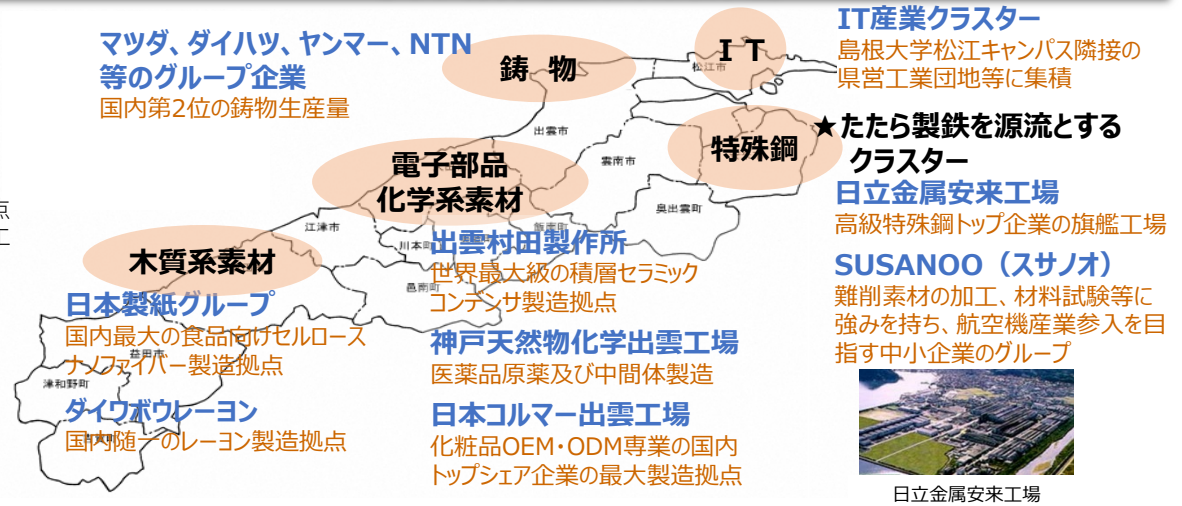


- マテリアル関連産業**
- ・ パルプ・紙
 - ・ 化学・プラスチック
 - ・ 鉄・粗鋼・非鉄金属
 - ・ はん用・生産用・業務用機械
 - ・ 電子デバイス・電子部品
 - ・ 自動車・船舶部品

出典：H27産業連関表（R2公表）

マテリアル関連産業は、域外から「外貨」を獲得する主要産業として県経済を牽引

ものづくり関連産業の集積状況

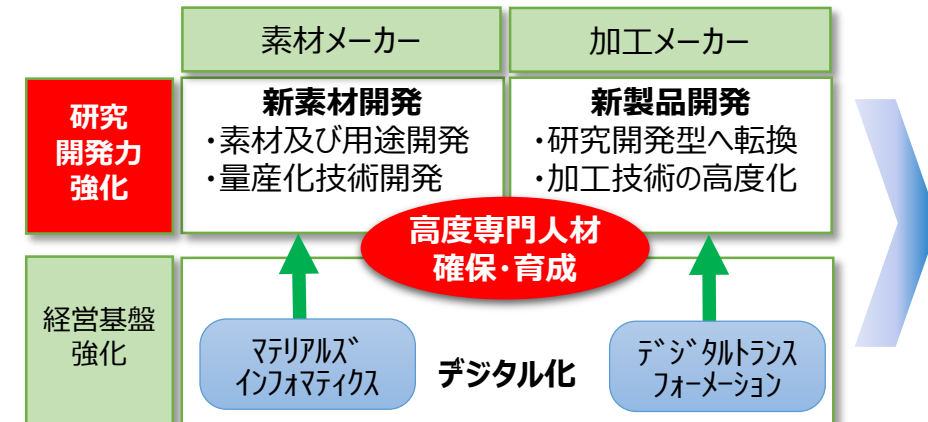


産業分析と施策の方向性

【方向性】

産業構造変革に対応する成長分野進出、事業転換を促進

<p>■強み 素材産業、素材加工等の関連産業が集積</p>	<p>■弱み 多くの中小企業が下請型で製品開発力が不十分</p>
<p>■機会 脱炭素化進展等による成長市場の拡大</p>	<p>■脅威 EV化等脱炭素化による産業構造の変革</p>



【ターゲット市場】

- 航空機・エネルギー**
・ 高効率航空機エンジン
・ 電動航空機
・ 風力発電
・ 蓄電池 等
- モビリティ・物流**
・ 電気自動車
・ 燃料電池・水素自動車
・ ドローン
・ 空飛ぶ車（eVTOL） 等
- 半導体・情報通信**
・ 半導体製造装置
・ DX関連機器 等
- 医療・バイオ等**
・ 医療・ヘルスケア
・ 木質系バイオ素材（CNF等） 等

地方大学・地域産業創生交付金事業の取組

内閣府交付金事業「たたらプロジェクト」により、世界に通ずるオンリーワンの研究開発・産業振興を産学官の総力を挙げて推進

島根県「先端金属材料グローバル拠点の創出 - Next Generation TATARA Project -」



知事の主導による産学官金の緊密な連携の下、地域の資源・特性を活かし、「先端金属材料の中心地『島根』」を創出（独フラウンホーファーモデル）

【島根大学】金属材料（超耐熱合金、アモルファスリボン）に関するトップレベル研究の実践と地域産業が求める高度専門人材の育成

改革 「次世代たたら協創センター(NEXTA)」の設置

センター長：ロジャー・リード教授（オックスフォード大学）

- 航空機産業PJ
- モーター産業PJ
- 人材育成PJ

改革 トップレベル研究・教育の実践

- ・オックスフォード大学との共著論文4件
- ・オックスフォード大学教員陣の授業による世界最先端のグローバル教育（R4～5科目へ増）



改革 大学運営体制の強化

- ・日立金属(株)から非常勤理事を登用
- ・日立金属(株)からクロアポ等による研究者の受け入れ

人材供給・研究成果

好循環を創出

共同研究・人材育成支援

【特殊鋼産業クラスター】

日立金属株式会社
関連企業グループ SUSANOO 等

【航空機産業PJ】

新素材開発（超耐熱合金）
大型エンジン部品国産化



【モーター産業PJ】

高効率モーターコアの開発



【松江高専】

- ・金属加工専門人材育成
- ・単位互換による連携教育
- ・島根大学大学院への進学促進

連携

オックスフォード大学

- 東京工業大学
- 岐阜大学
- 熊本大学

連携・支援

**企業との共同研究
事業規模の拡大**

（たたらプロジェクト関連）

125,607千円 ⇒ 268,700千円
(R1) (R3)

地元企業等との共同研究に発展

**地域のオープンイノベーション
拠点として発展**

R3年4月 新研究棟が供用開始
企業ラボスペースを設置し2社が利用
地元企業の研究開発型への転換を促すため、「NEXTAフォーラム」をR3から開設し連携企業を拡大（5回開催、250名参加）

**高大連携の取組による
ものづくりへの関心喚起**

リード教授による高校向け特別講義（R1：200名 R2：98名）
高校生に対する5日間の金属工学実習プログラム（R1：19名 R3：17名）
⇒ 5名が総合理工学部へ入学（R1）

県内への人材供給

プロジェクト関連授業の受講生の県内製造業等へ就職実績 50名（H30～R3累計）

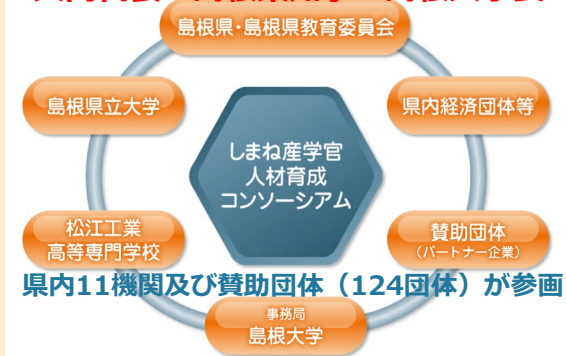
緊密な地域連携体制の構築と新学部の位置づけ

知事のリーダーシップとともに、地域の産学官金が一体となった**地域連携プラットフォーム**により、「ステークホルダー」一体型の運営・サポート体制を構築

■しまね産学官人材育成コンソーシアム

(2020年3月設立)

共同代表：島根県知事・島根大学長



✓産学官一体で地域を支え、地域で活躍する人材の育成と県内定着を目指す！

✓産学官による対話・課題等の共有・発信

県内就職率
のさらなる
向上

若者の育成と定着
に向けた意
識・理解の共有

人材供給
県内定着
リカレント
教育

企業の求める
人物像提示
理系人材の育成供給
インターンシップ
プログラム提供

島根県版高等教育のグランドデザイン

産学官により高等教育の教育指針を共有

島根の未来を拓く
地域に定着するSTEAM人材の育成

島根の持続的発展を支える新たな人流を
創り出す**島根大学における「定員増
による工学系新学部の設置」**を明示

高度専門人材輩出

先端素材の
研究成果

共同研究 人材派遣

島根大学
材料エネルギー学部

学部経営会議

外部有識者が
学部運営に参画

産業界の
ニーズ集約

プロジェクト外・研究
テーマ提案

エネルギー戦略を基に
参入する成長分野や
共同型のプロジェクト
を協議・実践

■しまね先端金属素材拠点創出会議

(2018年7月設立)

先端金属素材のグローバル拠点形成に向けた
産学官金連携コンソーシアム

✓**県知事が議長**、県教育委員会、島根大学、日立金属、松江高専、島根県鐵工会、山陰合同銀行の代表者等が参画

✓島根県の強みである「特殊鋼関連産業」と島根大学等が連携して研究開発・人材育成を行い、「航空機」、「モーター」産業での事業拡大を実現し、先端金属素材の生産拠点を創出

■島根大学しまね産業振興会議

(2022年設立予定)

島根大学の知を活用した島根創生・産業振興に関する
コンソーシアム

✓**県内経済7団体**(商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会、経済同友会、経営者協会、中小企業家同友会、JAしまね)の代表と**島根大学**(学長、常勤理事、副学長)が参画

✓**県内産業界のニーズ**を吸い上げ、技術移転・企業育成等について協議

人材定着と産業振興の好循環

材料エネルギー学部の設置による地方創生

エネルギー課題を材料科学分野から理解し解決を目指すとともに、
県内産業にテクノロジープルのイノベーションを起こし、島根創生に貢献

学生需要

- ・材料エネルギー学部への入学意向
※島根県内高校生対象のアンケート調査より（2022年3月実施）
現3年生の回答者639名中53名が入学意向あり
アンケート回収率は11%のため、さらなる需要が見込める
→県内からの本学部への進学者を30名と想定すると、
2倍以上の需要見込

国の戦略

- ・**マテリアル革新力強化**
産学官共創による迅速な社会実装、データ駆動型研究等の加速
- ・**革新的環境イノベーション戦略**
エネルギー転換（再生可能エネルギーの主力電源化）
自動車・航空機等の電動化の拡大と環境性能の大幅向上
- ・**グリーン成長戦略**
2050年カーボンニュートラルの実現
→バイオものづくり強化
- ・**成長戦略・重点投資分野（新しい資本主義実現会議）**
量子技術・AI技術・次世代医療・バイオ・クリーンエネルギー

素材力を活かした 特殊鋼産業の高度化

超耐熱合金
→航空エンジン主要部材
アモルファス合金箔
→省エネモーターコア

次世代たたら
協創センター

総合理工学部

医学部

7

地方創生

大学改革

エネルギー
変革

マテリアル起点の
製造業DXを推進

エネルギー戦略を
ベースに
革新的素材開発・研究

エネルギー課題を解決するための
素材の高効率化、高性能化を図る
研究開発とそれを推進する工学系
の高度専門人材を育成する先鋭的
な学部形成により地方創生を実現
するロールモデルへ

材料エネルギー学部

学部定員80名

3年次編入学定員5名

マテリアル

先端金属材料

ナノ・機能性材料

バイオマテリアル

コンピューティング

プログラミング・AI
データエンジニアリング
シミュレーション

エネルギー戦略



▶養成する人材像

- ・世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材
- ・材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材

数理・データサイエンス
教育研究センター

オープンイノベーション
推進本部

カリキュラムの特色 ~マテリアル起点の社会実装教育~

身に付く能力

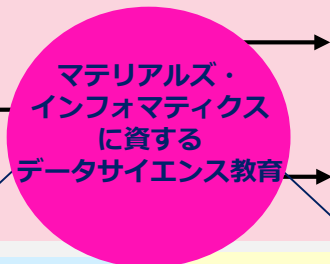
エネルギー課題を俯瞰的に理解し、材料工学分野の知識・技能を身につけ新材料の研究開発を先導することができる

IoT・データ活用技術を習得し、材料工学分野を始め広く応用することができる

国際的な動向を認知し、広い視野、教養と協調性により、多様な人とコミュニケーションを取ることができる

未知の課題に粘り強く取り組み、デザイン力をもって、創造的に解決策を見出すことができる

地域課題を理解し、身につけた知識・技能を地域貢献に活かすことができる



マテリアルズ・インフォマティクスに資するデータサイエンス教育

- データサイエンス データから意味を読み解き現場にフィードバックできる実践力
- AI AIを活用し課題解決につなげる手法の理解

“材料科学を深化させるツールの修得”

材料科学の専門知識

- ・先端金属材料
- ・バイオマテリアル
- ・ナノ・機能性材料
- ・エネルギー

“企業ニーズを踏まえた主体性の学び”

社会実装を見据えたプロジェクト型演習

産業振興に直結する社会実装教育

松江市
スタートアップエコシステム

連携

新事業創出などに必要なアントレプレナーシップ教育

事業化に向けた経営・設計・マネジメント関連科目

企業インターンシップ
企業との合同コンペ
(正課外活動も展開)

- 企業の実課題を題材にしたチームプロジェクト演習
- ・素材開発提案プロジェクト
 - ・社会課題分析プロジェクト
 - ・ビジネスモデル提案プロジェクト

連携

地域産業界

連携

大阪大学
滋賀大学



- ・徹底したプログラミング演習
- ・機械学習のための基礎的なデータ処理技術の修得



オックスフォード大学
ヘルシンキ大学



連携

グローバルな感性を養い専門性を高める海外大学との連携教育

- ・海外連携大学による授業実施
- ・英国・フィンランドなど欧州での教員・学生交流実施
- ・学部開講科目を英語で実施

島根県や県内企業との連携による実践ベースの学び

高い実用性を追求する実践力重視のプログラムを提供

履修モデル①

想定する進路:企業(鉄鋼・金属関係)

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通教育科目	英語ⅠA 初修外国語 数学基礎Ⅰ 数理・データサイエンスへの誘い 情報科学 基礎物理・化学 健康・スポーツ/文化・芸術	英語ⅡA 英語ⅠB 数学基礎Ⅱ	英語ⅡB	英語ⅢA(English Interaction)	英語ⅢB(English Presentation)			
専門教育科目	材料エネルギー概論Ⅰ、Ⅱ 材料を学ぶための基礎物理 材料を学ぶための基礎化学	材料物理化学基礎 行列と行列式 プログラミング マテリアルズ・インフォマティクス基礎 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 材料系エンジニアのためのエネルギー概論 材料科学から社会を見る	基礎学生実験 材料組織学 材料力学 材料物理化学 有機材料化学 無機固体材料化学 データ構造とアルゴリズム 確率・統計 カーボンニュートラル社会のための材料学	学生実験Ⅰ 材料評価学 鉄鋼材料学 材料強度学 高分子材料化学 セラミックス化学 経年損傷と材料の科学 IoT・コンピュータ入門 情報論 エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学 地域創生論 MOT・技術者倫理概論	学生実験Ⅱ 資源循環化学 機能材料学 実用金属材料学 化学工学 粉体材料化学 熔融加工学 マテリアルズ・インフォマティクス応用 相平衡の熱力学と状態図入門 機械学習 情報セキュリティ 材料系エンジニアのための経済事情論 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り	卒業研究Ⅰ 溶接・接合工学 塑性加工学 腐食防食学 外書講読 未来を支えるエネルギー技術	卒業研究Ⅱ 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	卒業研究Ⅲ
	マテリアル系	データサイエンス系	グローバル系	社会実装教育	プロジェクト型演習	※ 二重枠囲みは基盤科目、太字科目は必修科目		

履修モデル②

想定する進路: 企業(化学・素材関係)

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学共通教育科目	英語ⅠA 初修外国語 数学基礎Ⅰ 数理・データサイエンスへの誘い 情報科学 基礎物理・化学 健康・スポーツ/文化・芸術	英語ⅡA 英語ⅠB 数学基礎Ⅱ	英語ⅡB	英語ⅢA(English Interaction)	英語ⅢB(English Presentation)			
専門教育科目	材料エネルギー概論Ⅰ、Ⅱ 材料を学ぶための基礎物理 材料を学ぶための基礎化学	材料物理化学基礎 行列と行列式 プログラミング マテリアルズ・インフォマティクス基礎 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 材料系エンジニアのためのエネルギー概論 材料科学から社会を見る	基礎学生実験 材料組織学 材料力学 材料物理化学 有機材料化学 無機固体材料化学 データ構造とアルゴリズム 確率・統計 カーボンニュートラル社会のための材料学 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り	学生実験Ⅰ 材料評価学 鉄鋼材料学 材料強度学 高分子材料化学 セラミックス化学 IoT・コンピュータ入門 情報論 エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学 地域創生論 MOT・技術者倫理概論	学生実験Ⅱ 資源循環化学 機能材料学 実用金属材料学 化学工学 粉体材料化学 先端有機材料化学 無機化学 分析化学 高分子化学 生体材料学 生命工学概論 マテリアルズ・インフォマティクス応用 相平衡の熱力学と状態図入門 機械学習 情報セキュリティ 材料系エンジニアのための経済事情論	卒業研究Ⅰ 材料電気化学 環境浄化材料概論 材料工学のフロンティア 外書講読 Introduction for polymer colloids and interfaces 未来を支えるエネルギー技術	卒業研究Ⅱ 海外研修	卒業研究Ⅲ
	マテリアル系	データサイエンス系	グローバル系	社会実装教育	プロジェクト型演習	※ 二重枠囲みは基盤科目、太字科目は必修科目		

島根大学
材料エネルギー学部 材料エネルギー学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1)	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①	学生の確保の見通し	1
ア	定員充足の見込み	1
イ	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
ウ	学生納付金の設定の考え方	4
②	学生確保に向けた具体的な取組状況（予定）	4
(2)	人材需要の動向等社会の要請	5
①	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	5
②	社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	5

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

本学が新たに設置を計画している材料エネルギー学部（以下、「本学部」とする）の入学定員設定にあたっては、本学総合理工学部の志願実績、近隣地域の志願動向、高校生へのアンケート調査結果を総合的に判断し、80名の入学定員（3年次編入学定員5名）を設定することとした。

(本学におけるこれまでの入学実績)

表1-1、1-2のとおり、本学部に関連する現行の総合理工学部物理・マテリアル工学科及び物質化学科の志願倍率は、改組を行った2018年度以降は2.9倍以上と、問題なく志願者を確保できている。また、総合理工学部の定員充足率は103%であり、適正な規模で学生を確保できている。これまでの本学入学実績を踏まえれば、学生確保は十分に可能であると考ええる。

加えて、本学部では3年次からの編入学を受け入れる。定員は5名を予定しており、受け入れにあたっては、高等専門学校や短期大学を卒業または卒業見込みの者に限らず、大学既卒者や4年制大学在学者も含むものとし、多様な進路選択の可能性を提供する。3年次編入学定員の設定については、表1-3、1-4のとおり、これまでの本学既設学部における志願者等の実績を踏まえ、過去4年間の平均志願倍率は全学部で約4倍、総合理工学部でも約5倍であり学生確保は十分に可能であると考ええる。

表1-1) 島根大学総合理工学部学科別志願者数の推移

(前期日程、後期日程、特別入試のすべての入試の合計)

学科名	入学定員	志願者数(人)			
		2019	2020	2021	2022
物理・マテリアル工学科	73	219	320	240	210
物質化学科	73	247	308	217	209
地球科学科	50	153	277	147	136
数理科学科	50	159	392	166	154
知能情報デザイン学科	50	213	153	297	139
機械・電気電子工学科	64	185	309	195	282
建築デザイン学科	40	173	174	126	116
総合理工学部 計	400	1349	1933	1388	1246

表1-2) 島根大学総合理工学部学科別志願倍率の推移

(前期日程、後期日程、特別入試のすべての入試の合計)

学科名	入学 定員	志願倍率			
		2019	2020	2021	2022
物理・マテリアル工学科	73	3.0	4.3	3.3	2.9
物質化学科	73	3.3	4.1	2.9	2.9
地球科学科	50	3.0	5.5	2.9	2.7
数理科学科	50	3.2	7.8	3.3	3.1
知能情報デザイン学科	50	4.1	2.8	5.8	2.8
機械・電気電子工学科	64	2.8	4.7	2.8	4.4
建築デザイン学科	40	4.3	4.2	3.1	2.9
総合理工学部 合計	400	3.3	4.7	3.4	3.1

表1-3) 島根大学編入学入試志願者数の推移

学部名	募集 定員	志願者数(人)			
		2019	2020	2021	2022
法文学部	10	27	28	39	33
医学部	10	123	78	53	103
総合理工学部	12	37	33	43	126
生物資源科学部	15	33	33	44	37
合計	47	220	172	179	299

募集定員は2022年度の定員を参考記載

表1-4) 島根大学編入学入試志願倍率の推移

学部名	募集 定員	志願倍率			
		2019	2020	2021	2022
法文学部	10	2.7	2.8	3.9	3.3
医学部	10	6.2	7.8	5.3	10.3
総合理工学部	12	3.1	2.8	3.6	10.5
生物資源科学部	15	1.7	2.2	2.9	2.5
合計	47	3.5	3.7	3.8	6.4

募集定員は2022年度の定員を参考記載

(近隣地域の実績)

工学系学部における全国的な状況としては、近隣の類似学部として中国・四国地方の国立大学である鳥取大学、岡山大学、広島大学の志願状況は表2のとおり、約2倍を超えており、近隣地域においても需要があり、学生確保は十分に可能と考える。

表2) 近隣の国立大学工学系学部等への志願倍率の推移

大学・学部・学科名	入学 定員	志願倍率(※)			
		2019	2020	2021	2022
鳥取大学工学部	450	3.5	2.7	3.1	2.7
岡山大学工学部	610	1.9	2.0	2.0	1.9
広島大学工学部	445	2.4	2.2	2.3	1.7

※ 各大学HPより(志願倍率は一般選抜(前期日程)を記載)

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

受験生からのニーズを把握するため、島根大学新学部「材料エネルギー学部(仮称)」設置構想に係るアンケート調査を2022年3月に実施した。(別添資料1のとおり)

調査対象は、島根県内の高校46校とし、令和5年4月に大学進学する予定の高校2年生及び令和6年4月に大学進学する予定の高校1年生を対象とした。(対象者は11,451名(うち高校2年生は5,625名))

調査の結果、現3年生(アンケート回答時2年生)の回答者639名のうち53名が新学部への入学意向があった。なお、本アンケートの回収率は11%であったことを踏まえると更なる需要が見込めると考えている。

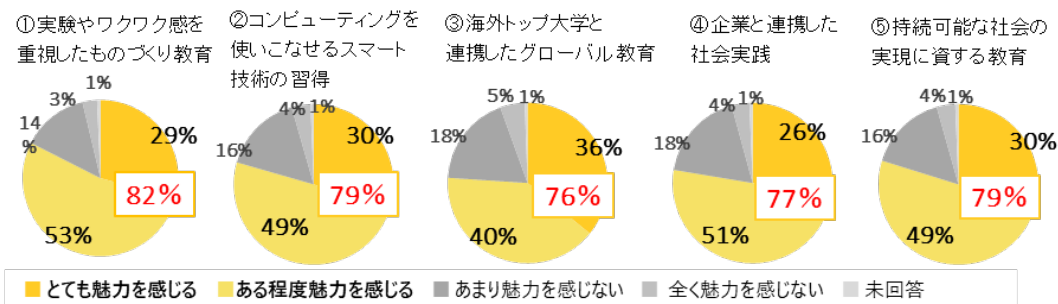
本学全体での県内入学者比率は約2割であり、本学部への県内入学者の比率を30%(24名)と想定したとしても2倍以上の需要見込みがあり、十分に学生確保が可能と考える。

加えて、本学部の教育内容に関する県内高校生のニーズについては、約8割が本学部の教育内容に魅力を感じると回答があり、十分に学生確保が可能と考える。

表3 新学部への県内高校生の進学希望者数(人)

	1. 進学したい	2. 条件があれば進学したい	3. 進学先の候補としたい	左記以外	1,2の合計
1年生	11	51	146	543	62
2年生	14	39	95	491	53

表4 新学部の教育内容に関する県内高校生のニーズ



ウ 学生納付金の設定の考え方

他の学部と同様に、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定）

新学部の学生確保にあたっては、以下①～⑦を中心に取り組む。

- ① 教職員による学校訪問
本学部の専任教員等が、島根県内はもとより進学実績をもとにした中国地方の高校を中心に、学校訪問し広報活動を行う。
- ② 県内高等学校長・進路指導教員等への説明
島根県内の高等学校長及び進路指導教員との意見交換を実施するとともに、新学部の広報を行う。
- ③ オープンキャンパス
8月に開催するオープンキャンパスにおいて、新学部の広報を行う。
- ④ 高校への出張講義、高校による大学訪問
本学の教員が高校等へ出向いて、あるいはオンラインにて講義を行う予定であり、当該講義も活用し、新学部の広報を行う。
- ⑤ SSH採択高校との連携事業
本学では、県内高校のSSH事業（益田高等学校、出雲高等学校、松江南高等学校）に対して、課題研究への助言・指導などの協力を行っており、当該連携事業も活用し、新学部の広報を行う。
- ⑥ しまね産学官人材育成コンソーシアム
島根県知事及び本学学長が共同代表にて取り組んでいる地域連携プラットフォームを活用し、新学部の広報を行う。
- ⑦ 各媒体による広報
本学HP、ツイッター等ソーシャルメディアや本学独自の広報誌（広報しまだい）等

も活用し、新学部の広報を行う。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

国により策定された「革新的環境イノベーション戦略」においては、世界のカーボンニュートラル及び過去のストックベースでのCO₂削減（ビヨンド・ゼロ）を可能とする革新的技術を2050年までに確立するための社会実装が目指されている。

この戦略の主要な取組である「エネルギー転換」の原動力は、製品を構成する材料・素材の高効率化、高付加価値化に帰着し、省資源化と脱炭素を両立する材料イノベーションが必至となっている。

このような緊急性の極めて高い国家的な重要課題に対応するため、材料エネルギー学部では、世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材の育成を行う。また、定員増にあたっては、島根の産業の強みである材料・素材分野に目を向け、マテリアル分野での産学官共創によるイノベーション創出に貢献するため、材料工学とインフォマティクスの知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材の育成を行うことを目的とする。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学部の設置の検討に当たっては、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」への申請・採択に向けて、島根県や県内産業界とも連携し取り組んできた。

島根県の産業構造の外貨獲得シェアの41%を占めるマテリアル関連産業は域外から「外貨」を獲得する主要産業として県経済を牽引している。産業構造の変化が進む中、地域経済の発展のためには、島根県の強みであるマテリアル関連産業（素材＋加工）を軸とした研究開発力の強化と高度専門人材の確保・育成が必須である。

さらに、ものづくり関連産業の人材不足が量的・質的に顕著であり、地元産業界からも高度専門人材の供給を求める声は多く、定員増及び新学部開設への期待は大きい。具体的には、島根労働局の職業安定業務統計では、県内のマテリアルやソフトウェアの研究・開発技術者について、年平均で218人が不足している状況であり、県内企業訪問調査等においても県内企業の複数社が研究開発部門の増強計画や工場・設備等の増設計画が進んでいるところである。

そのような中、島根県知事と島根大学長が共同代表を務める島根県の地域連携プラットフォームである「しまね産学官人材育成コンソーシアム」において「島根県版高等教育のグランドデザイン」を策定しており、当該グランドデザインの中に、島根県における工学系新

学部の必要性や将来構想を明確に位置づけている。

加えて、島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会、島根県経営者協会の代表から、別添資料2のとおり、工学系新学部設置に関する要望書を受領するなど、社会的、地域的な人材需要は十分であると考えている。

島根大学

材料エネルギー学部 材料エネルギー学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

別添資料 1	島根大学新学部「材料エネルギー学部（仮称）」設置構想に係るアンケート調査…	1
	（依頼）	1
	（アンケート）	2
	（パンフレット）	4
	（結果）	6
別添資料 2	島根県内経済団体からの要望書	7

令和 4 年 3 月 1 8 日

高等学校長 各位

国立大学法人島根大学長
服 部 泰 直

島根大学新学部「材料エネルギー学部（仮称）」設置構想に係る
アンケート調査について（依頼）

拝啓 貴校ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本学の教育と研究にご協力いただき厚くお礼を申し上げます。

島根大学では、社会や地域の要請に応え、より良い教育・研究を推進するため、令和 5 年度から工学系の新たな学部「材料エネルギー学部（仮称）」の設置を構想しています。

つきましては、貴校生徒の皆様のニーズを把握し、新しい教育組織の充実のために活用させていただきたく、下記の要領でアンケート調査を実施させていただきます。年度末のご多用の折、大変恐縮ではございますが、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

実施対象 2 年生（令和 4 年度新 3 年生）及び 1 年生（令和 4 年度新 2 年生）の生徒の皆様

実施方法 Web のアンケートフォームによる実施
（アンケート用紙に URL 及び QR コードを掲載しておりますので、アンケート用紙及びチラシを生徒の皆様に配付いただきますようお願いいたします。）

回答期限 令和 4 年 4 月 3 日（日）

【本件担当】

島根県松江市西川津町 1060

島根大学企画部企画広報課（長廻、青戸）

TEL：0852-32-6606、6605

Email：gad-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

国立大学法人島根大学

「材料エネルギー学部（仮称）」設置構想に関するアンケート

国立大学法人島根大学では、2023年（令和5年）4月より、新たな学部として「材料エネルギー学部（仮称）」の設置を構想しています。

このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお尋ねし、島根大学の教育や構想中の材料エネルギー学部（仮称）の内容をより充実したものにするための参考とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありませんのでご協力をお願いいたします。

※このアンケートや資料に記載された内容はあくまで予定であり、内容が変更になる可能性もあります。

（本件担当） 島根大学企画広報課 長廻，青戸

TEL：0852-32-6606, 6605 メール：gad-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

WEBの回答フォームからご回答をお願いします。

回答フォーム URL <https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/nlT5f1N9wF>



Q1 はじめにあなた自身についてお尋ねします。

以下のそれぞれの項目について、当てはまるものに○、又は()内に記入してください。

性別 (1つに○)	1. 男性 2. 女性 3. その他	学年 (1つに○)	1. 1年生 2. 2年生
高校名	() 高等学校		
所属クラス等 (1つに○)	1. 文系クラス(文系コース) 2. 理系クラス(理系コース)	3. コース選択はない 4. その他(具体的に：)	

Q2 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点でどのような希望を持っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けて下さい。)

- | | | |
|------------|-----------------|-----------|
| 1. 国立大学へ進学 | 4. 短期大学へ進学 | 7. 未定 |
| 2. 公立大学へ進学 | 5. 専門学校、専修学校へ進学 | 8. その他() |
| 3. 私立大学へ進学 | 6. 就職 | |

Q3 あなたは、現時点でどのような学問に興味がありますか。

(あてはまるものすべてに○を付けて下さい。)

※現時点で進学を希望されない方も、進学する場合を想定してお答えください。

- | | | |
|-----------|----------------------------|------------------------------|
| 1. 工学 | 7. 文学(歴史学、哲学等含む) | 13. 社会福祉学 |
| 2. 理学 | 8. 外国語学・国際関係学 | 14. 健康・スポーツ科学 |
| 3. 総合科学 | 9. 法学(政治学を含む) | 15. 生活科学(食物、栄養学、被服学、児童学等を含む) |
| 4. 農学・水産学 | 10. 経済学・経営学・商学 | 16. 教員養成・教育学 |
| 5. 医・歯・薬学 | 11. 社会学
(観光学、マスコミ学等を含む) | 17. 芸術学 |
| 6. 看護・保健学 | 12. 心理学 | 18. その他() |

※裏面へ続く

◆国立大学法人島根大学の新しい学部について、お聞きします。

※ここからは、「材料エネルギー学部（仮称）」のチラシを見てからご回答ください。

Q4 島根大学で新しく構想している「材料エネルギー学部（仮称）」には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。

（それぞれの特色について、あてはまる欄に1つ○を付けて下さい。）

特色		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	全く魅力 を感じない
①実験やワクワク感を重視したものづくり教育 最先端の研究設備で実験したり、研究者や企業の方と交流しながら、ワクワクするような“ものづくり”を学べます。	→	1	2	3	4
②コンピューティングを使いこなせるスマート技術の修得 データを活用して予測分析をしたり、最適な方法を見つけるなど、これからのデジタル社会で活躍できる力を身に付けます。	→	1	2	3	4
③海外トップ大学と連携したグローバル教育 オックスフォード大学（英国）などの海外トップレベルの研究者から授業を受けられるほか、充実した英語教育や海外大学への留学を通して、グローバルに通用するコミュニケーション能力を身に付けることができます。	→	1	2	3	4
④企業と連携した社会実践 工学系の基礎知識や技術を実社会でどう生かしていくかについて、企業見学や課題解決型の授業、インターンシップなどを通して、企業等の現場で学ぶことができます。実社会ニーズを反映したチーム・プロジェクトにより、コミュニケーション力や幅広い視野を身に付けることができます。	→	1	2	3	4
⑤持続可能な社会の実現に資する教育 SDGsの達成や脱炭素社会の実現に貢献するため、環境やエネルギー課題を理解する力を身に付けることができます。	→	1	2	3	4

Q5 あなたは、島根大学「材料エネルギー学部（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いものに1つ○を付けてください。

- | | | |
|----------------|---------------|--------------|
| 1. 進学したい | 3. 進学先の候補としたい | 5. どちらともいえない |
| 2. 条件があえば進学したい | 4. 進学したいと思わない | |

Q6 上記 Q5 で 2 と回答した方は、どのようなことを重視していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. 教育環境の充実 | 3. 就職支援の充実 | 5. 自分の好きな科目による
受験が可能
(科目) |
| 2. 経済的支援 | 4. 自分の専門分野以外にも
幅広く学ぶことができる | |

・・・質問は以上です。ご協力ありがとうございました。・・・

材料 エネルギー 学部

島根大学

[仮 称]

令和5年設置構想中

こんな人にオススメ

1 “ものづくり”の基礎を学び、
社会の発展に貢献したい。

2 実験を通して理論と実践を学び、
社会課題を解決したい。

3 環境問題への関心があり、
未来社会をよりよくしたい。

人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL:0852-32-6606 0852-32-6605



島根から先端をゆけ

材料 エネルギー 学部

島根大学

[仮 称]

COMPUTING / ENERGY / INNOVATION /
ENGINEERING / GLOBAL / DATA SCIENCE /
COMMUNICATION ABILITY / INFORMATICS /
PROJECT TEAM / BIO

[令和5年設置構想中]

島根大学×最先端工学「地域にイノベーションを起こす新学部の創設」

材料エネルギー学部 〔仮称〕

学部定員
100名
(予定)

大学の強みと地域特性である「素材」「材料」分野から、エネルギー課題や環境問題などの解決を目指します。

特色1 実験重視のワクワクする“ものづくり”

最先端の研究設備で実験をしたり、研究者や企業の方と交流しながら、ワクワクするような“ものづくり”を学べます。

特色2 海外トップ大学と連携したグローバル教育

オックスフォード大学(英国)などの海外のトップレベルの研究者から授業を受けられるほか、充実した英語教育や海外大学への留学を通して、グローバルに通用するコミュニケーション能力を身に付けることができます。

特色3 企業と連携した社会実践

島根では、産業界、大学、官公庁と連携した人材育成や研究開発が活発に行われています。工学系の基礎知識・技術を実社会でどう生かしていくかについて、企業見学や課題解決型の授業、インターンシップなどを通して、企業等の現場で学ぶことができます。



養成する人物像

グローバルな観点から地域の産業振興に貢献できるエンジニア

エネルギー課題を俯瞰的に理解し、脱炭素社会・SDGsの実現に材料分野で貢献できる人材

CURRICULUM

カリキュラムの特色

デジタル社会で活躍できるデータ活用技術



- ・データ処理基礎学習
- ・徹底したプログラミング演習
- ・AIやデータ活用に必要な実践的学習

国際社会に通用するコミュニケーションスキル



- ・英語による確かなコミュニケーション能力の習得
- ・オックスフォード大学など海外トップレベルの大学教員による授業

デザイン思考の学び



- ・起業家による体験談の講演
- ・デザイン思考・アイデア出し
- ・事業化に向けた経営、設計、マネジメント関連科目

材料・素材とエネルギーに関する学び



- ・未来を変える革新的な素材開発に向けた知識・技術の修得
- ・省エネ、カーボンフリー社会のための素材に関する学び

実社会ニーズを反映したチーム・プロジェクト演習

GRADUATION

卒業後

幅広い分野で活躍

工学系の基礎知識・技術やデータサイエンス・AIを使いこなせる人材は、多くの企業等で必要とされています。

● 企業

- › 化学・素材系
- › 鉄鋼・金属関連
- › IT・通信関連
- › 繊維関連
- › 製薬関連
- › 食品関連 ほか

● 新規事業立ち上げ

● 起業家や組織のリーダー

など幅広い分野で活躍することができます。

※記載の内容は現在計画中の予定であり、変更される可能性があります。

●新学部設置構想のアンケートについて

対象者 (島根県内の高校生)	回答者	回収率	
1年	5826	751	13%
2年	5625	639	11%
総計	11451	1390	12%

※学年は令和3年度末時点の学年

●教育の特色に関する項目

①実験やワクワク感を重視したものづくり教育

(最先端の研究設備で実験したり、研究者や企業の方と交流しながら、ワクワクするような“ものづくり”を学べます。)

	1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.全く魅力を感じない	未回答	総計
1年生	218	397	105	21	10	751
2年生	186	339	86	28		639
総計	404	736	191	49	10	1390
割合	29%	53%	14%	3%	1%	100%

②コンピューティングを使いこなせるスマート技術の習得

(データを活用して予測分析をしたり、最適な方法を見つけるなど、これからのデジタル社会で活躍できる力を身に付けます。)

	1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.全く魅力を感じない	未回答	総計
1年生	223	361	135	24	8	751
2年生	196	324	89	29	1	639
総計	419	685	224	53	9	1390
割合	30%	49%	16%	4%	1%	100%

③海外トップ大学と連携したグローバル教育

(オックスフォード大学(英国)などの海外トップレベルの研究者から授業を受けられるほか、充実した英語教育や海外大学への留学を通して、グローバルに通用するコミュニケーション能力を身に付けることができます。)

	1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.全く魅力を感じない	未回答	総計
1年生	265	305	139	34	8	751
2年生	233	254	117	35		639
総計	498	559	256	69	8	1390
割合	36%	40%	18%	5%	1%	100%

④企業と連携した社会実践

(工学系の基礎知識や技術を実社会でどう生かしていくかについて、企業見学や課題解決型の授業、インターンシップなどを通して、企業等の現場で学ぶことができます。実社会ニーズを反映したチーム・プロジェクトにより、コミュニケーション力や幅広い視野を身に付けることができます。)

	1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.全く魅力を感じない	未回答	総計
1年生	194	385	140	23	9	751
2年生	174	326	112	27		639
総計	368	711	252	50	9	1390
割合	26%	51%	18%	4%	1%	100%

⑤持続可能な社会の実現に資する教育

(SDGsの達成や脱炭素社会の実現に貢献するため、環境やエネルギー課題を理解する力を身に付けることができます。)

	1.とても魅力を感じる	2.ある程度魅力を感じる	3.あまり魅力を感じない	4.全く魅力を感じない	未回答	総計
1年生	219	366	128	29	9	751
2年生	204	320	92	23		639
総計	423	686	220	52	9	1390
割合	30%	49%	16%	4%	1%	100%

●あなたは、島根大学「材料エネルギー学部(仮称)」が設置された場合、進学したいと思いますか。

あなたの気持ちに近いものを1つ選んでください。

	1.進学したい	2.条件があれば進学したい	3.進学先の候補としたい	4.進学したいと思わない	5.どちらともいえない	(空白)	総計
1年生	11	51	146	297	236	10	751
2年生	14	39	95	319	172		639
総計	25	90	241	616	408	10	1390

島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会、島根県経営者協会の代表から、工学系新学部設置に関する要望書を受領（2022年3月）

貴学が構想している学部学生増員による「材料エネルギー学部（仮称）」を早期に設置いただきますよう、要望いたします。

我が国は、人口減少、少子高齢化、デジタル化による社会変革、エネルギー・環境問題、SDGs、脱炭素化の実現に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など多くの問題を抱えております。

島根県においては、若年層の就学・卒業、就業による県外転出が大きな課題となっており、貴大学をはじめとする高等教育機関や島根県、経済団体等で構成される「しまね産学官人材育成コンソーシアム」が一体となって課題解決の原動力になる人材の確保や育成に向かって動いております。

産業構造が大きな転換期にある中、わが国はもとより、世界的にみても特色ある、高い競争力を持った産業を育てていくことが強く望まれます。

当地域では、たたら製鉄の流れをくむ特殊鋼産業が県内製造業の付加価値額の2割以上を占める基幹産業として非常に重要な位置を占め、今も、航空産業など新たな分野への挑戦が続けられています。

こうした状況の中、貴大学において「材料エネルギー学部（仮称）」の設置準備が進められておりますことに大きな期待を寄せているところであります。

今後のSDGs達成や、脱炭素化社会の構築を見据え、材料科学分野を通じたエネルギー課題の解決や新産業・新事業の創出等において地域にとって役立つ研究を行い、その成果を地域に還元することが極めて重要になってきます。

その担い手となる高度専門技術者を育成していくことは、島根県の産業全体の発展とグローバルな市場競争に打ち勝っていくことに大きく寄与するものと考えております。

島根大学、とりわけその理系学部が存在意義を高め、地域の産業や企業とその課題を共有し、大学の専門的な研究による成果を地元企業に還元していくことは大きな使命です。そのためには、産業界と日常的に交流を深め、産学連携と研究者の育成強化を図っていくことが大変重要であると考えます。

つきましては、島根県の産業の振興、発展に寄与する「材料エネルギー学部（仮称）」設置を早期に実現されるよう、強く要望します。



令和4年3月25日

島根県商工会議所連合会

会頭 田部長右衛門



島根県商工会連合会

会長 高橋日出男



島根県中小企業団体中央会

会長 杉谷 雅



一般社団法人島根県経営者協会

会長 久保田一朗



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ハツリ ヤスナオ 服部 泰直 <平成27年4月>		理学博士		島根大学 学長 <平成27.4～令和6.3>

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(材料エネルギー学部材料エネルギー学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の職 務に 従 事 する 適 当 たり 平均 日 数
1	専任	教授 (学部長)	ミハラ ツヨシ 三原 毅 <R5年4月>		工学博士		材料エネルギー概論Ⅰ 実用金属材料学 材料系エンジニアのためのエネルギー概論 カーボンニュートラル社会のための材料学 エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 溶接・接合工学 塑性加工工学 腐食防食学 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 3前 1後 2前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 3後 3後 3後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 1 2 2 2 2 2 1 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 1 2 2	1 1	島根大学工学系 新学部設置準備 室 教授 (令4.4)		
2	専任	教授	モリト シゲカズ 森戸 茂一 <R5年4月>		博士(工学)		材料エネルギー概論Ⅰ 鉄鋼材料学 機能材料学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 材料科学から社会を見る 材料工学のフロンティア NEXTAセミナー Introduction to high-temperature materials 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2後 3前 1通年 3後 2前 2後 3前 1後 4通年 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 教授 (令1.5)		
3	専任	教授	ミヤモト ミツタカ 宮本 光貴 <R5年4月>		博士(工学)		材料エネルギー概論Ⅰ 材料を学ぶための基礎物理 材料強度学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根大学総合理 工学部 准教授 (平16.4)		
4	専任	教授	ササイ リョウ 笹井 亮 <R5年4月>		博士(理学)		材料エネルギー概論Ⅰ 材料エネルギー概論Ⅱ 資源循環化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 環境浄化材料概論 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1前 3前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根大学総合理 工学部 教授 (平21.12)		
5	専任	教授	タナカ ヒデカズ 田中 秀和 <R5年4月>		博士(工学)		材料エネルギー概論Ⅰ 材料物理化学基礎 化学工学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 粉体材料化学 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1後 3前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根大学総合理 工学部 教授 (平12.4)		
6	専任	教授	オハラ コウジ 尾原 幸治 <R5年4月>		博士(理学)		材料エネルギー概論Ⅰ 材料評価学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	公益財団法人高 輝度光科学研究 センター 主幹 研究員 (平22.5)		

7	専任	教授	シバハラ フミトシ 芝原 文利 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 有機材料化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 先端有機材料化学 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 1通年 3後 2前 2後 3前 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	岐阜大学工学部 准教授 (平15.4)	
8	専任	教授	モリモト ノブユキ 森本 展行 <R5年4月>	博士(学術)	材料エネルギー概論Ⅰ 高分子材料化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 生体材料学 Introduction for polymer colloids and interfaces 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 3前 3後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 1 2 2 4 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 工学研究科 准 教授 (平21.4)	
9	専任	教授	フジワラ トオル 藤原 融 <R5年4月>	工学博士	材料エネルギー概論Ⅰ データ構造とアルゴリズム 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 情報論 情報セキュリティ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 1通年 3後 2前 2後 3前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大学大学院 情報科学研究科 教授 (平14.4)	
10	専任	教授	ハセガワ トオル 長谷川 亨 <R6年4月>	博士(情報学)	材料エネルギー概論Ⅰ データ構造とアルゴリズム 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 機械学習 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 1通年 3後 2前 2後 3前 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪大学大学院 情報科学研究科 教授 (平25.4)	
11	専任	教授	シミズ(コウジナ) キヨコ 清水(神品) 希容子 <R5年4月>	博士(学術)	材料エネルギー概論Ⅰ 地域創生論 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 材料系エンジニアのための経済事情論 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 3前 2・3通年 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社日本政 策投資銀行 (平1.4)	
12	専任	教授	ヤシロ ケイジ 八代 圭司 <R8年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 無機固体材料化学 セラミックス化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 材料電気化学 未来を支えるエネルギー技術 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 3後 3後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 1 1 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学大学院 環境科学研究科 准教授 (平25.4)	
	兼任	准教授	ヤシロ ケイジ 八代 圭司 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 無機固体材料化学 セラミックス化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 材料電気化学 未来を支えるエネルギー技術 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 2後 1通年 3後 2前 2後 3前 3後 3後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 1 1 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
13	専任	准教授	ファム ホン アン Pham Hoang Anh <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ Materials Science 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1通年 3後 2前 2後 3前 2後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	島根大学総合理 工学部 助教 (平29.4)	

14	専任	准教授	サイ マサヒロ 崔 允寛 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 材料を学ぶための基礎化学 材料物理化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1前 2前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	岐阜大学工学部 助教 (令1.11)
15	専任	准教授	サワノ タカヒロ 澤野 卓大 <R5年4月>	博士(理学)	材料エネルギー概論Ⅰ 材料を学ぶための基礎化学 材料物理化学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1前 2前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	青山学院大学 助教 (令1.4)
16	専任	准教授	ツジ トシヒロ 辻 俊宏 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 材料力学 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 経年損傷と材料の科学 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 1通年 3後 2前 2後 2後 2後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学工学部 助教 (令16.4)
17	専任	准教授	クサカ タクヤ 日下 卓也 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ プログラミング 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ IoT・コンピュータ入門 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1後 1通年 3後 2前 2後 3前 2後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	岡山大学学術研 究院 准教授 (令4.4)
18	専任	准教授	エノキ マサノリ 榎木 勝徳 <R5年4月>	博士(理学)	材料エネルギー概論Ⅰ 材料組織学 マテリアルズ・インフォマティクス基礎 マテリアルズ・インフォマティクス応用 相平衡の熱力学と状態図入門 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 2前 1後 3前 3前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 1 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学多元物 質科学研究所 助教 (平28.4)
19	専任	講師	トイタ サヤカ 戸井田 さやか <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 生命工学概論 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1通年 3後 2前 2後 3前 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社Jiksak Bioengineering 研究員 (令1.6)
20	専任	助教	ヒロイ サトシ 廣井 慧 <R5年4月>	博士(理学)	材料エネルギー概論Ⅰ 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	公益財団法人高 輝度光科学研究 センター 博士 研究員 (令2.1)
21	専任	助教	フジサキ タカヤ 藤崎 貴也 <R5年4月>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北大学多元物 質科学研究所 特任研究員 (令3.11)

22	専任	助教	サカイ ユウタ 阪井 祐太 <R5.4>	博士(工学)	材料エネルギー概論Ⅰ プログラミング 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 情報論 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1後 1通年 3後 2前 2後 3前 2後 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	兵庫県立大学 大学院工学研究 科 助教 (令3.4)
23	専任	助教	トリウミ タクト 島海 拓都 <R5年4月>	工学修士	材料エネルギー概論Ⅰ 新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレプレナーへの道 外書講読 基礎学生実験 学生実験Ⅰ 学生実験Ⅱ 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 海外研修 企業実践プロジェクト演習 実践インターンシップ	1前 1通年 3後 2前 2後 3前 2・3通年 3後 4前 4後 3・4前後 3・4前後 3・4前後	2 2 2 1 2 2 2 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	筑波大学大学院 理工情報生命学 術院 博士後期 課程
24	兼任		オオタニ ヒロシ 大谷 博司 <R5年4月>	工学博士	材料組織学 相平衡の熱力学と状態図入門	2前 3前	2 2	1 1	豊田理化学研究 所 フェロー (令3.4)
25	兼任		アライ タク 新井 拓 <R5年4月>	博士(工学)	材料系エンジニアのためのエネルギー概論 エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学	1後 2後	2 2	1 1	(一財)電力中 央研究所 研究 参事 (昭63.4)
26	兼任		フルカワ タカシ 古川 敬 <R5年4月>	博士(工学)	カーボンニュートラル社会のための材料学 エネルギーシステムの持続的活用を実現する保全学	2前 2後	2 2	1 1	(一財)発電設 備技術検査協会 溶接・非破壊検 査技術センター 所長 (平10.4)
27	兼任		シミズ カズミチ 清水 一道 <R5年4月>	博士(工学)	溶融加工学	3前	2	1	室蘭工業大学理 工学部 教授 (平23.4)
28	兼任		ミナモト サトシ 源 聡 <R5年4月>	博士(理学)	マテリアルズ・インフォマティクス基礎 マテリアルズ・インフォマティクス応用	1後 3前	1 2	1 1	国立研究開発法 人 物質・材料 研究機構 主幹 研究員 (平27.2)
29	兼任		ミヤワキ マモル 宮脇 守 <R5年4月>	博士(工学)	新材料・エネルギー技術で新たな社会を作り上げるアントレ プレナーへの道 新材料・エネルギー技術を活かした事業化構想作り	1通年 2・3通年	2 2	1 1	東京大学 産学 協創推進本部 特任専門員 (平26.11)
30	兼任		TENHU Heikki Juhani <R5年4月>	ph. D in polymer chemistry	Introduction for polymer colloids and interfaces	3後	1	1	ヘルシンキ大学 理学部副学部長 (1998.8)
31	兼任		サトウ ユタカ 佐藤 裕 <R7年4月>	博士(工学)	溶接・接合工学	3後	1	1	東北大学工学部 教授 (平29.4)
32	兼任		オйкаワ カツナリ 及川 勝成 <R7年4月>	博士(工学)	塑性加工学	3後	1	1	東北大学工学部 教授 (平25.4)
33	兼任		ムトウ イズミ 武藤 泉 <R7年4月>	博士(工学)	腐食防食学	3後	1	1	東北大学工学部 教授 (H26.1)
34	兼任		キカワ ヒロユキ 北川 裕之 <R5年4月>	博士(工学)	機能材料学	3前	2	1	島根大学総合理 工学部 准教授 (平12.4)
35	兼任		オオ モトキ 太田 元基 <R5年4月>	博士(工学)	機能材料学 NEXTAセミナー	3前 1後	2 2	1 1	日立金属(株) 冶金研究所 主 任研究員 (平28.4)
36	兼任		Roger Charles Reed <R5年4月>	PhD	Introduction to high-temperature materials	4通年	2	1	オックスフォ ード大学 教授 (2013)
37	兼任		アラリ カズト 荒河 一渡 <R5年4月>	博士(工学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 教授 (令1.5)
38	兼任		シンジョウ ジュンシ 新城 淳史 <R5年4月>	博士(工学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 教授 (令2.4)
39	兼任		ヒラヤマ ナオミ 平山 尚美 <R5年4月>	博士(理学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 准教授 (令2.6)
40	兼任		ワカハヤシ ヒロキ 若林 英輝 <R5年4月>	博士(工学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 助教 (令2.9)
41	兼任		ヨシタ ヨシノリ 吉田 佳典 <R5年4月>	博士(工学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	東海国立大学機 構岐阜大学 工 学部 教授 (令2.4)
42	兼任		クワケ アスカ 香掛 あすか <R5年4月>	博士(工学)	NEXTAセミナー	1後	2	1	島根大学次世代 たたら協創セン ター 助教 (令4.3)
43	兼任		ミヨシ キョウカ 三好 清貴 <R5年4月>	博士(工学)	材料科学から社会を見る	1後	2	1	島根大学総合理 工学部教授 (平9.4)

44	兼担		ハンダ マコト 半田 真 <R5年4月>		理学博士		無機化学	3前	2	1	島根大学総合理工学部教授 (平20.7)
45	兼担		カカカ ユウスケ 片岡 祐介 <R5年4月>		博士(理学)		無機化学	3前	2	1	島根大学総合理工学部准教授 (令4.8)
46	兼担		ヤマギチ イサオ 山口 勲 <R5年4月>		博士(工学)		高分子化学	3前	2	1	島根大学総合理工学部教授 (平17.2)
47	兼担		スガハラ ショウゴ 菅原 庄吾 <R5年4月>		博士(理学)		分析化学	3前	2	1	島根大学総合理工学部講師 (平25.12)
48	兼任		スキエ シツロウ 杉江 実郎 <R5年4月>		理学博士		行列と行列式 確率・統計	1後 2前	2 2	1 1	島根大学 名誉教授 (令4.4)
49	兼担		キタムラ トシヒロ 北村 寿宏 <R5年4月>		博士(工学)		MOT・技術者倫理概論	2後	2	1	島根大学地域未来協創本部 教授 (平30.4)
50	兼担		ツジモト カズノリ 辻本 和敬 <R5年4月>		博士(工学)		MOT・技術者倫理概論	2後	2	1	島根大学 オープンイノベーション推進本部 准教授(令4.3)
51	兼担		カウ サダノブ 加藤 定信 <R5年4月>		博士(農学)		MOT・技術者倫理概論	2後	2	1	島根大学総合理工学部 准教授 (平19.6)

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	7人	1人	2人	1人	12人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	4人	2人	人	人	人	6人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	2人	1人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	2人	7人	9人	1人	2人	1人	22人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。